事業 No.	具体的な取組	条例の 条数	再掲	事業	事業概要	平成26年度実施状況	平成26年度 の達成度	平成27年度実施状況	平成27年度の 達成度	平成28年度実施状況	平成28年度の 達成度	3年間の成果と課題	3年間の自己評 価	平成28年度の所管 局	平成28年度の所管課
105 (7)	子どもの権利が保護されるよう、条例パンフ レットの配介の、研修、 の。機能会への機能が進考される。 またり、機能に対して子ど もの機能に対する信発を 行います。	17条	3	子どもの種利に関する条例(パンプレットの作成・ Birt)	祭師理解のためのパンフレット等をがす 休 中学校、製化を書いて、円面主義に包含 することにより、子どもいその理解を子ど もの種和についての認識を深めてもらう。	11月20日の「かわさき子どもの集和の日」 に合けは、哲学化にもがかりやすいマンガスの リーフレットを市内が学校を開催して40608 本部化に、また、第州レフレットを中 本部化に、また、第州レフレットを中 連盟は7207所に24.06988、番の豚人学生発 基階は7207所に24.06988、番の豚人学生発 基階は7207所に24.06988、番の豚人学生発 基門として1150で1500の形式の レット等の一角影形物の配差を快発点にて放射 した。	3	11月20日の「かりたき子どもの権利の日」 に合けは、哲学年にもかかりやれいマガスの リーフレットをかかり呼吸を管理にもかり リース・トライン では、 ・ のではない作権制等、 中ライン では、 最初的1970年により798年、 中ライン では 最初的1970年により798年、 中のイン の事態の信仰・分配とは、1970年、 中の を続いてフレット等の際により、特に予修 への際に対した時、 日本をの際により、特に予修 マルス・事業との事業を表し、 また、事業との事業を表し、 また、事業との事業を表し、 また、事業との事業を表し、 また、事業との事業を表し、 また、事業との事業を表して、 また、事業を表して、 また、事をまた。 また、事をまた。 また、事をまた。 また、事をまた。 また、事をまた。 また、事をまた。 また、事をまた。 また、事をまた。 また、事をまた。 また、事をまた。 また、事をまた。 また、また、また。 また、また、また、また。 また、また、また。 また、また、また、また。 また、また、また、また。 また、また、また、また。 また、また、また。 また、また、また、また。 また。 また、また、また。 また、また、また。 また、また、また。 また、また。 また、また、また。 また、また。 また、また。 また。 また、また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。	3	11月20日の「かれでき子どもの種類の目」に合わせ、低学年にも分かりや31ドップが、カリーフレットを向かり申収 学年にも分かりや31ドップが、カリーフレットを向かり申収 が開業。「大阪の258・一角を加え、大阪では、中本を はなしたに発わり・プリンドがは、かかりの数・表字等を はない。「大阪の158年の158年の158年の158年の158年の158年の158年の158年	2	■成果: 広報物として、新たにOVD・始本・4萬生用リーフ しまれるでは、た。気象やシテンエニングに合けなどに影响を 実施でしまった。 ないましまり、またが、1年間によっていました。 実施の一名様で、多が内の環境をといった。 は一名というない。 17-4をいるない。 17-4というないるいるい。 17-4というない。 17	В	こども未来局	两少年支援坚
106			4 42 295	子どもの権利に関わる講	子どもに関わる施設・市民グループ等にお ける研除会等に関わる洗達し、子どもの推利 についての広報・各州事業を推進する。	アとも会議合合や、市風部にて特集された市 同が対象の早和・人権参加などで、子とちよ人 や子ともに関わる市間に対し、子ともの権利を 中としたに関わる市間に対し、子ともの権利を 行うた。	3	子ども会議合物や市民総議係など、子ども本 人や子どもに関わる市民に対し、子とも非報 を中心とした内容に関かを派遣して領・音県 できた。中国化の年生区の地域発育協議にて子 どの神様に関する場合・指案合のかり、子どもの権利に関する場合・指案合のがあり、子どもの権利委員会の委員や受負長が応	3	子ども会議の定的会、合管やクリスマス会といった機会 や、市影響での呼呼・人様学器などの場合、そして市民企画 事業団による市民企業を開始に子ぐモネルや子とに関か 合作は、対し、子との場合を中心に分野で開始によった。 直接機能として指数するいが、こ、全際関等の会議者会用 にソフレット学を提供しており3名を30歳中した。 その後、男に次そどもの権利に関する行動計画に対するパ フェスの場所でも発展性のイント号に出向さ、多くの市 民に子ともの権利条例を占着した。	3	■成果・市民館や中民企画事業団体との連携により、子ども会議 や市民及が市成グループへの構造の機をを向て、子どもの権利に コルで広路できた。 ドイダとの単和に関連して・子どもの権利条例のDVDやマン ガスのリーフルットなど、広報課件を写像ことに使いづけ、子ど もの権利への理解をした。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	С	こども未来局	两少年支援至
107				保育圏だより	保育圏を利用する保護者や市民グループ等 ヘ子どもの権利についての意識の向上を図る ため、各種情報提供を行う。	入所等の保育期明会や棚除会などで、保護者 に対して人様・男女共同参画室が作成するパン フレットを配作するとともに、振要の原明を 行っている。	3	入所等の保質説明会や想談会等の準で、保護 者らに人権・男女共同診慮型が作成するパンフ レット等の応い。説明を行うなどし、子ともを 飼育する保護者らの「オイモの権利」に対する 思慮コけや連絡の促進者はかった。	3	信仰内部総合計画総合等の構立、信篷者に人様・男女人 開始機能が作成するパンプレット等の配称・開発を行うなど し、子どもを無解する保険者の「子どもの権利」に対する機 減づけや連絡の促進を扱った。	3	■威楽・毎年保護者に伝える機会を作ることで、「子どもの権利」についての保護をの業務を認めることができた。 利」についての保護をの業務を認めることができた。 ■「子ともの機能」に関連して、「子どもの権利」に関して共通 認識を持つことができた。 連盟・当今と組織して「子どもの場形」について伝えていく侵 会を作り、連絡を促進していく必要がある。	С	こども未来局	連営管理課
108			14	家庭‧地域教育学級、家 庭教育推進事業	教育文化会館や市民館、学校において、子 どもの理解や線の色観及び家庭環境や社会環 環境をかくる結問題についての学習報告の提供 や容易のためイントラを実施し、子ども の確全な成長と子どもの権利の理解促進をめ さす。	子どもの理解を深め、熱や家庭の位割を考えるとともに、報告主の関係作りを図る場である 「PIAを整数解析的」の関係へ同じて支援 は、数では、数では、数件文化を は、中国は、子等では、動物の関係などの「子育で 支援等発展して、で、整数解子支援機能」「家 促・地域教育学教」を行った。	3	子どもの理解を深め、報や専題の役割を考え るとともに、親同士の場所作りを包含地である ドア1人を建設有学能」の関係へ向けて支援 した。市民をで呼ばれば、京都文化会 版・市民族で呼ばればの周級などの「子育で 支援四角事業」や「東延・地域教育学能」を 行った。	3	子どもの理解を認め、額や家庭の資金を考えるとしてに 網立工の部件でも名を載できる「FF に考慮性解学を辿っ 開発へ創い支援し、「5日 女で簡単にな。建次、製造の 開発へ創い支援し、「5日 女で簡単にな。建次、製造の 会裁・作品数で子解でに認め時間などの「子育で支援登昇事 展」や「衰速」の機能を受ける。企業ラとの連携に ふる・変越が再事業を実施した。	3	■成果:子どもの理解が深まり、続や寒료の段割を考えるさっか けだなった。 ■「子どもの接触」に関連して:子どもを理解するに当たって は、子ともに終わがあることを知ってもらうことをのがれた。 単議等:実践を開えての出角であることから、原任事業に参 仮でさない接近へのアプローチを続ける必要がある。	С	教育委員会事務局	生涯学習推進課
109				PTA活動研修(教育文化会館·市民館)	・ 各部区や行政区の特色を活かしながら、子 ともの機やかな成長を支えるPTA 活動の更 なる活性化をともに 善える研修を行う。	PTA活動における各登機会の必動を考え、 他校との情報交換を行う所修会を各区で実施す るなど、PTA活動の支援を行った。	3	PTA活動における各意機会の投資を考え、 他校との情報交換を行う研修会を各区で実施す るなど、PTA活動の支援を行った。	3	PTA活動に対する各面自会の自動を考え、他校との情報で記憶を行う研修会を各位で実施するなど、PTA活動の支援を行うた。	3	■成果: PTA活動への理解を深め、各学校でのPTA活動を支援するすることができた。 選するすることができた。 ■「子どもの単純」に関連して・題材として戦り上げなかった が、第に国際をして戦り組んだ。 型理器・PTAの最似は単年度で交代していくため、超熱して支援 を行う必要がある。	С	教育委員会事務局	生涯学習推進課
110			16 103	平和·人権学習	教育文化会館・市民館において、共に生き 会場域社会の施造をかざして、平和や人種の 物重、子どもの種利に関する学習事業を実施 する。	戦争、障害、食の安全、子どもの権利などの テーマで、数層文化会館・市民能において、平 和・人権に関する調産を13講座開催した。	3	概争、障害、食の安全、子どもの権利などの テーマで、数算文化会館・市民能において、平 和・人権に関する調座を13調座開催した。	3	戦争、障害、我の安全、子どもの練習、子どもの権利など のデーマで、教教文化企館・市路能において、平和・人権に 国する課金を11課金利権した。	3	■成果・アとちを含めた人様の物理に関する学習を行い、共に生 るもの時代表の他部に務めた。 ドイナとの場所は、に関連して・子どもの種和条例の存在を知っ てもらは、子ともの人様によいて言えるような学習プロプラムを 部プル。 ■課題・引き締ぎ、平和や人様等に関する様々なテーマを取り上 げたいく必要がある。	С	教育委員会事務局	生涯学習推進課
111			2 7 19 254	子どもの権利に関する週間	「川崎市子どもの権利に関する週間」を中 他に、学知においては権利の学部を推進す る。また。これらの取組を保護者や地域柱民 に公開することにより、子どもの権利の理解 を地域に広める。	日頃の学校教育及び川崎市子ともの種利に関する側面、学館をさおして人権参加を向して する側面、学館をさおして人権参加を同じの また場合を心に、株参学を行った。また、 これらの歌鳴を指摘さればればればればれば、 どこの情ちの連絡を記載しなかた。	3	11月の川崎市子どもの権利に関する遺間」 を中心に、学校しおいては、権利の学習を指達 するために研修でで製造したの業務を認めた。 別 を透明して特殊についての警を実施した。 記、を課題や地域に見ばらびては、これ この観視を実施等では関することにより、 子どもの権利についての連絡を伝ぬされては、これ 子どもの権利についての連絡を伝ぬがた。	3	各学校において「子どもの接針に関する週間」を中心に基 特別各を実施できるよう。 研修会の業務を担して管理的に表 時の法を開いた。 川崎中でどの神能に取っる週間」を 内心に、権利の経験報告を活用した意思。 中級法院 所の機能がある。 一般を表現した。 を 中級者が 中級者が を を になっている。 一般者が を を になっている。 一般者が 一般者が になっている。 一般者が 一般者が 一般者が 一般者が 一般者が 一般者が 一般者が 一般者が	3	■成果:「子どもの権利に関する過程」を中心に適密など様々な 教科等で保護者・助性を取じ機と関することを追して、子ども の権制について健和を深めた。 ■「子どもの権利」に関連して、市内全校の担当者に研修を実施 は、子学との権利に関する同じ、日本のセデオとの権利が経済 対の活所を抵抗した。 理解』子との時候に関する過程についての理解を任めるた め、指導権の対象を指する過程についての理解を任めるた め、指導権の対象を指す。	С	教育委員会事務局	総合教育センター カリキュラムセンター
112 (8)	ガイドブックの配布等 による子育てに関する情 報提供や、各種相談事業 ③など、育ち・学ぶ原絵及 び関係機関において、子 どもの養育に関する必要 な支援を行います。	18条		かわさきし子育てガイド ブック	好産期から子どもが青少年期に至るまでの 様々な事業や制度を非常別、項目別に株式 打成子育でスプトプックを作成。 配かするこ とにより、子育てに関する情報を提供し、各 事業の利用促進を図ります。	子どもや子育てに関わる全市共通の基本的な 制度や施設を紹介する「かわさきし子育てガイ ドブック」を26,000の総行し、配布すること で、子育で世帯への情報提供を行うた。また 平成27年度から施行される「子ども・子育て 支援新制度」に対応するため、情報の代乗を 図った。	3	子どもや子育でに関わる全中共通の基本的な 制度や施設を扱かする「かわさきし子育でガイ ドブック」を26000回称行し、設布すること で、子育で世帯への情報提供を行った。また 平成27年度から施行された「子どち・子育て 支援制制度」に対応するため、情報の充実を 図った。	3	子どもや子育でに関わる合作片張の高半的な原常や協能を 紹介する「かわさきしょ者でガイドフック」を名ものが開 行し、配叩することで、子客で世帯への情報型地を行った。 また、新たな事業を掲載するなど、情報の充実を図った。	3	■成果:「かかさきし子育でガイトブック」を26.500部終行 し、他かすることで、子育で世本への情報技術を行った。 ピーマイとの中様に、回題して、子ぞのピーマースの一名本名 な物故で協定されかりやすくなるることができた。 理論: 3日始後、子育でガイドンクを持行・配印に、川崎市 の子育で関連機能・施設等について、子育で世帯への情報提供を 行っていくを変われる。	С	こども未来局	企画課
113			281	地域子育で支援センター 事業	地域に約16子育で支援を行う拠点として 地域子育で支援センターを運回し、報等の機 育を支援する。	旧公立が推薦の施設や、保育所の一番を活用した一般性と、ごとち次化センターを専用した 一般性の一般性を、ことち次化センターを専用した 連携の配離。そすな、市内計ら3の所で事業を実施した。 また、地域子育て支援センター事業の今後の 方的性について関係問題の検討を行った。この 成功、担当者のスキルアップのための前途を全 市で実施した。	3	旧公立幼稚園の施設や、保養所の一番を活用した。 北市・設立と、こども文化センターを活用した。 北市・設立と、こども文化センターを活用した。 実施した。 実施した。 また、地域子育で支援センター新年の今後の 万向性について関係部署の検討を行った。この 信外、担当者のスキルアップのための研修を全 市で実施した。	3	総公江や博都の施設や、保育所の一変を活用した一般型となっていませな。 これでは、大学・経路に、企業所造の貨幣をする。 中の計ない。 また、地球子解で支援センター事項の今後の方均性につい て実験経過機が終わらった。このはか、担当者のスキルアッ プのための研修を全市で実施した。	3	■成果:53か所で事業を実施し、在宅の子育て支援を行った。 ■「存べもの権利」に関連して、終子で安しして進んだり相談したりできる場所を提明した。 ■課題:3歳舎投資額などを検討し、支援の充実を認る。	С	こども未来局	企画課
114						幼用と保護者が交流できる機として、ことも 文化センターを提供し、地域における子育て支 接を行った。			3	が売く日曜者が終却に利用できる地が増として、定た、子 男で観光の次郎の地として、ことも文化センターを提供し、 地域における子を連絡行うととなる。子者で相談をにお いて子どもの権利について首角を行った。	3	■成果:子育て親子が発起こ利用、交流できる場の提供により、 対域の子育で支援を実施した。 ■「子ともの推制」に踏進して:子育で和談告において子ともの 権利について記号を行い、条例の周知を包含ことができた。 ■課題:引き詰き、子ともの権利が今られるよう。子育て教子へ の条例の周知、目标さを行いながら、子育て教授を振していく を扱わる。	С	こども未来局	青少年支援室
115			195	児童家庭支援センター事業	児童の福祉に関するさまざまな問題につい て、児童、ひとり教を載、その他の意味から の相談に応し、必要な助言・指導を行い、地 場の児童、変更の福祉向上を認る。	児童又は保護者からの相談に応じ、必要な助 言等を行ったほか、児福祉性級で実施してい る子育で知恵用事業(ショートステイ・テイ ステイ)の副監を行うなど、家庭の教育を女え る支援を実施した。	3	児童又は保護者からの相談に応じ、必要な助 名談場等を実施した。また、児童器性協定で実 版している子を江知時利用等。ジュートステ イ・デイステイ)の規程を行うなど、実経の費 育を支える支援を実施した。	3	戸屋又は保護者からの相談に向し、必要な助言指導等を実施 した。 大型器和拡配で実施している子育で知時利用事 また。 サートス・ディーの問題を行うなど、 受証 の裁判を必える交換を実施した。	3	■成果:子どもやその保護者からの相談に応じ、必要な助意用等 を実施するとともに、子育で加熱利用事業の必要な安意に対する 関係を名名な理解地に、 ■「子どもの推制」に関連して、支援が必要な楽型に対しては、 子どの加熱制でないり効は力を対象を実施した。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	С	こども未来局	児童零経支援・虐待対策室

各年度達成度=1:目標を大きく上回って達成 2:目標を上回って達成 3:目標をほぼ達成 4:目標を下回った 5:目標を大きく下回った 77 3年間の自己評価=A:目標を大きく上回って達成 B:目標を上回って達成 C:目標をほぼ達成 D:目標を下回った E:事業が廃止

事業 No.	具体的な取組	条例の 条数	再掲	事業	事業概要	平成26年度実施状況	平成26年度 の達成度	平成27年度実施状況	平成27年度の 達成度	平成28年度実施状況	平成28年度の 達成度	3年間の成果と課題	3年間の自己評 価	平成28年度の所管 局	平成28年度の所管課
116 (8)	ガイドブックの配布等 による子育でに関する情 報度性や、各種相談事業 ③など、育ち・学いが設設 文切観(新規)において、子 どもの養育に関する必要 な支援を行います。	18条	196	里親競賽相互援助事業	距線型土の相互交流を定線的に行うことに より、情報を強や機能技術の相上を含るな よ、子どもが健やかに成長できる環境を指摘 する。	里頼支援機関と協力し、目的別の里頼両士の 相互支流の機名を設けることで、養育技術の向 上を包った。	3	聖親支護権関と協力し、自然別の軍務官士の 相互交流の確会を設けることで、養育技術の向 上を図った。	3	国民支援機関と協力し、目の別の意義を主の相互交流の機会を設けることで、機関技術の内上を紹った。	3	■成果・銀販売上の相互交換により当事者の総分や不安の共有 と、簡単技術の集め合いができた。 ■「オイケの権利」に関連して、相互交流により電報が協分を含 えたます安定した機能をよくして、相互交流によりるを表したで、 えたます安定した。現場できるようとすることができた。 「本記書」を担めて、「大田・「大田・「大田・「大田・「大田・「大田・「大田・「大田・「大田・「大田・	С	こども未来局	こども保健福祉課
117			192	子育で短期利用事業	所護福祉機能等の護障機能や地域の直接を 予制し、環境性の原体、出産者により発動に 対対・機構が使う。 指かり、機構支援を行う。 オルウム・機構支援を行う。	保護者からの相談に応じ、適切に事業実施した。	3	保護者からの相談に応じ、家庭の機器を支え る支援を実施した。	3	保護者からの相談に応じ、 寒塩の腫骨を支える支援を実施した。	3	■成実:子どもやその保護者から利能に応じ、子育て知期利用 事業が必要は多性に対しては、子育て知期利用事業の実施により 変化に対ける所は無さらせた場合とことができた。また 成とのける所は無さらせた場合としてがさせた。ない 反とりは後に向け、平日単位のディスティの場合をはないしては、 テさらの権利を守ると言う所のから支援を実施している。 子どもの権利を守ると言う所のから支援を実施するとともに、 誘導者とより一種活用していけるよう、市民への問知を図ってい く。	С	こども未来局	児童零庭支援・虐待対策室
118			220	家庭69種様の推進	里線制度を紹介したパンプレットの作成な と、国際の新規程数、国際への話が必ずた 国際により、「理解制度等を要別が表現 に対してアラ単位の小規模化を含って いきます。	田根前級登録者を思いてい、登録器質体験 発表含と2回降にた。また、4月、9月に小 地線パループアを導入して登録機能を 設し、ケア単位の機関を行っている。	3	国領部規念録者を増やすため、亜級額資体額 発表名の概念明定を3回額はたまか、10月 の世界時間でに見来の選出し、元2.2~の通 示などにより里報の自及西角に努めた。	3	国際所指的者と対象の声解をお作ってため、国境解析な 発発を含み物理解的を空間解した地方、10月の関係所 中に無理の場け、アサリアに終コーナーに対する展示。 アサリアビジョンはの各種機能の後、ボスターの表示。 などにより自称の最及発射に繋がた。また、児童顕微的な 施設の位派しより川明線グループブアを導入した。	3	■成実・小規模グループケアを導入した児童異態地位が2の所開 投入に対し、児童異態態的が達で替えにより小規模ユニット化が 連んに、里線を終めの認いに対し、1の報号が表色を実施した。 (1264年 116世帯・1126年 133世間) ■「子どもの権利」に関連して、里特制度の推進しより、景保度 関連を整定して開始とは関するともも、協能におい でもい場響がループケアの多人により、きか値やかな変色の無常 プロピとなる。 ■理路・里根と子ともが日本限から参野の関係を対したはより、 を対象の地位を受こして、新など地)すの確保を対象を を対象の地位を受こして、新など地)すの確保を対象を を対象の地位を受こして、新など地)すの確保を対象を を対象の地位を受こして、新など地)すの確保を対象を 変である。	С	こども未来局	こども保健福祉課
119			215 349	要保護児童施設の整備	児園に関する相談が暗線、多様化している ので、必要に加して実施を行う機能等が始な に、表達は明確が開発できるな名式ができ なう。 現場の由し及び残壊の悪の拡充を図 るの変がある。	場門的ケアを行う物段整備を進かるととも に、既伊伊星養殖物の心臓にあたっては仮設 の物能力とは活体の川境地と思り、実施的 な最初はよりを指達し、処態の向上等を 日うだ。	3	専門的心理ケアを行う情報運動特別の機能 設「川崎ことも必要ケアセンターかなで」の時 所により専門相談工程本制を記する。とこれ に、指分性重要能のご認らの様とが起始機能 の代表、入析性重の記憶の他上におめた。	3	振動の学動が本年4月に開発し、教育委員会や情報学と連携を図りながら、教育・医療・心理等が連携しながら割守的 支援が行われる体制を整定した。 児童機関係が必要がした。とかい機関ユニット投資な業 医が追請で、責持を対けることができる環境を整備した。	3	■成章、専門的心理ケアを行う情報障害問題提出機能能を可応2 年行の日で物位に増加し、専門相談を取る制を拡充するととち ファクルの人など人所が強いが基が向上に移りた。 ファクルの人など人所が強いが基が向上に移りた。 エネーない事態に、記載した、「電車が出からか正によります。 などの機能が無っておいが底について、電車と同様のが建立の情報で の機能が無っておいが底について、電車と同様のが建立の情報 での機能が無っておいが底について、電車と同様の指すである。 ・単語、「部队においてはい場膜プループアクの導入が走み、目的 ・電車器・「部队においてはい場膜プループアの導入が走み、目の ・電車器・「部队においてはい場間プループアの導入が走み、目の ・電車器・「部队においてはい場間プループアの導入が走み、目の ・電車器・「部队においてはい場間プループアの導入が走み、目の ・電車器・「部队においてはい場間プループアの導入が走み、目の ・場下があるため、引き続き権利職権に向けて取場を推 進するの要があるため、引き続き権利職権に向けて取場を推 進するの要がある。	С	こども未来局	こども保健福祉課
120			65 300	思春期保健相談	会区を開始センターにおいて、影響的の 東区の以下の定理をお客とで発生事務中部の かりたの変化と、には関すること等につい て電話や面接により部別の相談におしる。	母標報性センターにおいて学校内機と連携しながら、在を含めたからを存在が機能していて美 位が多による機能が終さませた。直接や超話に よるが高が、中で、電路を開放して、直接や超話に よるが高が、中で、電路を括合性全なパートアー シップの複数と世形成在の予節について譲渡会 を実施した。	3	保護衛祉センターにおいて学校保健と連携しながら、任名書のための身体の健康でついて集 位がら、任名書のための身体の健康でついて集 団際衛による健康的資金を担い、西非や総計に 次で高級、中学・保護衛士機と大阪・日本の の高生)にて、調客を記を登金なパートナー シップの関係と任息発症の予防について譲渡会 を実施した。	3	保護指針センターにおいて学校保健と連携しながら、性を含めたない場合の機能とついて協定等による機能が育在実施 また高級、中学が、影響が高級と分析が中の場合として、調節を包含種をなパートナーシップの構築と性極単位の 予防について護済会を実施した。	3	■成準:保留室社センターにおいて事効保健と連携しながら、 を含めたかの考れの機能について事効保健と連携したがら、 を含めたかの考れの機能に対象が振りた。一度と)にて、課 から記の音像なが、トナーナーションのが構造と性感染成の予めて では、発生を実施した。 は、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、 は、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、 は、日本のでは、日本のでは、日本のでは、 は、日本のでは、日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、 日本のでは 日本のでは	С	ことも未来局区役所	こども保健部社課 地域みまちり支援センター 地域支援担当
121				子育でグループ育成事員	地域子育で支援グループの支援を行うほか、 (素) 前分の子育でグループ支援として、研修会等 を適宜実施する。	子骨でガループの活性化が整れるようガルー プの活動期所に始ゆき、背別の学話、最終を育 を実施した。また、別はの実施に合わせ、区位 から合当総参加が、こまな、別なの実施でありました。 グループのネットワーク化に取り組んだ。	3	子育てグループの活性化が毀れるようグループの活性化が毀れるようグループの活性化が設ました。 環境の容器、健康教育を実施した。 また、地域の実施に合わせ、区域の所の合型が思想して、地域をより子育てグループのネットワーグ化に取り組んだ。	3	子育でリーフの活性が関いるようグループの活動情形に は容さ、育の学家、連載教育を実施した。また、地域の実 情に合わせ、反映所の各当当の電力が振して、地域全体の子 育てグループのネットワーク化に取り組んだ。	3	■成果・子育でグループの活性が使かれるようグループの活動場所に出向き、有限の学品、健康時間を実施した。また、認知の実 がに出向き、有限の学品、健康時間を実施した。また、認知の実 グループのスタトプレープに正教が移んだ。、認成全界の子育で グループのスタトプレープのスタトプレープの名を比から認めの子育でグループ の活性が必認めの子育でグループのスタトプレープのよりたり、 安慰し、今後の兄の名目を選出機能、貢献したが、 製理器・今後を反列の名目を選上機能しなが、 地質をかりてフィープロインドプレープのネットワープ化に取り組む必要がある。	С	こども未来局	こども保健福祉課
122				母子相談事業、母子訪! 指導事業	保健所等の側内間により変数が対地間は 無性による子育でに関する機能を素殊する。 主性4月月までの見が小心全での変紅に新 変でが対し、の景に向して対略などを表し、 プログレ、の景に向して対略などを表し、 予度でも行う機の支援を行う。	保健協社センターにおいて各種的影響基等を 実施した記念、前外での子様でプロン等に出向 ではなったがあったがありませませる。 ではあったがありませませませませませま のでは関係の定場合でフォロー研修、新規の訪 間段機成所参名物権した。	3	保健福祉センターにおいて各種和助事業等を 実施したほか、用かての子育でプロン学に出向 を対象する。 にはおうな人が高力を対象でおけるを含む。 日で打印機の定ち信をやフォロー研修、新規の訪 助見機が研修を開催した。	3	保護福祉センターにおいて各種相談事業等を実施したほか、 所外での予修でリロン等に出始さ、利用者からの特別におい た。また、これがはありからがありが加速を認めた め、名はて比例機の定例合やフォロー研修、新娘のが商員機 供前を毛剛性した。	3	■成果: 保障等社センターにおいて各種相談事業等を実施したほか、所外での子育でサロン等には均さ、利用各からの相談に応じた。また、こんにつはホラットが認めの定性的課金を図るため、名では開設の定性がフォーロー等。 「イン・スター では、こうにおう・んが開めの計画を検索した。 「クリー では、「クリー では、「クリー」 では、「クリー では、「クリー」 では、「クリー では、「クリー」 では	С	こども未来局	こども保健福祉課
123				母子保健指導事業	対域の層出から母子健康手続の次付、母子 管理器の作成、高戦等級の開催など、技術中 を母子ともに健康に適し、安心して出産 予育でかできる時報を得行う。またりとなりか 加・子どもの権利についての啓発を行う。	母子健康手続に子どもの権利に関するページ を設けている。また、母子健康手術交付の紙、 初かての出産となる方には、国際の活性や予省 でしていての意思なる場所を小の参加 を表した。と称にとっても子ともの権利につい でする場合となった。	3	日子健康手帳に子どもの棒料に関するペーク を倒すている。また、日子健康手帳を好りの歴 初めての場となるかには、最後の最か子前 でもなった。 では、大学などのできない。 できな。 できない。 できな。 できな。 できな。 できな。 できな。 できな。 と。 できな。 と。 できな。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。	3	由子種類手能に子どもの排列に関するページを向けている。 また、由子種類手様を切り返、折めての比較となるが対象への 物格の分類や子様でこれでの学的ないとなる時間が終入の がかを促した。父親にとっても子どもの種利について挙の機 をとなった。	3	■成果: は海の酸社から日子健康手術の交付、日子管理期の作成、開発学数の開発など、試験が6年分ともに健康に選に、反文 ないとは、またが、6年の場合は、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本の	С	こども未来局	こども保健福祉課

で成28年度実施状況 及び 3年間の自己評価 施策の方向Ⅲ 家庭、育ち・学ぶ施設及び地域における子どもの権利保障(第3章)

也束の	グロー 多姓・	<u>. 13</u>	ク・子の他設	及び地域における子	こもの惟利ほ陣(男	<u> 3 早ノ</u>								
5業 Vo.	具体的な取組	条例の 条数	再掲 事業	事業概要	平成26年度実施状況	平成26年度 の達成度	平成27年度実施状況	平成27年度の 達成度	平成28年度実施状況	平成28年度の 達成度	3年間の成果と課題	3年間の自己評 価	平成28年度の所管 局	平成28年度の所管課
24 (8)	ガイドブックの配布等 による子育でに関する情報提供や、各種相談の事業 (3)なた、南方・学ぶ階級の び個別構図において、子 ともの責備に関する必要 な支達を行います。	18条	すくすく予餐でポラン ティア事業	地域です着て支援の協動か一端を担える子 育てポランティアを繋成した。 であった。 であった。 アクループや子骨でプループ、関係機関等の オットワープを構築し、地域の同党力の向上 を図る。	すくすくボランティアの側成により、乳処児をもこの様々小の支援を変し方式させた。例如で、 でもこの様々小の支援を変し方式させた。例如に アで基準を過敏やボランティアのためのスキル アンプザ接合をを使用し、母子を支える地域の 連携を強化した。	3	すくすくボランティアの養成により、乳処児をした残ずへの支援を使じ、方を立せた。 新名に、 からに アる妻を含酸がパランティアのためのスキル アップ 万様 音ををを催し、 サイを支える地域の 連携を強化した。	3	すくすくボランティアの機能により、乳粉/所をもつ機等への 支援を実に作成させた。各区において、子育で支援に関わる 機関やボランティアの定めのスキ 人のこのであると、由子を支える地域の連携を強化 した。	3	■信果・すくすぐボランティアの構成により、目めだちたり指令 への予報を不整不せた。 信しておいて、テ育でな際に取り実施等 がポラナイアを連絡をはながランナックのためのメモルトップ 研修会を影響し、日子をなえる地域の連携を指化した。 ■ 「子とたりを持て、に関連して、子育く安理に関わる機関やホラ ンティアのためのスキルアップ形像会会を開催し、日子を女える 地域の連携を指で発見し、安砂して門ができる理整度し した。 ■課題、今後ですくすぐボランティアなど、他の子育て変重を支 達する地域づくりに関わる手葉との連携が化を図る必要がある。	С	こども未染局	こども保健福祉課
:5			母子保健指導者研修	思春期から、妊娠・出産・育児に力だって 一貫して支援するため、子育でをかく会理機 の変化に必能と必が力が無効の相談指導に 地だれるように研修を行う。	多環様が子育でをする保護者へ適切かつ効果 のなも間が再や機能を予禁できるよう、子とも の後点の部がたと対象、面接技術についての研 物を行った。	3	多環境が子育て在する保護者へ適切かつ効果 的な相談的時代を認めたまってきる。 の相談的時代と対象、直接機能のように守る 日間の指摘を実施し、編52人が参加した。	3	会開送が子育でをする信護者へ高辺のつめ乗的な結婚指導や 情診を充実できるよう。子どの外接の話がたと対略、直接 技術について等2日間の前移を実施した。	3	■ 「職業・多職権が子育でをする信護者へ適切かつ効果的な相談指 等や機能を主要できるよう。子どもの発達のおかたと対域、面接 技術についてるの所を実施した。子どもの発達のおかたと対域、 ■ 「子ともの特徴」に関連して、子どもの発達のかかたと対域、 面接技術等でしている研修を実施しているのであっており、 工業部・5世をからいる情報を持ている信義者へ適切かつ効果的な 根談問等や機能を手をする信義者へ適切かの策略な 根談問等や機能を手をする「表現な研修を行う必要があ	С	こども未来局	こども保難福祉課
e6			健診未受診者フォロー事 策	現的問題診束認め 序程に、 思診 を動図す 等 みととない。 間間状況を中間し、 対策を起の 状況に低した限のな情報遊供や週間支援を行 う。	見込門確認未受診の原理に、確認、文書、受 超別地等で認かを信息するとことに、無解な元 協助で無解変形となっていった。 は、は、は、 協助で無解変形となっていった。 はた、は、は、 を を を を の の の の の の の の の の の の の の の	3	現め内種は未受診の変態に、個話、文書、変 超加速やで認かを簡単するとことに、無難な力 度別のではからではからでは、 度別のではないでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	3	見妨用機能未受診の家庭に、機能、X書、家庭助物等で受診 を勧修するとともに、質量状況を評単し、対象家庭の状況に あいた意の式情報部件の書質支援を名配で行った。また、引 日本と文献に通いつはげるように関係が着との物程を思り 体制を整えた。	3	■ は果、乳が同種が未受勢の変似に、 塩炭、 文庫、変組が開学で 受診を使用するとことに、 直轄水がを定開し、 対象を風が終す のじた者のは何報性や何度を成をでくって強した。また。 はいた者のは何報性や何度を成をなって強した。また。 はべっなけるように関係の潜化の対象を含がした場合 設力と、 ● 「子としか権利」に関連して、未受診動発を急がして集結し、 状 が同様と支援を実施することで、 母子保健法に定める見が別の健 線の採用物理を指揮した。 単語・今後年大学記者ノコーを全位で実施し、未受診るの 公元度と支援を実施するが要がある。	С	ことも未来局区役所	こども保健福祉課 地域みまもり支援センター 地域支援担当
.7			乳幼児健療診查事業	確診を実施し、合特期に対ける子どもの発育・発達を確認し、特等への条種指導や相談 を行い、子どもの確全育成を図る。	侵種部はセンターにて実施する場が円標準的 で、機能では新能性上等多級的が関うのな がら発き、手能の確認及びか後とする対象をか が機能等・相談を持ちつた。2、保軽部社 センターで実施する確認について未受診者フォ ローの体制監視を包含った。	3	現め門機構診測事業を分開的、の本的に実施 するため、実施がの成長機能に合わせた機切な 物質での実施が、中間に一人を指えた実施力 活等に向けて、検討した。	3	医療的な対象の副、ISD内臓診を医療機能に変払、7万円確認 と10の角膜診を統合、及び3板膜敷が直とる概葉敷助着を終 合い、3歳6万円地とする各子保護事業の角板をと行った。	3	■域要、乳砂円機能の受診結構と受診機能を経過することで、疾 型や発達機能の原立でが物種となり、乳砂内及びその保護者に 適切な指導のできた。 ■「子とその権利」に関連して、適切な場門機能と連携しむすく の、疾が多でが異かり発射と、早期心機につながり、ことも の鍵かりな成長が促進された。 以下、日本のでは、 以下のでは、 以下のでは、 はでいのでは、 はでいのでは、 はでいのでは、 はでいのではでいるでは、 はでいるではでいるではでいるではでいるではでいるではでいるではでいるではでいる	С	こども未来局 区役所	こども保健協祉課 地域みまもり支援センタ・ 地域支援担当
8			保育所における子育で支援事業	テ育で変担等に対する講座の脚準、関内不 支 安第二ついての相談指導、子育でサークル等 への支援を受けることにより、地域の子育 で要担に対する何が支援を行う。	「新たな保育所」の開始を活力し、公立保育 個において他等の様子的でに高級数数、万事研 待、保育要多体験、講座、遊びの会など各方な 以、関切の支援とした。また、2017/17/28 反対保育所にもロス、知様子育で支援の地点を 増やした。	3	「新たな公立保育所」の機能を活かし、公立 保育園において地域の機子向け、高延期点、行 毎年時、保育度等体験、施度、並びの会立とを 17名集立では、アンツンを地域の機関機構 等に伝えるなどし、地域の子育て支援機能を全 体として恵上げする歌組みを推進した。	3	「新になか江原南所」の機能を充力し、公江原南所において地域の発子的が、電視整体、行事活体、体験保険、長時間 底、遅びの存在とを行ない。開刊支援をした。定い、公江原 南所における実体であった。アルウトを他の回路を開発で 伝えらなとし、1984の子育で支援機能を作金体として多上げ する知能分を推進した。	3	■成果・講座や得別報販等を実施し、地域の子育で変超に対して 開党支援を打滅させた。 ■「子どもの権利」に関連して:子育でに不安や悩みを抱えた地 地の子育で変速への支援ができた。 ■課題:子育でいの緒子のニーズを捉えた支援を地域や規能保育 所等と連携して進めていく必要がある。	С	こども未来局	運営管理課
€			oo 思春期精神保健相談	電話和談各中心に、変体向けのセミナーも 行うなと、影響場の指令保険に関する問題への 一般として、事例検討を通して関係機関支援・連携を図る。	思春粉精神保健相談については、電話相談を 中心に実施し、実施的けとます。を年3回実施 した。相談の一部として実施した事例検討会を 年6回実施した。	3	世春期精神保険相談については、電話相談を む心に実施、変換的プセミナーを在3期、4.6 らロシリンをで発展した。相談の一連である からなどの変かが多い。また、世春時代は影響を かさとの変かが多い。また、世春時代は影響を 設合を生く回実施、関係機関との連携を図っ た。	3	思想的の精神容積相談の電話相談の山に選挙策略。 アイト の必配・毎レて特別な交替を受ける事故、相談できる権利を 保護し、アイトの無神容疑報記に寄らした。また、「整路内 リセミナー」を発出の間間をおよりなの一環の20セナト 実施、児童精神が成したる多数検討会の中6回実施、影響解 根別は争者が急合く自実施した。	3	■成実 第時の課机除への対象に加え、児童精神和医による事例 物計会会を開催し、多分野を機能する場所の強化を図った。 9 千子とかの特に、記職して、多のリンで含る時期、子どもの が関に加いて特別と支援を受ける権利の保険として、精神可能に 関する情報に対象しました。 ■課題・子どもの信息的要因だけではなく、変換的・社会の要因 への別点が必要であるため、一種の多種味道側の強化に努める。	С	健康福祉局	精神保健福祉センター
)			管理母のためのグルーフ 「ぶりんクラブ」	着単母(1 0 唐代をしくは2 0 唐代節半) 7 に対し、解定改進、勝庁鳴線起鉄、相談面 接、仲間ライクの唐を辞針し、終チで楽しめ るプログラムを実施する。	交流会を年3回(参加証数7億14名参加)奏 施し、若年母への支援の方実を回った。 頼年衛 生士の原生教育を実施し、積極的に質問する姿 がみられた。 予載で建立に行ける適所等につ いて情報共有を行った。	3	交流会を年3日(参加延期22届43名参 加)実施し、経過の参加されが、出産的からの 変数し、経過の参加されが、出産的から だけてなく、助整部に入ってもらい母乳根部に も対略することが出来、専児根態を充実させる ことができた。	3	文別会を召引国際無し、任何の参加も志の参加経数を語り 名の参加があり、世種的からの毎年中の支援が行えた。また 第四については後期がに保持工でも対し、参配を他し来 する個数をこととと一緒に乗しみながらすべるよう季節行事 と称り入れ実施した。	3	確果、若年出に対し、影響機能・関係機能、は関づくりの機を 摂性しながら動物で音を取り入れた、様子で楽しめるフログラム を実施し、他野・万事でできるよう変更した。 ■「子ともの移動」に関連して、姿もして生きる様態、子母の砂 更に起して特別を変更を引っる権利の容線として、召中世代の報 への支援を実施した。 観測・器年度の応募手段から同様を対し、対象者の心に残り 日々の生活に生かされるが目を整動し、対象者の心に残り 日々の生活に生かされるが目を実施していく。	С	川崎区役所	地域みまもり支援センタ 地域支援担当
			多絵児蘭児支援「チップ &デール」	多船児を持つ親子の情報交換や交流を月1 回窓無し、親が何児に対する部盤を強か、互 いに支えあうグループラくりをする。	交流会を年3回業務(参加経験12億29名参加) し、社場戦から多地界の線への支援を行い、同じ協みを分かち合える仲間づくりを支援	3	交流会を年3回業務(営加証教21指55名語 加)し、技術の家市54名あり、技術取ど5の 間じ俗かを持つ多他州の教への支援を行うこと が出来た。	3	交流会を年3日業務(参加能数2 9組9 4 名参加)し、好 場合のでは、一般では、一般では、一般では、 会をご認識を、他のは、日本のでは、日本のでは、 会をご認識を、では、日本のでは、日本のでは、 日本のでは 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので	3	■威楽:同じ協かを持つ多物党の解へ、護育に関する必要な支援 が行えた。 『「子どもの権利」に関連して・安心して生きる権利、子供の必 間に加して特別な支援を引うる権利の保護として、多地党の解へ の支援を実施した。 ■課題:多齢別を指えても支軽に参加できる体制ゴくりを検討する。	С	川崎区役所	地域みまもり支援センタ 地域支援担当
2			がわさき区子育てフェス タ	夢らしやすく、子育でしやすい地域ブイク を必ざし、区内の子でもに続ける活動をして いる中国に当時をは、選択して、 「無の選伸及び交流の地となるイベントを 別様する。	環係機関・区間で構成する実行受機会を5回 関催して準備等を行い、9月6日に教育文化会館 でフェスタを開係、約1600名の栄養的があ 、フェスタでは、区内の子とも、予解で情報 を提供するとことに、様々なイベントを行い、 子どもも大人も楽しく文章することができた。	3	銀座機関及び区民で構成する実行委員会をも ・ 実際を指す。 9月3日日 女子で ・ 変数である。 9月3日日 女子で ・ 変数である。 9月3日日 女子で ・ できません。 6月3日 女子で ・ できまません。 6月3日 女子で ・ できままた。 6月3日 女子で ・ できまた。 6月3日 女子で ・ できまたなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	3	関係機関及び原文で構成する案庁委員会を5回開催し、9月 3日に教育文化会館でフェスクを開発、約1、900名が栄 選した。様々なイベントを行い、子育で情報の発色や、世代 反文语号の機となった。	3	■成果、かかささ区子育でフェスタを開催、毎回1、500名以 上の参加があり、子育で中の増予と子育でに関わる市民等が欠当 する地となった。 リードイとの世紀(に関連して・影育文化会館でフェスタを開催 し、子育でに関する情報を担づイベントへの参加の地となった。 単語・影育文化会様での単細でのたり、中央に大小大派を出る。 単語・数音文化をでの単細でのたり、中央に比べ大派を出る。	С	川崎区役所	地域みまもり支援センタ 地域ケア推進担当

事業 No.	具体的な取組	条例の 条数	再掲 事業	事業概要	平成26年度実施状況	平成26年度 の達成度	平成27年度実施状況	平成27年度の 達成度	平成28年度実施状況	平成28年度の 達成度	3年間の成果と課題	3年間の自己評価	平成28年度の所管 局	平成28年度の所管課
133 (8	ガイドブックの配布等 によるサネ (下間する情報 報理性のでは、 のでは、 ができます。 が、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは	18条	子管で情報誌の発行 () 時(2)	川崎弘の子育でに関する情報店「さんぼみ 方」(外国際版を含む)等の発行を行う。	層児のヒント集をまとめた「子育てほっと プック」を新規に各のの登録行、川崎区子育で ガイド「さんぽみち」を6000競将行し、出生 物や私人名字を耐した。また、外国際域「さ んぽみち」も機能して影布した。	3	開究のヒント集をまとめた「子育でほっと フック」を4,000回路的、実際原を1,000段 を6,000回移行し、出生等やは入場等に設め た。また、外国部旅「さんほみち」も継続して 設布した。	, 3	「担境子育で支援センターのごあんない」、入学準備支援 デラビルを引きては年記 及び ドラヤでが、他の必然のかう」 ペイン語・ボルトル語 とを称る。 他の はいまっ よた。「川崎区子育ではっとブック」の中国語版を作成し、 をかした。	3	■6乗・日本施設と外電機能の前輪は各界行することで、区内 の機関を小の機能をができ、解析支紙でつばすることができ ルー・ファイン・ログライ	С	川崎区役所	地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当
134			男性育児参加促進事業	√観をはじめとした男性による層児への参加を促進するために、地域子育で支援センター及び採制電で、地域の男性を中心とした現分である。 あるのが、地域の男性を中心としたできる。	グニカル打造監督所、地域子育で支援セン クーで、工機日に「バイちいっしなにジョイフ ルサタデー」を半い回動性し、父親の文法を包 るバイ・スサールや、のよか、独立の ます官での知めを知がられるが同で実践した。 780った。	3	公園及び民間保育所、地域子育で支援センターで工業団に「ババだいりしまじジョイアルリケデー」を4 1 (日間時間に、火勢の火弾を 3 (東京子青での間火をからいるがまで実施 5、754名(東部名で名、七七532名) が動力者が多り、ボランティア等関係者の参加は39名であった。	3	公室の海前が以下登録等所を終用し、パパセかっしょに! ジョイフルグタアー118、父師職を36、ファミリ・講座 4日日地域・区が海南かの海社は等のリードにより、子だち と一部に様を記が、終了でもからまいと変極すると は、男性の角で動かの意識について開放と場できたう。 に、男性の角で動かの意識について開放と場できたう。 の形が形容とに対いる。	3	回復・保育所を利用し期間やイベントを開催したことで、地域 に増さした子質で支援ができ、完全の場合参加促進に繋がった。 ■「オーとのが利」に関連して、3枚をの得力参加促進に繋がった。 のできた。 ● 「対しての特別」に関連して、3枚を向下が支援を表すが支援。 ● 「対象をのかによっては、100円で対象をある。」 ● 「対象の中におけ、地域で子質で発達を表するまかり他かにしていく。」	С	川崎区役所	地域みまもり支援センター 保層所等・地域連携
135			日古地区赤ちゃん相談 赤ちゃんはいはいあんさ のつどい	日志地区の向内会・自治会で毎月1日赤 ウェル相談を推論する。また、年に1度、区 地、よりが中の連絡と近端・地域の人との 交流を認らはか、中学士の地域起かへの参加 を定置する。	日内地区のが中の町(内)会・田根クラブ等 を実施主体としておわけ加海月1日すつ実施さ れたあっか。相談に、保険部等の高温側に力え保 管理とは連進し、機関制度を支援した。 また、10月2日に同じなのかっか。(利用アンティアを発展として、日本中学校におい て中学生も添加して実施された「市かっかん」イ イイカルムのフェリー、の立規を通して、 支流へのでは、日本のでは、 では、日本のでは、日本のでは、 では、日本のでは、日本のでは、 では、日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、 日本のでは 日本ので 日本の 日本ので 日本ので 日本ので 日を 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日を	3	日告地区が所の間(四)会・母母グラブ等を実施主体して大阪村が自身口留プラ瀬舎の を実施主体して大阪村が自身口留プラ瀬舎の 打た売りから角型に 保護等の問題に 放大権 育士を適当、 解列間等を受益することができ レディンのは、得知識、印象、原盤は、バン・ ディン・ログト目に密域のボラットを掲載で ンティアを実施主体として、日中中学にありく で中学生も参加に、実際のより、14 で中学生も参加に、「大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪・14 と、大阪の大阪・14 と、大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪・14 と、大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大	3	日告地区の方所の間(か)会・母語クラブ等を実施されたしておおけん知月(日で)実施を社た形ちゃら相談にで開始。 その情報地上加え得見で大変を社た形ちゃら相談にで開始。 その世報地上加え得見さればし、世界相談等を支援することでは就くの様の地域、小田、田・田田、バークラディ は加減、南田県、川・カージディングを開始になった。 また、間望にからから相談がフラングを開始になった。 できた。間望にからから相談がフラングを開始になった。 ちゃんかイバイあんよのつどい)への支援を描じて、地域交 派や世代地交流を図った。(479人参加)	3	■成果: 年内参加人数も増え、地域住民や関係団体と連携し子育 て家庭を認か、見守ら活動ができた。 ■ 「子ぐもの場所」に関連して:こともの権利について更に地域 で放射器を登録していく。 ■課題: 地域へ関係機関と連携し更に地域での子育て支援にむけ て強化していく。	С	幸区役所	地域みまもり支援センター地域支援担当
136			土曜子育て支援講座	母納フ子育で不安や近立原の非常を目的 に 安全・安心して高。仕る影響がや子育で の中間性りの地を採用する。 また地球子育で 支援センターが取り目標を開発して、 種類是を実施し、地域の子育で支援、特に父 株の 用代参加を支援する。	区内地域子育で支援センター3か所、公告保 同じた男性のからは、2003年に485名が参加。参加 した男性のから地域が1480名にから変性での実 試に影響がてあった。議集の参加からその後の 利用につなかったケースも多い。	3	区内地域子育で支援センター3か所、公置保 前したアルデにての国実施しん才ら近が参加。参加 に元男位かか加盟が上生物の上が登立での実 試に思めまであった。講像の参加からその後の 利用につなかったクースも多い。	3	反対地域子様で出版センター3が新にて「四葉類」。2018 が参加、参加に実施での参加機関が主体的になり地質での実 は正確的なであった。関連の参加からその後の利用につな がったアースも多い。	3	■成果:講師や陽座参加者から子育てに関する情報を入手する場 しもなった。 ■「子そも所称」に関連して:講師や参加者から子育てに関する情報を収集したり、報句士の交流を使ぎる勇士な場となった。 ■は吹心展無関之連携し更に地域での子育で支援に向けて取り 組んでいく。	С	幸区役所	保育所等・地域連携
137			楽しく子育て@ふるいさ ば	7層で世代の人たちが親子で楽しめるイベ ントを通して、家族の鮮を深めるとともに、 文教の層光参加を一番定進する。	ふるいちばポランティア交流会への要託事業 であり地域予察で支援センターふるいちばこて 実施。前後年に分けて行い、467名が参加。夫 係不順であったが参加者も多く、ボランティア の向わりも機能的であった。	3	契約が法の変更により、要託事業ではなく地 域子層で支援センターふるいちば第3 土銀剛所 の中でイベントを実施。子育で支援団化と実施 手法について国際を推断。計画で支援団化と実施 手法について国際を推断。計画であるいまからから 「作ってあそほう」等、子ともと一緒に乗しか る「ふるいちは報道」を開催。25組の親子が変 加した。	3	契約が述め変更により、要託事業ではなく地域子育で支援 センターふるいりば第3土建御時の中でイベントを実施、子育で支援部を上策略学派について経験を重ね「ハンドベル」 ちば創書」を開催。」 答、子ともと一種に楽しめる「みるい	3	■純果・菱杉番薯ではない方法で、子育で世代の人たちが勢子で 及しめるイベントを実施できた。 第一子人を与助け、江端連して、子育でに関する情報を収集した り、網コムの交流を密建する情報と様となった。 子とちから発表すて公民し他は包括ケアシステムを推進する 事業として支援し扱う組んでいた。		幸区役所	保育所等・地域連携
138			転入者交流会(うえるが むサロン)	等区内の子育て支援関連施設やサロン等を かり、知る機能とし、また保護者同士が知り合い。 現立した環境を予防することを目的に交換会 を開催する。	今年度から転入者と地域の子育で要認との交 液を整理するだめ、地域子育で支援センターの は工程環境や心気性質圏の「アマイルマム」と同 時要開催する。年4回205名参加した。	3	今年度も転入者と地域の子育て家庭との交流 を推検するため、公営保育部の「スマイルマム」と同時開催し、年4日258名参加した。	3	今年度も転入者と地域の子育で家庭との交換を重視するため、公告保育機の「スマイルドム」(問題機関し、年5回 135名参加した。うえるかだけロン参加者(24位、	3	■減実 参加者から子育てに関する情報を入手する間にもなった。 ■ 子どもの権利 に関連して:参加者から子育でに関する情報 を収集したり、物理士の交流を受撃する機能な場となった。 型スマイル・スムと同時間をし、又次の中で転入者への丁寧な女 接を行っていく。	С	幸区役所	保育所等・地域連携
39			さいわい夢保育事業 (スマイル・マム)	母親の子育で不安や孤立様の乾燥のため、 公室各層圏を発用し年齢に応じた空びや壁中 りを伝えると共に、子育での枠間件りを支援 する。	公置保育園の園で集結し276名が参加。土曜 日間種の保育園が多く父親の海兄参加につなげ ている。諸母の公置保育園の種様利用につな がったケースも多い	3	公当保育圏沿電で実施し258名が参加。全圏 が当場日開催、父親の育元参加につなげている。 議座から公司保育圏の極線利用につながっ たケースも多い	3	公園会園園 3周以び地域子育で支援センターもあい方はで 実施し165名が参加。全部が土壌日間間、火戦の角突参加に つなけている。調産から公園会園園の総熱利用につなかった ケースも多い	3	■成果:議師や講座参加者から子育てに関する情報を入手する場 したなった。 ■「子ともの様利」に関連して:議師や参加者から子育てに関する情報を収集したり、 が開発収集したり、報告これ交流を定置する情重支援となった。 ■父親の青沢参加を促すとともに公民男性保育士の人材育成も同 域に行っていた。	С	幸区役所	保育所等・地域連携
40			父親の育児参加支援 (ノいてっとサタデー広 恵)	父親の層別参加を支援するため、月2回2 力所(下平間にども文化センター・南加藤 ごも文化センター)で土曜日美別の遊じので 地を接触し、フリースペースやイベントを実 施する。	際加種ごとも文化センター12回際を、参加機 第346人、交替の参加率2054年下平間に文 11回際を、参加機器202人、交替の参加率 29.30%2か併共にリビーターが増えてきた。	3	博加斯ごども文化センター11回開催、参加 第239名人、父親の参加5名人、下時間ご文10回 開催、参加総第272人、父親の参加72人、2九 所共にリビーターが増えてきた。	3	用加算こども文化センター12回降艦、参加総数555人 交換の参加75人、下車間に大11回降艦、参加総数440人 交換の参加69人、2か所共にリビーターが増えてきた。	3	■成果 公募により運営団体を選ぎしながら、4月事業更高を実 対できた。年7季即3 る様子が増えた。 ■ 「子どもの時間」に関連して、デセちが楽しむのを見ながら、 切が非てに関する情報を応属したり、傾回1カの政治を促まする 質量が基準との。 ■専江上あることも又化センターを利用して、父親子育て支援と して主題目開催したいやん人気のある事業である。	С	幸区役所	保育所等・地域連携
141			父親の育児参加支援 (ノいてっとサタデー調査型)	区内6カ所のことも文化センターを活用 世 、 地域の子育て支援を指揮し、 父親の育児 参加を促す。 (講座を牛間72回実施)	講座実施回数72回・参加ዘ数1933人、父報の参加中34.41%父親の参加が多くなってきている。	3	調産実施回数72回・参加総数2272人、父親の参加が多くなってきている。	3	調度実施回数7/2回・参加総数2.616人、父親の参加467人。 父親の参加が多くなってきている。	3	■成果:年代参加する総子が増え、講師や講座参加者から予育て に関する情報を入手する他にもなった。 ■ 「子ともの特権を入手する他にもなった。 ■ 「子ともの特別に「関連して、講師や参加者から予育でに関する情報な様」になった。 「私を記事るとども文化センターを利用して、父妹子育て支援と して主題に開催したいべん人気のかる事業である。	С	幸区役所	保育所等・地域連携
42			総本の読み語りカレン ダーの発行	「読み語的タイム」を発行し、区内の保育 画で実施している絵本の読み確かせつ予定 や、認句保育園の終行、園設開放や行為、 技事業、子解でのアドバイス等を掲載し、 様々な子育で情報を提供する。	毎月1日全12日発行。掲載が音を公置保育園 園園とこども安理室で計画し作成。即保育 園。の誘う部の日程や子育でアドイス。遊び の紹介など登録観した。広報場所547所、 15420校配布	3	毎月1日全12回科丁。掲載内容を公営保育機 環点とこども支援室で計画し作成。第96時 展、の誘力部の日曜ヤギ育でアドバイス。返り の終わなどを掲載した。広報機所56か所、 16680収配布。	3	個月1回全1/回時行。機能内部を公営資産開催した原研 等地域機能で計能し作成、原可原構態。の続か期の日間や子 育てアドバイス、遊びの総介などを掲載した。広報機所67 か所、16,680枚配布。	3	■ 「子を受け、関係を受ける。」 ■ 「子をもの解析」に関連して: 子育てに関する情報を収集するための資重なツールとなった。	С	幸区役所	保育所等・地域連携
143			さいわい夢保育事業 (給本続み語り講演会)	子育で中の親子の安全・安心な居場所作り と確かな成長のため、結本のある環境性の を地域子育で支援センターや認可保険高及び ことも文化センターで実施する。	認可保育園、地域子育で支援センターにて誘 み類り事業を実施、保育園のイベントや行事と 認さ合わせで行い利用者を組ばした。利用者 1819名。	3	膝可保育園、地域子育て支援センターにて読み服り事業を実施。保育園のイベントや行事と 対路の事業を実施。保育園のイベントや行事と 対さらわせて行い利用者を組ばした。利用者 4,042名。	3	語可保養園、地域子育で支援センター、ことも文化セン ターにて貼み語り事業を実施、保育園のイベントや行事と抱 含合わせで行い利用者を起ばした。利用者12924名。	3	■成果: 年内市加する機子が増え、参加者から矛育でに関する情報を入事する機になった。 ■「子ともの権利に関連して、参加者から矛骨でに関する情報を収集した。後世上の交易を受害する機能と使った。 ■公民の地域支援事業として継続していく。	С	幸区役所	保育所等・地域連携

で成28年度実施状況 及び 3年間の自己評価 施策の方向Ⅲ 家庭、育ち・学ぶ施設及び地域における子どもの権利保障(第3章)

事業		条例の 条数		事業	事業概要	どもの権利保障 (第3 _{平成26年度実施状況}	平成26年度 の達成度	平成27年度実施状況	平成27年度の 達成度	平成28年度実施状況	平成28年度の 達成度	3年間の成果と課題	3年間の自己評価	平成28年度の所管	平成28年度の所管課
144 (8)	ガイドブックの配布等 による子育でに関する情 報理性や、各・様の態段 びのに、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 のでは、 のでは	18条		講師派遣事業(幸区)	地域子育で支援センター及び物民館で「す する場配と子育で和能」をはしめとした子 育で課題、子育で加重、保倉ボランティア講 医号を実施する。	幸市民館、子育てサロン、地域の子育て支援 センターにて出張順座を行う。(69回 2440 人参加)		幸市民館、子育でサロン、地域の子育で支援 センターにて出活調座を行う。(71回 2417人参加)	3	専市民館、子育でサロン、地域の子育で支援センターにて 出場講座を行う。(71日 2417人参加)	3	■成実 議跡や隣座診が着から子育てに関する情報を入事する場 にもなった。 ■ 「子どもの権利」に関連して、議跡や診断者から子育てに関 る情格を収集したり、総立士の交換を定置する貴重な場となった。 ■保工・栄養士・看護路の専門性を生かした出途隣座を強化す	С	幸区役所	保育所等・地域連携
145			47	みんなで子育てフェアさいわい	区内の子育で支援機関や団体が、地域全体 の交流を強か、誰もが安めして暮らせる地域 つくりをめざして実施する。	今年度は第10回目の実施であり、2月28日 109から158の間で、停車を開発であると、 で実施した。当日一般参加省は500名、子育て 支援等後事者は233人であった。	3	今年後は第11日目の実施であり、2月27日 10部から15時の間で、単市短頭全部を使用して実施した。当日一般物面は777名、才育て 支援した。当日一般物面は777名、才育て 支援与後事者は221人であった。	3	今年度出第12回回の東部であり、2月25日10総から15 時の間で、日告向助庁舎を使用して実施した。独日・秘参加 都は640名、子僧で支援等収事者は200人であった。		 ● 画域:16~17の区内子育で支援機関や団体が参加し、地域 全体の支援保留めることで、交換して書うせる地域プイのの一般 どちった。 ■ 「才どもの権利」に関連して、子育で支援団体や地域の人と交 対することで、交換して生きる権制につながった。 ■ 国際は、引き続き内除にフェアを実施するとともに、新たな担 サチラ原ではこの検索が必要。 	С	幸区役所	地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当
146				子育で情報誌の発行 (幸 区)	区役所送口等で配布し、子育で世代の親に対 し、地域に根差した子育で情報の提供を行 う。	区の子育で関係団体・組織から選出された編集要素による編集要素を含める場合が通常にのでからつまった。 を表現したる機能要素素を含める場合である。 は、合うなのである。 は、自己を表現しません。 成このいては、6月に発行し区役所窓口号で配 切した。	3	平成27年度は全次空時期に当たるため、区 の子質で国際団体・結婚から並はやけた編集を は、一般27年度により、日本の 日本に、一般27年度について、6月に月 行した他、編集活動・形名を開催し平成28年 度以間にむかってある。	3	行年度、子育で支援団体や公果の反民等による編集会議に より作品を打た成立抗原務性に回線変更完成をさ、年の28 年度を5月にため、同職権主義を80単独、次訂 内部について利用をヘアンケートを表施し、態時を検討、平 が20年を改訂版務機を作成した。	3	■成実:地域の中で安心して子育でかできるように、赤ちゃんからが沈まて子育でに関する制度が丁でなく、地域の子育で支援の 活動や返び場、態めの情報を設けするとかできた。 ■「子どもの権利」に関連して、子どもと子ども移り飛び安心 して古古できるように、年齢に多いた支援の相談窓つい物に変功 等限が合うた。 単議部・冊ラとしての情報圏に認識がかるため、他子育でに関する情報をか、一ムページの紹介等をわかりやすく同知する必要 がある。	С	幸区役所	地域みまちり支援センター 地域ケア推進担当
147				子育で情報カレンダー 「お散歩に行こうね!」 の発行	区内の子育で情報を子育で関連機関の協力 を得て掲載し、毎月1回発行する。また、囲 子の発行のがさな、ホームペーンへの電転も 行い、子育でに関する情報を充実させる。	区内で行われる子育で情報をまとめて、月1 回2500地発行することもに、ホームページへ の掲載も行った。	3	Styrephnる子育で情報をまとめて、月1 □2600部発行するとともに、ホームページや FaceBookへの複載も行った。	3	医内で行われる子育で情報をまとめて、月1回2600部件 行するとこちに、ホームページやFaceBookペの掲載も行っ 7.2.	3	■成果:子育でイベントカレンダー「お敷砂に行こうね!」が、 子育で支配に関する資産な情報を定なった。 ■「子どもの条件」に関連して、子育でに関する情報を収集する ための資金やゲールとなった。 のホームペーシやアプリの掲載での参加が多いので引き続き取り おんでいく。	С	幸区役所	保育所等・地域連携
148				就労妊婦への支援事業	対例が性の増加に得り、毎日が計画からの 生态になりが予な技術に重要的な生みら見 配したを進に向けてのもの準備を支援す る。土曜日に調産を物催する。	「ワーキングマザーのための政策・出産・子 育「集団」を非常4号(の月・6月・12月 3 ・2 を登出した同すての0多のの機大、保留を を登出した同すての0多のの機大、保留を トライーへ機構設策を実施した。「、、 妊婦とバー トラーへ機構設策を実施した。	3	「ワーキングマザーのための対応・出産・子育で組織」と対象が図(6月・0月・12月・3 の・子変な出産に対すてのかるの参考が、毎月 服を用したデオでの大変について、投資と パートナーへ債権選供を実施した。	3	「ワーキングマザーのための状態・出意・子育で講像」を 非際知(6月・6月・12月・5日)土曜日で開始し、育 200時が参加と、多り・安全が出場のけての場の部分 り、存得器をお印した子育での大学について、また最近な が大学館でよりでは大学について、また最近な が大学館であります。 は他とバートナーへ実施した。 が表現れていること。 が表現れていること。 がまたり、「育をではンタの海報提供を は他とバートナーへ実施した。	3	■成果: 対策及びそのバートナーの参加により、対策中や出産後 を当いに加入とかはなが、、予解で、季度と代募を控立していく ためのイネージとのの最もあった。 ■ 「才どもの権利」に関連して・保護者が、妊婦のから子どもの 持ちを指揮し、予修については一致である。 ■関第: 幼が妊娠が年で推加しており、現時労働等業との関連性 V区別の必要性について検討が必要である。	С	中哪区设所	地域みまもり支援センター 地域支援担当
49				多船児育児支援事業	多制度の計画や制度はの構造されの文章が構 報文機を他側のポランティアとこちに重要 し、才様で文庫会を開催する。 改定多級元等 別の情報発遣として「ピーナッツ遠信」を発 けする。	多地児の子育で文流会を区内3か所で4回開催、再門の延江化子等の、 相互支援による 開党の延江化子等の、 相互支援による 開党のの第1名をした。 またホランディの原料 にんさいた とっこう ツ 透慮がられた 対抗した しょう ツ 透慮がられた 対抗し 対抗し	3	参総州の子育て北流会を区の4か所で4回時 をし、育児の延立化を予防し、相互支援による 育児の経立化を大い。またポランディアの世 特とを登場的により、東京建立の公司 をとている。と・ナッツ連続は5万に乗行し で、こので、アッツ連続は5万に乗行し	3	多般例の子育て欠許会を区内4か所で4回陶道し、開発の 国立化を予防し、独立発生と各種が2の例上を使じた。ま たポラケインが最後を影響的には、等基準のに始め 情報材料を行った。ビーブック連載は3月に飛行した。	3	■ 「東京・東京の公園館により、多松内を持つ保護者が、民番中から情報が得られ、また予育での内間づくりや支援が得られる機会となった。 ■ 「存ともの権利」に認識して、多松内の例では観察上場でな工 大が必要であり、専門館で多松内の例でも経験している信仰され 到面、ボラジーでを念めたサポートが、多松内を持つ国際著名 はつ、定職等、交換をの機関とアクセスレゴらい参加者の治理を開催機 所の検討が必要である。	С	中原区役所	地域みまもり支援センター 地域支援担当
50				乳幼児ぶれあい事業	乳幼児難診の待ち時間を利用し、終子のふ れあい、専門職との相談、開発情報の提供を 行う。	年間110回の見め児難節において乳が別られ あい事業を実施し、作う時間を発用しながら、 需要の、保証の、発力等の提供組み相談や知 場の提供、割り情報の返供を行った。	3	年間110回の乳炉開墾において乳炉形なり おい事業を実施し、待ち時間を芸用しながら、 電機等、保護等・場合よりが可能の時間が対 温の遅れ、得効場解の遅钝を行った。	3	年間60日の月め所機構診査において月め売られあい事業 を表情し、行う場合を活用しながら、電視等・電視等・収算 エもの等・強の相談や収集の記候、専門情報の記録を行っ た。	3	■成果:区内所における引幼門建康診路は、対象年齢の子育で度 仮の自り気比上が展布するため、専門側による相談や対域・情報 の変勢が対策制がこうことができた。 17日でもの再列:に気急して、日曜銀が子とのの長年経る程 以上、さらに認めの門室から子育でこなする他のは効さや情報 現材が得られる。最再支援の埋たっている。 ■複雑:39別人のが拗にに対したスタッフ体制で、本事業を 機能していく必要がある。	С	中原区役所	地域みまもり支援センター 地域支援担当
51			49	なかはら子ども未来フェ スタ	区内の子どもに関する団体や機関が一型に 会し、開発で株、交換の機を付けることに なって、物理を不可識して子さもを支援す 名だめの一切とするために開催する。	区民との協働により会議を4回時後し、フェ スタの帯機を行い環境した。当日(11月8日) 北海天泉の中、4世紀末、市民2000人の参加 があり、地域における世代間交流を推し進める ことができた。	3	区民との協働により会議を4回時使し、フェ スタの準備を行い実施した。当日(11月28 日)は天候にも建すれ、43回版・南尾く500人の参加があり、地域における世代間交流を推 し、進めることができた。	3	区民との控動により会議を4回間をし、フェスタの準備を 行い実施した。時日(11月20日)は3年間にも選択しまっ 発信性し起からとかできた。からは3年間を発生しません。 点性はし起からとかできた。からは3年間接、子と日時の 限フェナンが株乱、手形打り、アートバルーサリ、折り設 切・カンタュラント の、ましたことができた。からいというから、 の、ましたことができた。からいというから、 の、ましたことができるものが多く、子どもの主体性を促 した。	3	■成果:フェスタを通して区内の子育てに関わる団体等のつなが り、認成に終すのつながり、終すのものつながりを構成すること ができた。 ■「子どもの権利」に関連して:フェスター部は複タルチ支援型と 連携し、子どもの権利が素がの「インエスターランをかを行った。 ■収録:フェスタの対容を子育で世代だけてなく、ゆくしゃくは対 学校とで発発を知ってとこを検討するとある。	С	中原区役所	地域みまちり支援センター 地域ケア推進担当
152				子育て支援推進事業	子育で各地域であることにより、前と子 のこころの変性を図り、機能的な子育でがし なりは機能を含えており、(50円を16か) 所で子育でサロン、議議会等を実施する。	社協・民協主体で相関している中帯は子育で 支援指揮を行き換点が増加する子肩でなった。 支援指揮を行き換点が増加する子肩でなった。 の自主サロンへの支援を行った。サロンスタッ プ向けに全体研修を1回実施し、130名の参加 を何た。	3	社協・原協主体で船間している中原区子育で 支援推進案行変最合が検討する子育で守むい信う 所の他に、区のでホランティが運動している る商主サロンへの支援を行った。サロンスタッ フトライトを持ちを行った。サロンスタッ	3	中原区社会報道協議会・中原区民主要表示監視協会主 作で組織している中原と才育で支援建進来が委員会が推断す 多才育でサロンドのかの地に、反びアウンティンが選 している自主サロンへの支援を行った、子育でサロンのス クップのすこを料料をそ1回対他し、154人の参加を特に、	3	■成果: 予育でを地域で支えることにより、終と子の心の変定を 図り、健康的な子育でがいわすい環境を整えることができた。 ■「存ともの権利」に関連して: 健康的な子育でしなすい環境が 扱うことで、健中の疾病が保障をわることへつながった。 ■課題: より多くの方が子育でサロノを理解し、参加できるよ う、政務等を強化していく。	С	中原区役所	地域みまちり支援センター 地域ケア推進担当
153				子育で情報誌の作成事業 (中原区)	子育で情報誌「このかびと〜まれ」中原区 子育で情報がイドフック」の終わたそれに達 別したホームルークの連盟を行ってが、子育 で関連のタイムリーな情報を掲載した「子 ネット通信」を区段協議で作成・発行する。	子育で情報の提供として、区子育でガイド フック「このゆびと一まれ」の会別設を8,000 配、子ネット送信を年に日86,000時形した 近か、子育で開始がリーフレットで1,000 時時日に、そのほか、区子育でガイドであっ の必としたに、カーな情報については、 フルーな情報については、 ビックス機に増越した。	3	予育で情報の提供として、区子育でガイド ブック 1 このかりと一身で1 の双耳原を打ち込た た。オーターとでは、1 の双耳原を打ち込た を終わした。その認か、区子育でガイドブック の双耳に合けせ、ホームページの情報更新を行 うとともに、アロックに七字文章の プロック・ソイッター)を開始し、新 区々双球でいるに作り、新	3	子育て傷物の認針として、区子育てガイドフック「このの びと一され」の対抗をで5500%、チネット通信を年日日名 8,000分割行したほか、子育で倒撃等リーフレントを インのの製行した。そのはか、日子育でがドナラウの会が に合わせ、ホームゲーンがの機能を耐むうととして、下263 日本のでは、ボームゲーンがの機能を耐むうととして、下263 日本のでは、ボームゲーンがの機能を耐む力ととして、下263 日本のでは、アームゲーンが、日本のでは、日	3	■成果:子育で中の保護者に様々な情報を認明することで、子育 てに関する不安や個かの整理を図った。 ■「子どもの推判」に関連して、終于が子育でに関する様々な情 核を衒て、「野」が助し、仲間を得ることで、健のかな成まが採 環とれるとともに、豊かな生活とつながった。 ・ 現態: より多くのルティ青で実施の機を担ってもらえるよ う。引き機会を様々様体を造して広報していくことが求められる。	С	中原区役所	地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当

であるという。 で成28年度美術状況 Rび 3年間の自己評価 施策の方向Ⅲ 家庭、育ち・学ぶ施設及び地域における子どもの権利保障(第3章)

_	地束0.)刀囘皿 多姓 、	月5) • <u>子</u> /	い他設と	び地域における士	どもの権利保障(第3	5早)								
	事業 No.	具体的な取組 条	例の再数	掲	事業	事業概要	平成26年度実施状況	平成26年度 の達成度	平成27年度実施状況	平成27年度の 達成度	平成28年度実施状況	平成28年度の 達成度	3年間の成果と課題	3年間の自己評 価	平成28年度の所管 局	平成28年度の所管課
	154 (8)	ガイドブックの配布等 による子育でに関する情 報達性や、各種相談事業 第 など、育ち・李公園設及 1 7別解系側側において、子 ともの関係に関する必要 な支援を行います。	8条	多胎児育んぼ」	9児支援「さくら	リスクを伴う多般児嗣児に関する情報交換、解死相談、結ずあそび等を実施し、多胎児嗣児の支援を行う。	毎月1日、年12日実施。93組の双子と双 子を技能中の妊婦之名が参加した。周知につい ては、毎子機能等化区付等や地上が開発。 別機能にて対象を駆にチラシを配布し多制性の 例光支援を行った。	3	毎月1日、年12日実施。延95組の双子とその兄弟児、また、2をひ謎の参加が参加した。本事事をきっかけに、党や機を改築とさる。事業につながった教子らいる。また、参加省にとっては養金な文治の地となっている。	3	毎月1日、年12回業施、延75億の双子とその兄弟児、また、1名の近端が勢効した。ボランティアがいることで、 かっくり双子の海外の情報で顕著したり兄弟関係について何かっくり双子の海外の情報で顕著したり兄弟関係について何か不安の相談場所となっている。また、兄弟問題の不安の相談場所となっている。	3	■成果: 深子の解究の大変さを持有でき、情報交換を行うことで 解的の不安心軽減に貸立った。 第一字そのの時間、は関連して: 深子であるため、1人1人の権 利の大切さを考えられるように支援した。 課題: 参加できていない人達への問切とフォローの仕方の検討 7份要である。	С	高津区役所	地域みまもり支援センター 地域支援担当
	155			地域で <i>の</i> くすく謎	の子育で支援「す 講座」	地域の子育て支援センターと連携し、育児相似、子育てに関する知識の自及等、子育で 支援を実施する。	地域子育で支援センターでは、際児に関する 調整を10回行い、超べ356人の参加があっ た。内容は、こともに多い場合や子どものこ ころの発達やについての構座を行った。 飯別の 根据にものっている。	3	地域子育で支援センターで、商児に関する債 を予切されると59人の参加があった。講座の 内容は季節につ過にしからを見られる例 について、また平乳前別の仕力等の話を行っ た。終了後衛別の相談も受けた。	3	地域子育で支援センターで、育児に関する構座を10回行 い325人の参加があった。関連の小部は事際にとの過ごし かともく見られる時間について、またやも原列の仕が守めば 健康の総介をおこなった。終了後間の中間をも受けた。	3	本語、出物の出版を継続が振りない。 はちまがするでも建セン ターを指することがくなったの。 施り見る場所できる、 タップとの情を変がしかすくなった。 『マドセン中紀』に関連して、日子根原等でスタップが気に なったことを連絡してくれ、早期のカルケできた。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	С	高津区役所	地域みまもり支援センター 地域支援担当
	156			未熟児育	号児支援「すくす キッズ」	リスクを伴う未熟児の層児支援を行うため に、 腐児の情報な強、 育児相談、 親子あそび 等を実施する。	未拠月で生まれた字どもと戦の交流を年6日 策能し、証べ46組の機子の参加があった。ボ ランティアによるからへ歌の機子遊びを交え母 子の交流を図った。	3	低出生体重児や医療的ホフォローを要する子 ともと観り交流を年6回開催した。達べら3組 の繋びの動があった。情報を襲を行いなか ら、子どもの成長の見通しを推踪できる場と なっている。	3	低出生体割削や医療的なフォローを要する子ども上続の欠 項を4年の国際をした。述べる2種(2月現中)の親子の参加 があった。情報交換を行いながら、子育ての相談をしたり、 子どもの成長の発達しの確認をしたりする機となった。	3	■成業:低出生児を持つ期は不安も多いが、来所することで先の 見通しができたり間数できたりした。 ■「存そもの事態」に問題して、自身がありして予算でできること で、存むも安多りして生活が起れる。 問題は、信性は中の比較には扱っして制かりないる。会の開催 の時刻と丁等なフォローが必要となる。	С	高津区役所	地域みまもり支援センター 地域支援担当
	157		5	子育でク	グループ支援事業	子育てグループ交流会の実施、活動のため の遊臭の貸出しを行うことで、地域の子育て 支援の充実を図る。	子育でグループの交換会「きっとみつかるよ 高しい印度」を10月7日に開催した。クルー アの活動状況と活動上の課題を把握するため、 グルー 7原を会変機した。子原でグループの 設立などに置するリープレットの作成に向け、 検討を行った。	3	子育でグループ交流会の企画運営を子育での の保護権にも担ってもらえるよう。「たかつの 子育でを支える時間の名。を認識した。9月30 日に、子育てグループの約7などを行う交流会 を9月30日に開催し、子育でグループ 団体と 地域の様子55億119人が参加し交流を図った。 データーでは、データーで、ファイン データーで、アイン・ファイン・ファイン・ファイン デースな、多くの経過能によってより効果性 の場い時にもなるう。(特別を扱いる)	3	高速区子ども子育でネットワーク会論子育でグループ支援的 会と算事型形をしている。「たかつの子育でを安える行物の 会上が発現し、予解でグループから経過を削減しいるとから さが交流した。また、子育でグループへの情報を終くスキル かった。 からから、これ、子音でグループへの情報となるとの参加 からた。 からた。 からた。 からた。 からた。 からた。 からた。 からた。	3	■成業・高速区外の子育でグループとの関係が密接になり ニースを把握できた数で具体的な扱力支援につながった。 目子ともの機能、回爆量に「3000子前でグループが、 活発に高齢する夢により子とむたちの育ちの最が広がった。 単鍵部:65 子育でグループが機性的に充動の機所建保や機能 循環した苦労している。具体のな様力支援が必要である。	С	高津区役所	地域みまもり支援センター保育所等・地域連携
	158		5	高津区でフェスタ	こども・子育て タ事業	区内で子育でに関わる様々な活動をしてい るグループや歌楽観観の活動原元、相互交流 及び子育での命名・多様な情報が、予定を 遠し、子どもの育ちを地域で支援する。	高速市民館を会園に、乳幼児から小・中学生 のこともこその保護者を対象に、子育てグルー フを支援する部本・観報などを終わる。 2歳元、コント・特に、最大の大学の学校を 会議会による議論会にダイブウイカ母師の選 毎日ご氏による議論会にダイブウイカ母師の選 の扱うからた。	3	高準市民態を会増に、乳幼児から小・中学生 のこともとその保護者を対象に、予解でグルー フ、予育で全域する間が、根別では、予解でグルー うる展示、コンサート、勝手で楽しめる様々な管 は、同労が定じたよる協会にある。 シー 同労が定じたよる協会にある。 シー 同労がとたこよる協会とした。また人権告終了 スを設置し、子どもの権利の成移した。 がある。 知者2300人、24団体が強力し、イベント号を 実施した。	3	高油市民態を合態に、乳炉(から)(・中学生の子どもとその保護を名詞に、乳炉(アルーブ、子育(で支援する間)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3	■成果 ア育で支援関係機能と譲伐し、終予で強しからイベント を指すすることで、終予の文化を定めるとことに、関係機関と しのつながりの形成に質能して、活動物告祭カブースでのパネル 展示、デンを作化より、幅広くデビの時制に関する広報を実 助した。 ■課題、より効率的なデビもの単純の広報・各枠のため、フェス 労働報的な店なインモの連接が広報・日本枠があっている。	С	高津区役所	地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当
	159			子ども・	子育で支援講座	子どもの成長・発達や子育でに関わる課題 をテーマとした顕著や意見・体験交流等を実 施し、課題に対する啓発を図る。	子育で中の保護者等を対象にした講演会を3 回、子育で支援者等を対象としたスーパーバイ ズを2回時にた。また、フリバ・フレマ・ 講座を3回、初めて赤ちゃんを育てる母粉のた めの4週連続プログラムを2回実施した。	3	男性の育児の参加を促進する講座を3日。子育 発生の育児の参加を促進する講座を3日。子育 日間権に応。また、ブレバ・アンママ調座を 3日、初めて赤ちゃんを育てる母親のための4 連連株プログラムを3日実施した。	3	等性の角別参加を促進する機能を4回の連続機能として 実施し、発性の側が取りを図った。また、地が、比較 を迎えるカップルは対機をプレバ・プレママ機能を 包、初かで赤ちゃんを育てる母期向けに4回連続機能を 3回業的したを対象としたスーパーバイズを2回機能し 超べて0色の参加があった。	3	■成果、抑かての出售や育児、男女郎・才野かったとて子育 てに関する不安感や自己感の野難につなかった。 子育で気援者のメルクックを包含したができた。 ■「子ともの種別」に原達して:子育でに対する不安感や検 担係を限り除こといき域で有する体制が整つことで安めし て育つ速度が育まれた。 ■は幾・地域で行う事業についてなかなか信かりにくいた が、情報の限のかたなどによれが優するある。	С	高津区役所	地域みまもり支援センター 保育所等・地域連携
	160			地域子育つまれも	育て支援事業「あ キッズ」	物域の0~3歳の子どもだ持つ増子を対象 に、「実際を当しては予選され他級、専択組践 等を機能、一斉で中の直接などの中間ゴぐ りを支援し何党力を高めていく。	地域のO機へ3機の子ども上機を対象に、区内 3分所において、子どもに関係する機関や団体 に関係して、子どもに関係する機関や団体 で開催した。 で開発した。 で発子の設定である。 接続した。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	3	地域のO機~3級の子どもと親を対象に、区の 3か所において、子どもに関係する機関や団体 と記載している。 では、子どもに関係する機関や団体 に関係している。 では、子どもに関係するという音で、年間で通信 でおすての近じた。 接続を支援した。	3	地域のO酸~3歳の子どもと信頼者を対象に区内3カ 所において子どもに限速する機関や団体と協同で年間6 カース3号開催、扱いて70分割が助した。海航電 屋前3大で年間を通して新子登び時内職による8二隣座、 情報な後を実施した。	3	■成果 海熱機能形式にすることにより保護者の育児力が向上し、仲間づく的ができた。また、スタッフである例生要例 実施会験、主比が監査機のスタルカップにつながった。 ■「子ともの権利」に帰進して、地域の保護者の子育で力が アップル、研予を持つて、くれる他の支援者の子育で力が アップル、研予を持つて、くれる他の支援者の子を合成 に返しる事で得予が変い場合行って違っずことができた。 理論語:「ありまれトッズ」の企業器の主体となっている 公園保護の原態化が集むすて、民居保育電が引き続き行ってくれるのがとつかが通明である。	С	高津区役所	燃料みまもり支援センター 保育所等・地域連携
	161			子ども・事業	子育で情報発信	高速な子ども・予算でネットワーク会議と 協力連携し、子育で中の機のニーズに合った 地域子育で情報がイドブック「ホットこそだ でたか」と特徴し、ホームページにも連載 し、情報提供する。	「ホッとこそだて・たかつ」(南子) 平成26年 変抜8名(XXX) 等終行し、児童を登録をひいを次 ・ 中級でしたがし、・ からも ・ 大きない。 ・ 大きない。 ・ 大きない。 ・ は、 ・ は 、 は 、 は 、 は 、 は 、 は 、 は 、 は は 、 は 、	3	「ホッとこそだて・たかつ」(毎弁)平成27年 度版を各の20時代行し、外国家庭課意ので名の には、関係団体、機関等に影析した。ホーム には、関係団体、場所等によれした。ホーム には、関係団体、機関等に影析した。ホーム には、関係団体をおり、関係と同じた。 が、 新・管理を行った。	3	子育で中の区民ニーズに合った地域の子育で情報機として「ボッとこそだてだかつ」(冊字)を7000即発行した。 たったこそだてだかつ」(冊字)を7000即発行した。 たった。 たった。 でランス・ボース・デッタを1000回転送が、このでは、 でランス・ボース・デッタが、でけるいできることが専門者を に対しアンケート開発を行い集計を集かっ次年期の修正 原列を上切りたとなり。(依頼数625、回答数38 3、回答率61%)	3	画車、温速区でも、子育てネットワーク接触(特報) ② と思か達成したが、子育でのの区段の一元にもあった 炒速の声音で開格をガイドフク及びホームページで選供した。 ■「子くどの機能」に緊連して、人間としての大切な子ども の権可なあらず。今次回接後について機能し、傾応く子ども で機能である時で、今次回接後について機能し、傾応く子ども で機能である時で、今次回接後について機能し、 では、子育では、 では、子子では、 では、子子では、 では、子子では、 では、子子では、 では、子子では、 では、子子では、 では、子子では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	С	高津区役所	地域みまもり支援センター 保育所等・地域連携
	162			私入省子	子育て交流会	転入の多い温準区において、子育で中の転入を匹式し、区外の子育で情報の皮料、関係 配金の協力と対象が最近で立立を発力を受ける。 ディー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5・6月に区份所で年齢別に実施。10月に保 億ホールで年齢別に20実施。地域の関係団体 の協力を存くさ計160人(5・6月88人、10 月92人)が参加、子質でに取りた締約の政策 中では、子質でに取りた締約の政策 では、子質でに取りた締約の政策 では、子質でに取りた機能の政策 では、子質でに取りためる。 文派を持つことができた。	3	5・6月及び10月に区内所及び輸出場所で年 約別で各3回策略。地域の関係団体の他力を得 て合計61億165人(5・6月38億78人 10月438877人)が参加し、予算に同かる 情報を認めるが、計算化等と認るとこちに関 機関体との交流を持つことができた。	3	転入者の多い書と数にそれぞれ開催した。 ニーズの多いの間が対象の方を2回と:1第~2歳対象の 表名:回辺中10日では、第44名、約48倍の増加が 多け、地域の子者で情報の提供や参加者向土の交流を 行った。	3	■成果・地域ごとにクループが打を行い交流することで参加 街間セの文流や子育で支援者のアドイスを受けて再究力の おしているかった。 ■「子ともの権利」に制達して:長知らぬ土地で専門を行っ ことの予究能で地立感を取り除くことで子どもの種を行い つなげることができた。 建雄: 二フルースルースルースルースルースルースルースルースルースルースルースルースルースル	С	高津区役所	地域みまもり支援センター 保層所等・地域連携
	163			子育で恨つうしん	清報紙「あったか ん」	子育で中の市民と協働で、子育で中の総の ニーズに合わせる様な情報を掲載した情報紙 「あったかつうしん」を年6回程度発行す る。	子育で中の区段と協能で、子育で中の親子の ニーズに合った情報発信として年間も回発行し た。	3	子育で中の区民と協能で、子育で中の終子の ニーズに合った情報発信として年間も回発行し た。	3	子育で中の場のニーズを反映させるだめ、現場の子育で 中の区域とこむに開発品数を11 日時難し、年6回 各 2500日発行。72ヶ所に配布した。	3	■成業:子育ての不安徳の軽減と子育て中の区民の活躍の慮 となった。 『子どもの権利」に関連して:子どもの権利を守るために も報色自が幸せていられるよう。気持ちに割り添った記事を 作成した。 ■課題:状況の変化により、結選体で子育て情報を収集する 部合が傾り、類似の多い所もある。全体が収発率したが設定 ある。	С	高津区役所	地域みまもり支援保育所等・ 地域連携

施策の方向Ⅲ 家庭、育ち・学ぶ施設及び地域における子どもの権利保障(第3章) 3年間の自己評 平成28年度の所管 平成27年度の 平成28年度の 具体的な取組 条例の 条数 再掲 平成28年度実施状況 3年間の成里と理算 立成28年度の新管理 車業 **車業類亜** □成り6年度宝施計2 Ⅲ成27年度宝塩は沿 ■成果: 「うえるかむクラス」について、毎年、70組を超える親子の申込があり、ほぼ同数の各種地域活動団体メンバーが参加して、子 育て世帯の孤立防止と、地域交流の縁を広げることができた。 も入者に、雲前区の子育で情報を提供できた。 子育で支援関係者連絡会での調整を行い、宮 部区の分育で中の区民を可能とする子育で支 現の分でしている。 であるかむプラストにしていて、 民国競界を反映し、対象を扱っ名から地域を知り たい親子にも拡大し、参加自数から参照した会 頭の房間とから、昨年に引き続きる回貨施し た。また、等時日間に各種子育でガイドなどを 人才につるるかでセットを作成し、中間機等 子育で中の区民を対象とする子育で支援イベント「うぇる かむクラス」について、区民意見を反映し、昨年に引き続き 3日実施、途べ77組の銀子が参加し、各種地域活動団体の メンバー約70名と交流を図ることができた。また、専用封 ■「子どもの権利」に関連して: 報提供や、各種相談事業 など、育ち・学ぶ施設及 地域ケア推進担当 生涯学習支援課 地域支援担当 転入者を対象とした 「うぇるかむ」事業 164 (8) 3 С び関係機関において、子 どもの養育に関する必要 な支援を行います。 ■複数: 未就学児のいる子育で世帯が孤立することのないよう、「うえる かむクラス」開催や子育で情報発尾にあたり、より効果的な運営 方法を検討していく砂変がある。 転入届で来所時に、地域支援担当窓口に寄らない方もおり、対応 を検討する必要がある。 値な付表 子育で世帯の転入者への配布を行 みやまえ子育てガイド「とことこ」及び「と ことこおでかけマップ」改訂版を各7千部作成 し、健診時や母子健康手帳交付及び子育て中の 保護者の区内転入手続きの際などに配布した。 ■成果: 冊子、WEB、アプリそれぞれの特徴を生かした子育で情報の発信 みゆます育でオイトにとして1室Tにあり、物質人 住宅の2種音を小配してありたを達制で大型があった。 年に10年度を小配してあった。全部の2種音を対している。 第7年7000世代物、影布した。音楽器能力はインリートト管報源・イント等を通 てガイトにとことにコレス、予算で支援イベント等を通 ナプト・ディーストの10年度では、大型で大型イベント等を通 ナプト・ディーストの10年度である。大型の10年度である。 リールーストの10年度である。 により、より広い範囲で情報提供をし、イベント参加等につなげ ることができた。 保護者の区外物人手続きの解めてこれがした。 管区機能は対す、ラルサイト、下窓前は一たう カノ内に開設した形と自然みやまえ手育でガイト ドとことこ」について、予算で支援イベント 等で強して認知度の自上に活用の促進を到り、 最終的がつかが、サーイスを制度した。 に関いてもによりをデスを制度した。 に関いては、 を必ずした。 をがある。 をがなる。 をがなる。 をがなる。 をがある。 をがなる。 をがなる。 をがある。 をがなる。 をがななる。 をがなる。 をがなる。 ■「子どもの権利」に関連して: みやまえ子育でガイド「とことこ」へふりがなを追加したことに より、ことも自身にとっても情報取得が容易になり、自分で決め る権利に責することができた。 地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当 165 3 С 99 ATT (2) SE ■課題: WEBに多くの情報があられる中、より効果的な広報の実現に向け て発信する内容、タイミングの精査が必要である。 発信を開始した。さらにユーチューブを活用し て動画で子育で支援事業の広報を行った。 SNS(Facebook及びTwitter)を活用したこと も子育で情報の発信を行った。 ■成本・ 区内子育てグループを取りまく環境が変化する中、当事者、支援 者及び行政が採題を共有し、支援の在り方を考える場となった。 区別の子育で構開等のネットワークで飲成された「こしれ 人 (室前区7年で支軽開係者施会)」を移り回転し、乳 対別を育てる世帯の開かて安解治り面で助しを認るためにな 万子育で関連的後、団体等との機能、協力体的途化と、情 毎年有を行った。また。こしれん主催にて「うぇるかだりう ス」(参加者 7740 及び「子母でグルーク交流し、(参加 者27名)を開催し、子育て中の親子と地域との交流促進を 図った。 地域の情報提供や交流の場として、転入者向 け支援事業「うぇるかむクラス」を開催した。 今年度から開催会場を見画して3会場で実施 し、宮前市民勢51組、地球子育で支援センター すがお18組、アリーノ17組の親子の参加が ■「子どもの権利」に関連して: 子育で関連団体、施設及び行政が連携することにより、地域全体 で子どもの成長を見守る態態さくのにつながり、なかして生きる 権制や自分を守り守られる権利が促進された。 子育て支援事業(宮前 С ノクら組の親子の参加があった。 ■課題: 社会環境の変化により子育てグループの在り方が変化しており、 現状に即した支援の在り方を考える必要がある。 ■成果:保育士、看護係、栄養士から子育でに関する知識を伝え ることで、育児不安の軽減及び子育でへの自傷につなげることが できた。また、連続講座の利点を活かし毎回グループワークを実 能したことで母親同士の欠添が承まった。 地域子育て支援センターすがお(前期)・さ きぬま(後期)の2施設で、それぞれ4回の連 終調座を実施し、各定員25組に対し、前期2 2組、後期31組の参加があった。専門職によ る調座や助言が鴨児の悩みや不安を解消する 地域子育て支援センターすがお(前期)・さざぬま(後期)の2階域で、それ4年回の連続課を支援し、前期19級、後期22組の参加があった。専門職による機能や助置が商児の店がや不安を解消するぎっかけこなり、またグループリークを急した動画を出ての近が時間くりにつながった。その他、セミナー受損者によるOG名を制催し、子育て支援活動への参加や支援合制の係へとつなげた。 3 ■「子どもの権利」に関連して:乳幼児期の子どもを持つ保護者 を対象とした子育で支援を行うことで、子どもが安心して生き、 守られるための権利保険につながった。 С 地域みまもり支援センター 保育所等・地域連携 Dain使や即当か博力の脳がや不安を解消する きっかけとなり、またグループワークを通した 参加者向上の交流が仲間づくりにつながった。 その他、セミナー受講者によるOG会を時催 し、子育て支援活動への参加や支援者の育成へ とつなけた。 3 室前区役所 ■課題:社会状況の変化及び開催地域の特性・ニーズを的確に捉え、企画の工夫、内容の充実を図る必要がある。 子育てグループ交流会については、「グループ階の交流、つながりの場化、を目的に開催 し、17グループ名人の参加、関係機関からの 情報設計セグループ間での情報改換等を行っ た。子育でサロン交流会については、より作業 したサロンとなるよう情報共和の遺として開催 し、14サロン学会の人が参加、お田さんだち同 士をつ款げるために工夫している点などについ て最大交換を与うた。 ■成果: 子育て支援者同士、また、当事者グルーブ同士の交流の場を設け ることで、区民活動の活性化と、子育てしやすい風土づくりを進 乳が危待つ保護者にとって物域とつなが る 「私は心の一歩」である子育でサロン・広、村にクリー・フラストの分配(を包 素、地域で感じいる子育でカロン・広、村にクリー・フラストの参加の場場 表、地域で感じいる子育でカーファンからの必要がありません。 けった「ロー・ファント」である。 けった「ファント」である。 として交流を受験を発生したことを目的 として交流を受験を表す。 として交流を受験を表す。 か、26年度は天実施。 か、26年度は天実施。 子育でサロン・自主グ ループ交流会 ■「子どもの権利」に関連して: 子どもを地域で支える環境づくりにより、子どもが健やかに成長する環境づくりにつながっている。 地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当 3 3 С 宮前区役所 ■課題: 社会環境の変化により、子育で当事者グループの在り方が変化する中、現状に即した支援の在り方を考える必要がある。 ■成果:子育でグループや民間保育面が個々では準備することが 難し、水型玩具等グッズを貸出す事で、合団体の活動の幅が広が るとともに、子どもの日常遊びや行事に関する取組みの充実を図 ることができた。 事業開始2年目となり、子育でグループや新 設保育所にもホームページやSNS、ちらしを利 用し広く広報した。また、貸出物品の理解を始 やした実をせた。2月現在では、3つの子育でグ ループ・地域子育で支援センター・保育所等 で、返へ17回の利用状況となっている。 子育てグループや新設保育所にホームページやSNS、ちら して広報すると共に、各種会議を活用し周知を行うなど、広 報を拡充したことで、利用団体が増えた。また、これまでの ニーズに合わせ側址物品の数を有楽させた。2月現在では、 6つの子育でグルーン・地域子育と支援センター・保育所等 で、遅べ18回の利用状況となっている。 区内で活動している子骨でカルーフや子骨 子骨で支援の方実を図るために1月4日から 東 子骨で制度グッス対比 で 「サロンを可能に、乳処物的すの大型形象 、利利しばからいの関係される。 另限的を 東京教育主義制は、そでもの数寸や保持さ 青年でカループが整べて118。地域の利用に対する。 「他の利用状である。 3 3 С 室前区役所 ■「子どもの権利」に関連して:グッズ貸し出しにより、子ども の遊びの場の充実を図れた。 ■課題:これまでの実績を鑑みたグッズの充実と、事業の周知を 徹底する必要がある。 ■成果:地域の子育で情報を得ることで子育ての負担感を減らしてもらうと同時に、子育て中の母親が地域で活動する場を提供することができている。また、イベントを通じて区内の子育で支援者間のネットワークゴくりに貢献している。 10月22日土曜日に、窓前市民能全能を使って実施。遊び v情報提供、交流、コンサートなどのコーナーを、地域の子 再て関係リルデ、民任受急・予選要急、社会部は協議会、こ とも文化センター、保育圏、毎料医師会、保護部社センター などの協力を行うった。1500人が実施。20年間は地域 で活動する子育で開催リルデク総対に特に力を入れ、子育て 関係リルデルを開発した。 10月24日土曜日に、窓前市民館全館を使って実施した。遊びや哨輪接供、交流、ミニンソート、スタンフラリーなどのコーナーを民生委員・地域の子育で国際がトア。とも文化センター、保管園・土台福祉伝統会・個料医師会・保護指位センターなどが担当した。1.500人の参加があった。 10日25日土曜日に、室前市民能全館を使っ 170 3 ■「子どもの権利」に関連して:来場者の目に付く場所に子ども の権利に関するパネルを掲出した。また27年度には民生委員・児 童委員による児童虐待防止キャンペーンを行った。 С 宮前区役所 生涯学習支援課 ■課題:転入者が多く、イベントがなかなか浸透しづらいため、 引き締ぎ広報に努めていく必要がある。 ■成果: 地域の親子が保育園ならではの遊びを在園児と触れ合い ながら楽しんだり、保護者同士の交流を図ることで、子育ての不 保護所を活用した地域子育で支援の一環として、公営保育圏8圏で年間5日マブ東施し、延 ベ1124名の参加があった。圏行事への参加 をを呼びかけたり、制作あそけや運動強むなど 子育で家庭の関心を引き出しながら内容を工夫 し実施した。 区内の在宅開汽中の報子を召集に、公立度 「報告を指令」というに発生して公立日報日息 開発の機能と人材を召出し、報子の公れあい、参加があった。表た、文献の用浴室の改進を設ける。 は関ロ 総としては関ロ機では、地域子育で支柱の機能にあっては、文献と子の公れあいの機能・公路・100円には、日本の公内が、100円には、100円に 保育所を活用した地域子育で支援の一環として、公営保育 園8園で年間5回ずつ実施し、延べ1、1348の参加があっ た。園行事への参加をを呼びかけたり、制作あそびや運動遊 びなと子育で寒盤の隣心を引き出しなから内容を工夫し実施 ■「子どもの権利」に関連して:子どもが園庭等で遊ぶことができると共に、保護者への子育て支援を行うことで、子どもの安心して生きる権利保障にもつながった。 あそびの広場 3 С 宮前区役所 保育総合支援担当 ■課題:地域のニーズを捉えた企画・内容の充実、及び、事業を必要とする保護者への情報周知 ■成果: 各種啓発活動をきっかけに、公園で活動をしている市民 団体との交流が進み、活動に対する理解が得られたことで定期開 催を行う団体を新たに立ち上げることが出来た。 「室前区冒険消び援ネットワーク」と控制して 「宮前区冒険遊び爆ネットワーク」と協働して、ブラッシュアップ研修会、シンボジウム、 出張冒険遊び場を開催するとともに、広報リー フレットの配布を行うことで、活動支援、担い 手育成、普及啓発を行った。 291 冒険游び期 3 С 室前区役所 での開催を実現することができた。 ■課題:区内の開催場所を確保するため、普及啓発をより一層するめ、また担い手づくりを増やす必要がある。

事業 No.	具体的な取組			事業	事業概要	どもの権利保障 (第3 _{平成26年度実施状況}	平成26年度 の達成度	平成27年度実施状況	平成27年度の 達成度	平成28年度実施状況	平成28年度の 達成度	3年間の成果と課題	3年間の自己評 価	平成28年度の所管 局	平成28年度の所管課
173	ガイドブックの画 による子育でに関い 報提供や、各種根別 ③など、育ち、学効で び関係機関において どもの養育に関する な支援を行います。	郷製 18条		子育でひろば(多摩区)	の歳~2、3歳の子どもとその親に向けた フリースペースを期払し、資報同士の交流や 関係交換をすることで不安や協みの軽減を図 る。	東陽回数 19回 参加終予は述べ216組 1 国際たり中間12部の参加がありました。 毎年度 から、誘売機では他歌、簡単型12点を辞を取 り入れました。 ボランティアも増え、対応も充 関しました。	3	東陽回数10回、参加親子は延べ224億、1回 あたり15級階級の親子が参加した。ボランネー 万七勝之、「他のひろは江島が野がは、手遊 びを取り入れるなど、親子にとって気寒ねなく 発れるひらばとなった。	3	実施回数19回、基へ参加終于273種の終于 1回 あたり刊914種の参加があった。前年成から付き続き 部分配子によう選びで行っているが、リビーターも新規 のかち強人を知りている。	3	■成実:毎回のひらばに終み続かせと手返りを取り入れたことで、参加者が弊加し、定省するようになった。参加者が勢加し、 だ当なる情報で達・認例がで活た。 日子ともの条件、に関連して、育別に関する情報やども同士が 安全に認べる場の提供にありた。 理理器: 世級でのは後、同知の方法を引き続き検討し、参加者の 定額、新規参加者の確保につなけ情報保恒に努める。	С	多摩区役所	生涯学踏支援課
174			52	たまたま子育てまつり	子育で情報の発信や子育でもの親と関係四 体との交流を目的にした。下またま子育でま で表現を、、関係で連携して親の子育で を支援する。	続子ともに参加し楽しめる内容の合企画・ス ・インイント・情報記録(1.6 原金で子育) ・インス・インス・インス・インス・インス・インス・インス・インス・インス・インス	3	主に対策的の子どもとその保護者を対象とし、交通ルールや子どもとのコミュニケーションなど、子どもむ大人を基いみがか写び、子 存に自立つ対象の合金庫・ステーションイベント・情報提供(「多様区で子育て」発行・配 的)号を実施した。並べらら団体、約3,500人が参加した。	3	主に妨害的の子どもとその周護者を対象とし、昔ながらの 遊びや子育で相談など、地域で活動する可見・部体と子育で 世代の交及を思う。子育でに母びみの命の企画・ス テージイベント・情報登録(1多様なで子育で、発行・起 句、号を実施した。並べらの団体、約3.200人が参加した。	3	■成果:子育で情報ひろばを開設し、まつりで行うスタンプラ リーの物理上に参加したことにより、足を止めるカカが潜え、効果 めに出稿することできた。 ■「子ともの権利」に関連して、子どもの権利の意界ポスターや ハンフルートを認め、「善味」の事業がある。 「実施」と呼ばれてなるようなの場合の意味につい で質许可強力となりまるの使力から、より効果的な広報につい で質许可強力を対象するの使力から、	С	多摩区役所	生涯学習支援課
175				地域子育て交流支援		乳処内機能(年108回)に保育士とボラン ティアを危煙し、安心して受診できた。また、 4分所の地域サロンを側に他地のボランティ ア等と支援して楽しい子育てと健康づくりを行 なった。	3	乳幼児機能(年10日回)に発育士とボラン ティアを各種し、安心して受診できる環境ラン から行るった。よの外の必要がリコンを同 使し地域のボランティア等と交流して楽しい子 育てと継續づくりの支援を行なった。	3	引処所確認及以常機種語(年108回)に保育士とボラン ティアを経過し、安心して受診できる認識すどの移行った。 また、4分所の必然のサンと発揮し、対象のボラン・ア等 と交換して承しい子質でご機能づくりの支援を行うご問題 に、保護者の考別が上がるよう後さができた。	3	■成果:終7が集2る場上層別上端から専門間やボランティアを 配置することで、安全を指揮しながら機業メリの上側交換を並 めることができた。 ■「存そもの権利」上間達して、母子保健事業の機会を至め安全 が開発される地で、と関係するとかでき、健やからみ成分付っ 打る権利が変速された。 環境・男間が変速された。 環境・男間が変速された。 環境・男間が変速された。 環境・男間が変速された。 環境・男間が変速された。 環境・男間が変速された。	С	多摩区役所	地域みまもり支援センター 地域支援担当
176				多際区「親と子の育児 園」事業	家庭で保育している未就学・園の親子を対象として「子育ち・親育ち」を支援するプログラムや交流の場を提供し、子育て力を養	今年取りの新たな公江在海界の心助すず年で東 理事業に合わせ、原用等も合地に、対象を 報わ2~3歳時の幾十で実施した。 ・生世中帯域・「世界) 2 4 年 - 長尾ことも文化センター (平日) 2 0 相 の記す会会性、ご乗り、(平日) 2 0 相 で見なことも文化センター (平日) 2 0 相 で見なことも文化センター (平日) 2 0 相 で見なことも文化センター (平日) 2 位 時間を含地とすることで、修了後も認識財政 で対象の表現を決して応用するこの対と など地域資産を続けて応用するこの対と なった。また、開催的板に始めたするで支援の (化下石のボルラル	3	今年歩から前たないに雇用の出版子書で支 提事業に合かせ、信用官も会社、月報を 報和2~3歳別の報子で採加した。 土地の青期、三世の中間、三世中的創作技事 工地の青期、三世中東側、三世中的創作技事 大大学院、大学院、大学院、大学院、大学院、大学院、大学院、大学院、大学院、大学院	3	資産等から引き終金額に及び日保所の的域子再で高速 事業と併せて、保護等を通ぎし、対策を整ねか~3場所の 報子を対象に12回の開催で15個の第十の物が各別(実施 した、さら5条の分下を18所が新りがあるからの オープリ酸をした。保護等を選よすることで、課題終了 イープロ酸域体を対し、また、開始が長い地の子育で、 選出が行成で記し合いを持ち、地域の海域と にあった。	3	■成実:参加者相当が存ての協力を移し合える関係性が構築で され、土壌はに開催したことで、交換が参加もあり研究等かのが 趣にもつながった。 ■「存そもの権利」に関連して、子育でする保護者が悩みたつい で指か合うことか、基効の中で学させら述り結果をするで 子どものプライトを制力が選出された。 理論: 門内では解除して支折が必要だが、公立保育所の地域 子育で支援事業とし、その他の時間割利に繋がっていないこと こついて複数が必要である。	С	多摩区役所	地域みまもり支援センター 保育所等・地域連携
177				こども・子育て講演会等 事業	区の課題に対応したテーマを中心に、地域全体に向けて子育でや子育で支援への理解を深めてもらうための脳及啓発の講演会や催し等がでも、子育で世代の不安セストレスの軽減や、社会が一条となって子育でを支援し	作にもうながった。 子育て支援者を対象とした各種所等や地域全 体に向けての子育ての直接を深めてもらう普及 啓発、保護者を将象とした子どもに関する構造 サイ育で不安以てトレスの解表の途化しる を実施する他、多様なことも総合支援連携会議 考定は古られた地域推進をテーマにした事業を実 他した。	3	対した。 子育て支援者や地域全体に向けての子育ての 理解を扱ってもうらあり思発、理解者を対象と、 生を実施した。 参名家した。 参名家した。 参照とさいませた理解者が 等で出された地域課題をチーマにした事業を実 施した。	3	子育て克隆剤や地域に向けて子育ての研察を多かでも6う たかの周辺高界、主に北極の駅内部的交換を目的とし、子育 でなのな開発を対象としてストレスの経済を認る値しる、土 程日開催を企画・実施した。	3	■成業:区原ニーズへの対象とともに多世代立席や父親の開発参 加の認定ともつながる効果が同された。 17-そとの発展、に関連して、子ともの権利を守るため、保護 書や予算で支援に集るすべての大人が学び連携して取り能じ事業 として企業策略した。 回接第:多くの参加が得られる土曜日開催を検討するとともに、 地域に対する経路や区原ニーズを把握し、課題解決に対象した企 動を推断する。	С	多摩区役所	地域みまもり支援センター 保育所等・地域連携
178				子育で安全マット・玩具 貸し出し事業	区内の子育てグループやサロンに子育て安全マットや玩具を設せし、子どもの遊びや保育活動の利用に供する。	区内の子育でサークルや自主収算グループに 安全マットや保険側の非行り数は存を貸し出 し、子ともが安全にかっる環境観音行い、地 域の子育で支援環境の介実を図った。	3	図内の子育でサーク小や自主点質グループに 安全マットや保険間の手作り数は母を背し出 し、子とが女性と加べる理理機を行い、地 球の子育で支援環境の外突を図った。	3	区内の子育でサークル的自主信号グループに定合マットや 保護側の手行り数は答を担い出し、まぐもが安全に進べる課 課題を行い、地域の子育で支援課題の背影を扱った。ま た、才育で支援をイルップ制度を行い、自主気等グルー プセサロン運送の民主党員、ボランディアのカが除合わせて さる機会を行り、情報交換を行った。	3	■成果:子どもが安全に整べる環境器機を行い、地域の子育て支 接電機の方度を扱ったことで20年度の30年から30年から20年度が30年から20年度が30年から20年度が30年から20年度が30年度が10年の10年の10年の10年の10年の10年の10年の10年の10年の10年の	С	多摩区役所	地域みまもり支援センター 保育所等・地域連携
179				子育で支援バスボート事業	多摩区機能計畫会会の協議はで設示する ・ オリンプルケービスが受けられるパス ボールを、設施ロから10種の子ともからる 変質に発行し、80万平省で製の政治の倫理の を製に発力し、80万平省で製の政治の倫理の ミュケーシンを高め、物料なか一体と なって子育でを支援する数組とするとともに 地域経済の活性化を図る。	バスポートの発行、協員性の紹介及び事業内 ロバンプレットの作成、を指、協議性の情報収 無発息・バーム・インを を表し、 が基本のによる 参摩区機が出来るとの一条連続で図るため、 フロジェクトテームを形成し、協議性を対象に アンケート開催や、事業の内容の発起し等検討 を行った。	3	バスポートの発行、協議さの総介及び事業内 おパンプレットの作成・配布、協議さの情報収 第代書 いんしいの様とのが、 地域への広報 参摩区機合社会との連携等と行るこの外 を受配したという。 を受配したという。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	3	パスポートの対抗、影響が音のパンプレットの作成・配 市、ホームペーツの更新(協議との情報の環境間)、影響へ の活躍が変化が強化の構造を行うた。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、 シェナトチームとの情報で、クラロギの情報でプラジュールを 超工で、最初である。 で、最初である。 で、2 日本のがインボートは 2.32 1 収換行した。 2 日本のパンボートは 2.32 1 収換行した。	3	画報率、各部金会で行われている他し歩を追いて、予算でいて 所一の内持り及び店舗を行ったことにより、新規の問題との中が があった。 「アナモル中部」に関連して、区域の耐害会会での影響である。 「アナモル中部」に関連して、区域の一部の対象があった。 フ等びいスポートの開始の1つである「物域社会・一体となった場 でり体制にロッパのかで説明することで、子どもじとって安め できる場面で、クリアを進せれて、一根でが結婚の終望が仕てきて いる、様似い物質でのチビとの存むりが制を機等するためにも、 係他会会での可能的の地面が後と考えられる。	С	多摩区役所	地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当
180				子育てフリースペース 「ママと遊ぼうパパも ね」	区内4か所を会議に、公立保育圏、主任児 製要長、区社会部社協議会、矛育て支援セン ター学との対理により、予管(フリース ベースを開催し、親子のられあい・文章・相 版の地とする。	変数で保育している哲学的の総子を主な対象 に、公区保育所の保育士、翻議体、栄養士と地 はの民工を表示程準度があり得び不安でストレ 文の軽減及び開立して公主、代替サント・デギ エークドウを目的とし、不特定が多数の本 なりません。 の変数としている。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	3	変症で保険している対学的が終子を主な対象 に、公立保育所の保育士、指連体、栄養上さ地 切の民士を担保定要担け場の得が不安でストレ スの軽減以が続けこの交流、代替が)・チ育で イドシーンがりを目的にし、不特定多数の未 が見たしている。 の提供を行うた。	3	要担で採用している対学的の様子を主な対象に、公立保育 所の部件は、栄養士と知識部の保育所の保育は、地域みまも り支援センターの保育は、電路域、栄養士と地域の促生表現 受理要起列学館の研究やセストレンの最近以前側に立め、 選・時間がリンチ質でオットシーン件が包括的企し、不特定 を対している。 選・・時間がリンチ質でオットシーン件が包括的企し、不特定 を対している。 サービーンには、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3	■成果・民営化による公立保育所数の減少に伴い、平成2.8年表 より区内3.9 所でも1.0回の実施とはったが、各地区とも民間結 可能有所の加力をなて大阪という音で実施した。 単一子ともの発生した機能して、本事業により、子どもの守られ る種類が促進された。 ■課題:今後も民間認可保育所等の協力を促進していくこと。	С	多摩区役所	地域みまもり支援センター 保育所等・地域連携
181				こどもの外遊び事業	家族や生活様式の家化に伴い、子どもを取り巻く環境も変化していることから、連動場 り巻く環境も変化していることから、連動場 中公園等の広場。原辺にある局域環境の中で 子どもの機能力を培う「こともの外域が」を 推進する。	地域運動促進のためのリーフレットを3000 部件成化、電影学の機会を送用して配布した 他、催じ場を起口にアセールを20日からた。 人材の解析のための保育付護権(6日・12- は乗りなりである。 地域外型の子様(他の日本)を20日から が成立した。 がなる。 がな。 がなる。 がな。 がな。 がなる。 がな。 がな。 がな。 がな。 がな。 がな。 がな。 がな	3	地域運動促進のためかリーフレットを3000 部件成は、建設をの機合を活用して配布した 6、催止等を送りにアビールを20目立た。 人材の病板のための保育付護を(7回・1つ- 対象機した。 地域外2015時間の支援(物急減は、前級を 製料2015時間の支援(物急減し、前級を が15、外遊びの後し(主催・能力)を3回開催 15、外遊びの後し(主催・能力)を3回開催	3	逆域理解の原理及び活動PRのためのリーフレットを 6000数(2種各3000数)作成し、音子手板文特殊な代 影響の理念性若用して原作した。 した。 自した。 自動した。 総数)に近7番時期をク支援(常長別社、広報支援、スタッフ ※数)、強び活動解す他しながら、外建びの便し(主催・協 力)を3回機性にな	3	■原果・外電/圧動に対する地域理解が除々に広がって割り、多 世代交際の理となって音だ。 ■「子ともの権利」に関連して・外遊び圧動が多世代交流の理と なることで、地域化すどもを見守る環境づくのが使速された。 ■理難・外遊びを推進するほい呼の高齢化に伴い次世代の人材を 程成する必要がある。	С	多摩区役所	地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当
182				こども・子育て支援学級 事業	概ね2歳から3歳さでの家庭で保育している主対学・間の紹子を対象として「子寄り- が開行し、古文はするプログラムや点の通を が関行し、古代では、100円で、 が、100円で、100円で、 かっている。 かっとっとっている。 かっている。 かっている。 かっとっとっとっている。 かっている。 かっている。 かっなっとっている。 かっとっとっている。 かっこっとったっとっとっとっとっとっとっとっとっとっとっとっとっとっとっとっとっと	土別省層圏、生田保育圏、長年こども文化センターを会議として各名の図案的し、多都市民 教を由急したものの実施を企画の関係を会通したるのの実施を企画を開催した。 参加的は合いてもらばて、保育局の遊園側がなった。	3	土湖海南區、生田保南區、いてわ長尾ことも 文化センターを名遣として著・秋に分かれる6 日を5コース第四、多都市販館を名遣とし た合詞の政策会やを写開催した。参加計画 第各種続して活用するきっかけとなった。	3			■成果: ■「子どもの権利」に認進して: ■課題:	E	(多際区域形)	H28年度より廃止
183				子育て支援者機成事業	虐待予防及び地域や社会関係の再構施を投 別に入れた地域の子育て支援体制の拡がに向 けて子育て支援者の機成を行う。	子育て支援者際は関係を実施(子育て支援に 係名字が開会の記述、地域の支援活動の発字を 新等)した。 区の子育で連絡で、このは一般の表現である。 この子育で連絡で、このは、こので、こので、こので、こので、こので、こので、こので、こので、こので、こので	3	子育て支援者際収集を支援(子育て支根に 係名字影響会の設計、影響の支援活動の房学体 勝等)した。 区の子育で支援に帰る3課である「2・3歳児 の子育で支援に帰る3歳である「2・3歳児 ろが事業を企憲運営した。 「第7年間でおります」という。 2が事業を企憲運営した。	3	全15回に回る子育て女技者無成道度(子育で女派に係る 学問格会の類別、切場の女政活動の男学体験等)を実施し に 調的の哲子生により顕微されている2・3歳間の教子の日 境所フィリを目的とした。〇分ば事業を全10回策的した。	3	■成果: 区内所周辺の小学校にチラシを配布したことで、当初、 切講者の類単人数を20名としていたが、実際にほど6名の必得 があった。 一分別、上陸連して、育符を初時さた段えてもらうこ です。 子とものを増やかな成果につなけるためた。 、	С	多摩区役所	地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当

B樂 No.	具体的な取組	条例の 条数	再揭事業	事業概要	平成26年度実施状況	平成26年8 の達成度	平成27年度実施状況	平成27年度の 達成度	平成28年度実施状況	平成28年度の 達成度	3年間の成果と課題	3年間の自己評 価	平成28年度の所管 局	平成28年度の所管課
84 (8	ガイドブックの配布等 による子育に関する所 報定性や、各種相談事業 3 など、育ち・学ぶ施設及 び関係機関において、子 どもの酸育に関する必要 な支援を行います。	18条	子育て支援情報の提供	子育で支援情報を掲載した「多摩区子育で Book」を作成。配かするほか、子どち・ 子育でに係る支援制度や相談の、開墾団 体、催し、地域情報を各体系的に紹介した 「多摩区子育でWEB」を連生する。	「多層区子育でBook」を5,000部件成し、 田子手帳女付替や乳幼児期の子育で中の転入者 に取れした。 「多層区子育でWEB」を全体更新2回の他、 服時詳細更新を20回程度行った。	3	「多様区子育でBook」を5,000部作成し、 田子手様交付着で乳が見締り子育で中の私入者 に登出した。 「多様区子育でWEB」を全体要款/2回0後、 関連計構要素を2の目投行うた。他に7区合同 でフェイスフックを立ち上げた。	3	「多度区子育でBook」を4500部作成し、母子学値交付者でも30次級の子育で中のた人者に名かした。 「多級子育でVEO」を含め来解える日子学校とのできる。 「名級子者でVEO」を含めませる。 「名金国フェイスックの以「US244時級)子育でアプリ への情報母素を50回程度行った。	3	■原果:フェイスブックやアプリなど多様なツールを活用することで、より多くの情報を必要とする市場へ情報的はすることがで また。より多くの情報を必要とする市場へ情報的はすることがで また。よりまたの情報というでは、「多板区子青でBook」内に 「子ともの権利」に関するコーケーを対す、自発に多めた。 ■回題: 地域の実情及び子様で改変のニーズを告慮した情報の提 体性検討する必要がある。	С	多摩区役所	地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当
85			大学との連携による子 で支援事業	原生区・6大学、公学協康ネットワー タ 2 を表用した大学との連携を基して、未就 の分解でお客を信機機・ウコンサートなど の子育て支援を行う。	昭和音楽大学との連携で吐得や未就学完様子 向けのコンサート、田間間将学園大学との連携で で遊りの会や時年記載、和代大学のの連載で報 子の遊じの会、玉川大学との連貫で保護者向け 調整を実施した。	3	総和音楽大学との連携では大学の本格的なオ ハラホールでの記録や本報学別報子向打のコン ナート、回顧研予電気学との通常では近りの 会や相称記載、五川大学との連携で保護者向け 議を実施した。	3	総利用業大学との連貫では大学の末極的なコンサートホールでの末ばが明確を存すのコンサート、田田間中学業大学との連貫では関係の企業大学との連携では関係の企業を表現した。 エリバ学との連携で保護者向け環座を実施した。	3	■原果: 各大学の特色を生かした子育て支援影響を通して、終子 が一緒に乗して機会が切除してはがものかけること、大ども の確全な発生・対象を包含した。 ■「子ともの複彩」に関係して、拠球とのつながりを持つこと 、安かでもうずで、関係していったができた。 ■1786、各大学と開発し、効果のは子とも・子育て支援事業を実 前する。	С	麻生区役所	地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当
86			大学との連携による体験 学習	「森生区・6大学 公学協業ネットワー クリ を活用した大学との連携を追して、小中 学生を対象に体験学部等を行う。	設和高楽大学との連携でコンサートや楽団体 験、日本映画大学との連携で設画づくり体験。 利比大学との連携で施設保学や事跡な影、明治 大学との連携で作成業業齢別を学や収開体験。 五川大学との連携で施設保学と養婦遺産を実施 した。	3	総和豊楽大学との連携では小学牧4枚でのミ ニコンケートや問題指導、日本映画大学との連 技では多画ゴミり体験、私地大学との連携では 施設与学や自然体験、組分大学との連携では 施設与学やの提供では 活成の大学の連携では ではロボット講座と施設与学を実施した。	3	昭和日本大学との連携では学生の企画によるコンサートと 養務の無条体験、日本本面大学との連携では計画するりな との連携では先端展集地処界学やの様体験、エ川大学との連携 では大学がにあるテャレンジコースでの体験学習を実施し た。	3	画成果、各大学の特色を生かした体験学習を進して、地域の大学 の学生や観子の女派やらぶあかに包造した。 # 「子ともの無料」に関連して、ことが自分の意思や考えを発 信し、同胞とすり合わせて表現することができた。 単語:各大学と問題し、効果的な子とも・子育て女孩事業を実 指する。	С	麻生区役所	地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当
87			子育てカレンダー	区内の子どもに関する情報をホームページ を追いて一方例に提供することをから 内の関係機能のはおり予まが予算をとさの保 課金を対象とした子覧で支援のイベントの情 税を収集し、掲載する。	区内の関係機関及び保育圏等から未就学見と その保護者を収録にした子育で支援のイベント などの情報を収集し、毎月「子育でカルン ゲー」として一ムペーンに提載した。また、 区段所内ことも情報コーナーで組媒体での問知 を図った。	3	区内の関係機関及び保育圏等から未対学児と その危険者を対象にした子育で支援のイベント などの情報を収集し、毎月「5ぴっこカレン ター「子育てカレンダー」としてホームペー ジに掲載した。また、区の研究ことも情報コー ナーで結撲体での周別を図った。	3	②のの地域機関という事業等からませずだとこの指導者を 対象に、此子者でも後のイベントなどの機能を影響するとと では、、関係部を情報を観かがある整理と、毎月10日の カンター(子者でカルンダー)」としてホームページに掲 組した。また、反映所立とも情報コーナーで解媒体での同 知を図った。	3	画楽 (締役の以降)力法を歴史したことが、明報節の対抗に対し 細胞レイデリンを主义したことが、30分のくの情報を必要が 使することができた。 『子どもの様に [知識して:子育てに関する情報を認例する ことで、子育で支援を推進した。 理想: 今年を権力を認体を活用し、より効率のは場解認がだっ さるよう検討していくの参加がある。また、情報値の地加齢的があ カ、より見やの状態をある。また、情報値の地加齢的があ カ、より見やの状態を	С	麻生区役所	地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当
88			子育て人材パンク事業	区内で活動する子育でサークル等に保育や 遊びのボランティアを派遣し、グループ活動 の支援を行う。	「群生区子育で人材パンク事業」において、 子育でグループに対して子育でポランティアを 46名派遣し、グループ活動の支援を行った。	3	「商生区子育て人材パンク事業」において、 子育でグループに対して子育でボランティアを 46名派遣し、グループ活動の支援を行った。	3	「現住は子育て人材パンク事業」において、子育てグルー プレ対して子育でボランティアを70名派遣し、グループ活動の支援を行った。	3	画像里、子育でグループや子育でボランティア活動を活性化する とができた。 ■ 「子ともの機能」に関連して、様々な認識がある。 「おかして配達」は、予有での協かやストレス等を軽減することができた。 連盟語、子育でバランティア会員と利用会員の活動がより活性に されるよう溶画していく物質がある。	С	麻生区役所	地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当
89			こども情報コーナー 等す (麻生区)	こことも情報コーナー」等に子ともの権利 や子ともの無難に関する情報がソフレットを 撤去、情報の発息や危知をする。	区位所「こども原稿コーナー」やイオン新百合ヶ丘店「インフォメーションコーナー」に子 さちで再て「成フタメーションコーナー」に子 さもで子育て「成するチラシ、バンフレットを 置き、情報の発信や序知を行った。	3	区段所「ことも情報コーナー」やイオン新百 合り丘店にインフォメーションコーナー」に子 こもむ子等にているララシ、パンフレットを 置き、情報の発信や周辺を行った。	3	図明 「ことも開発コーナー」やイオン格面合った色「インフォメーションー・ナー」と「ささわら事化に関するチラシ、バンフレットを置き、情勢の根を特別と行う。こ。また、アラレイアンを実にすることを表示さるよう、ホルダーを作成し続り付ける等の工夫をした。	3	■原果:こども情報コーナーの設備や、チラシの配架依頼や版会 に対しず際にお助することが、より多くの情報を認めますること ができた。 ■「存ともの権利」に関連して、バンフレット・チラシ・ボス ラー等の起源・掲示を通して、7分でに関する情報やこともの権 利について、内民に広く情報を持ちることができた。 温度器・記訳が各単に記載しているともに、配限依頼や広報 物の管理についても監理していく必要がある。	С	麻生区役所	地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当
90			子育で情報誌の発行(現 生区)	子育で情報誌「きゅっとハグあさお」や 「ちびっこおでかけMAP」などを作成・配 布し、子育で情報の発信を行う。	子育てガイドブック「きゅっとハグあさお」 (3,00080年度) や子育で開始誌「ちじっこお てかけMAP」(5,60080203)を配布し、子 存てに役立て海線の列産を行った。また、新たに父親向けリーフレット「はば育 児なぼけっとガイド」を3,00008年成、配布した。	3	子育でガイドブック「きゅっとハグあさお」 (8,000回改訂) や子育で情報は「ちじっこお でかけMAP」(6,500回作成)を配布し、子 育てに登立つ情報の発信を行った。は有門公ぼ また、父親向けリーフレット「はは毎門公ぼ けっとガイド」(3,000回過期)を活用し、父 我の南児参加の促進に繋げた。	3	子育でオドラク「海ッンとハクを料」(6,000年 記印・シラ子(前48年 1507 ことでかけMAC)(12, 500日中の、を配布し、子育でに見立つ情報の発信を行った。	3	■成果: 各相談機関や子育て中に向立つ機能を発信することで、 子育での成階者の支援をすることができた。 ■子ともの機能して関連して、保護者の例でしよる孤立郎や不 安の軽減をすることができた。 ■試施: 子育で特別の対象を対え、「歌川機能と連携し、子育 でに発力が得を行かりですく提供する必要がある。	С	麻生区役所	地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当
91			教育広報誌「教育だより かわささ」	本市の児童・生体、保護者、教育関係者、)市民を対象に、各種教育事業への理解を定め るために「教育だよりかわさき」を持ちす る。	子どもの権利への理解を深めるため、教育施 党や学習の機会に関する情格を児童・生徒、保 職者及び教育服務等であり、おかわかせずく受 供するために「教育だよりかわさき」を計3回 発行した。	3	教育協策や学売の場合に関する情報を行道・ 生態、保護者及び教育関係を等に対してわかり さず、設計るのかのは使用・変してかかり さず、設計るのかのは使用・変してかかし さが、設計るのがのなが、であった。その機 利についての理解を深めるための記事を掲載し た。	3	教育拠免や学習の場合に関する情報を児童・生徒、保 選者及び教育関係者等に対してわかりやすく歴史するための広報語「教育によりかけさき」を打ち回発行し、そ の中で、子ともの推制についての連絡を認めるための記 歩を掲載した。	3	■原来、	С	教育委員会事務局	企画課
92	ひとり親や、障害のある子ども等、個別の支援 を必要さする子どもを持 をの親等に対し、各種相談 事業や子ども発達を 業等により養育を支援し ます。		117 子育で短期利用事業	所最福祉施設等の簡優機能や地域の資富を 芝用し、保護者の疾患、出售第二より整理に 対ける護衛が開催になった子どもを一軸的に 預かり、義青支援を行う。	保護者からの相談に応じ、透切に事業実施した。	3	保護者からの相談に応じ、適切に事業実施した。	3	保護者からの相談に応じ、適切に事業実施した。	3	Manage 保別の支援が砂景となる。ひとり競や障害のある子とも 在対り環接者に対し、相談支援を実施し、才育て取締利等等 の数支援を加入しては、才育で助料明等率の実施により変越 における特別発性等の投加に関することができた。 日子ともの機能をの投加に関することができた。 日子ともの権利を守ると言う地点から支援を実施した。 大きの権利を守ると言う地点から支援を実施した。 関連を書きまたり一種を用していけるよう、今後も市民への 周別を扱っていた。	С	こども未来局	児童零庭支援・虐待対策室
93			ひとり親零駆への相談接事業	ひとり報答館がその状況に向じた必要な支援を行うることができるよう。P2回答義等 選を受けることができるよう。P2回答義等 金、保育が入場等の受け、相談をして、状 定於理想し、必要に応じて、健康や子育で相 談別、保健部と会社性機等の専門職による 総合的な支援を行う。	児童民籍手当の現児福提出時に、ひとり報家 動物けの支援機能のリーフレット等を配布し た。 た。 日子書降補社資金の対象を父子に旅免し た。 大は、 日本の利用申請称には、状況を聞いたうえ で、 日本の表現、おど、等が論による相談支援を 行うた。	3	原屋計算手当の港内局別地向に、ひとり概念 屋前力の支援機体のリーブレット等を配する とともに、母子・メテ編性センター及びハロー リーによるとは実施を行った。 第二条が大きない。 するため、反応所や母子・火子能能センター等 関係機関を対象に支援者前参を実施した。	3	7区段所2支所において、児童技術手能の現代建設出 時に、ひとり解策症向けの支援機能のリーフレット等を 配布するとともに、母子・シ子福祉センター及びハロー フープによる化理解を、合計・1百円であっまる。 また、ひとり報業者の別機制に、感じに対応するで また。ひとり報業者の別機能との一つ事業所機関を対象 して支援者所移を引き終さりた。	3	■信果・児童民養手的の原の原型地域に、すべての反において、 日子・女子報覚センター投げれエージーンのは婚姻施を行ったことにより、ひら数要数を全核に新りることができた。 ■「子ともの権利」に関連して、諸兄原原が終によれずのリーフレットの心部により、ひとり解唆症に対して制度や振館の時も認めることができた。 単二郎 (区別原産業社センターと号・父子奉社センター等項 保機関とのさらなる連携の推進を図る必要がある。	С	こども未来局	こども家庭課
94			母子・父子福祉センタ・ 事業	ひとり接受電が抱えている様々な問題についる 各種情能に応じるととでは、生命・献 本を理論を基を行い、生活の変化や自立の支 混を行う。	田子書牌報社法の改正に伴い、「田子福社センター」から「日子・父子福社センター」に名 から変更した。 北京都は他とのマールでは、 北京都に乗りた。 北京都に乗りた。 北京都に乗りた。 北京都に乗りた。 北京都に乗りた。 は、「ソコンノ講教や順兄株定等の課権を参議し し、「ソコンノ講教や順兄株定等の課権を参議し た。 、責権取得等による教職・私職を推進し た。	3	ひとり前季度に対して、生活・似労相談に応 しるとともに、6度度の対象を設定しながら生 が成分セーアにありた。前分割が通常を帯でし で 第5年間の交現を行った。また、ひとり物等度 の子どもに対する似労相談をおめた。	3	ひとり職家庭の親子に対して、生活・放労相談に応じ るとさもに、各家庭の認識に遺跡した自立文統計器を奈 定し、ひとり際に対して、ハンコの機定や機器が内勢 事務審置土を目指す方向けつ於明治等の故葉支援機座を 実施することで、故葉や指線の支援を行った。	3	■原果・センターにおけるひとり検要板に対する材象・生活相談 や、減率・生き技術の各種無を搭して、ひとり税等値の生活の 変性や、子びを表で世帯の自在意の ■ 「子ともの権利」に関連して、センターにてお兄の対策を確保 し、王辺端・権政治の経済を発揮することできた。 ■閲覧・権政治の経済支援機関の中でも、受用希望能が多い場 思、少ない環境のなって対かるため、ニーズに合わせた機能の 重要性を対して必要がある。	С	こども未来局	こども零返課
95			115 児童家庭支援センター。 業	児童の福祉に関するさまざまな問題につい すて、児童、ひとり報覧室、その他の意覧から の相談に応じ、必要な知言・指導を行い、地 域の児童、寒夏の福祉内上を図る。	児童又は保護者からの相談に応じ、必要な助 書等を行ったほか、児童部社施設で実施してい る子育で和助用事業(ショートスティ・テイ ステイ)の問題を行うなど、家庭の養育を支え る支援を実施した。	3	児童又は保護者からの相談に応じ、必要な助 言語等を実施した。また、児童部族院で実 施している予官知師利用事 ジョートステ イ・デイステインの頻繁を行うなど、家庭の費 育を支える支援を実施した。	3	児童又は保護者からの相談に応じ、必要な助害指導等を 実施した。また、児童福祉制度で実施している子育で延 時期用事業・ビュートステ・・ディンティ)の動脈を行 うなど、幸産の費用を支える支援を実施した。	3	■成果:子どもやその保護者からの相談に取じ、砂磨な助高指導 を実施するとともに、子育で知時中川事業の必要な変更に対する 開きを支える政策を関した。 ■「子ともの特別に関連して、支援が砂要な実施した。 プともの特別に関連して、支援が砂要な実施した。 「記書」では、アンストラインでは、アンストラインでは、 「記書」のは、アンストラインでは、アンストラインでは、 「記書」のは、アンストラインでは、アンストラインでは、 「記書」のは、アンストラインでは、アンストラインでは、 「記書」のは、アンストラインでは、アンストラインでは、 「記書」のは、アンストラインでは、アンストラインでは、アンストラインでは、 「記書」のは、アンストラインでは、アンストラーンでは、アンストラーンでは、アンストラーンでは、アンストラーンでは、アンストラーンでは、アンストラーンでは、アンストラーンでは、アンストラーンでは、アンストラーンでは、アンストラーンでは、アンストラーンでは、アンストラーンでは、アンストラーンでは、アンストラーンでは、アンストラーでは、アンストラーンでは、アンストラ	С	こども未来局	児童家庭支援・虐待対策室

8	¥.	クロ业 家庭、 _{具体的な取組}	条例の 条数 再掲		事業概要	ともの権利保障(第1 平成26年度実施状況	平成26年度 の達成度	平成27年度実施状況	平成27年度の 達成度	平成28年度実施状況	平成28年度の 達成度	3年間の成果と課題	3年間の自己評価	平成28年度の所管 局	平成28年度の所管課
11	6 (8)	ひとり類や、障害のある子ども等、優別の支援 を必要とする子とを持 (多)対等に対し、各独制制 事業や子ども発達支援事 業等により競育を支援し ます。	18条 116	里賴酸育相互援助事業	里線型土の相互交換を世際的に行うことに より、情報交換や養育技能の向上を図るな と、子どもが微やかに成長できる環境を整備 する。	里親支援機関と協力し、目的別の単級電子の 相互交流の機会を設けることで、機解技術の向 上を留った。	3	里純支援機関と協力し、目前的の里報司士の 相互交流の機会を設けることで、養育技術の向 上を包った。	3	聖殿支護機関と協力し、目的別の影響を主の相互交流の機会を切けることで、義實技術の向上を認った。	3	■岐東・聖報四土の相互交流により当事者の悩みや不安の共有 と、護教技術の基め合いができた。 ■ 「子くちの特別、に関連して、自由立のにより事務が悩みを抱 又込まするでは、に関連を子くたに認料で含るようにすることで、 子ともにを定した、関係権に基が内な主名を開催することができる。 ・課題・聖教のニーズをとうえて自の部の相目交流機会を続ける ことで広く登録への参加を創具する必要がある。	С	こども未来局	こども保健福祉課
11	7		75	地域療育センターにお る相談事業	○歳から18歳までの障害及り障害の疑い のある児童とその度はを対象に、関係無関と 連携をとかがら、相談、影所等の始ら物態 育サービスを展開し、こともに沿った援助を 総合的に行う。	障害及び障害の疑いのある児童とその家族を 対象に関係機関との連携しより、診察等の総合 19商育サービスを実施した。	3	子どもに沿った援助を総合的に行い、一層の サービス向上を図るため、指定管理各への移行 を実施、それに伴う円滑な事業移管を行った。	3	- 棚のサービス地上を図るため、指定管理者への終行を実 施した中央機関センター、内部・北部地域機関センターの適 切な運営を提供し、民国の川田西部地域機関センター合わせ 市場4日が内の機関センターですどもに沿った援助を総合的に 行った。	3	■成果: 子どもに沿った支援を総合的に行い、一層のサービス向 上を図るため、指定管理者への終行を行った。 ロードイとの小様は「応達して:1人1人の特性に応じた総合的 な支援が行わけれた。 ■課題: 子どもの特性に応じた一層の総合的な機屑サービスの契 りを行う。	С	健康福祉司	障害計画課
1:	8			学習支援・思慮所づくに事業	健全な育成協議を指持することが困難な生 の 55種類的世帯の子でもに対して、学数を 部分の世帯を起することより、高等数を 等への世帯を放け、もって貧困の連続のか はを含むことを目的とする。	中原区、多原区に加いて可点26年度より事業を開始し、加りる時代をは、 を開始し、加りる場所では実施化とった。 50年9年年は11千人で、展記やの心が111千人で、展記やの心が111千人で、展記やの心が111千人で、展記やの心が111千人であった。	3	市内80所で、生活保護場站世帯の原印字写 年生を対象に、第2回・1日20時間の貯室を整理 し、最終学への選挙を支援する学者立て書業者 平電之了程度が無空登録的は「中国では 事業とでは、第2回では、100円であった。 100円であ	3	生活局機能性等の中学生はする学習支援事業について、物場を所で、返回率、自20個にの学習を指導事を実施し、高校学への変更が、第21年、自20個にの学習を指導事を実施し、高校学の学型に向けた技術を扱いていたが、事業の終行管理の悪化に努め、効勢のな事業性基を認ったこと、「100年1月17日の美国企業に大阪の美国企業による。「100年1月17日の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の	3	■電車、生活高速機能機の中学によれる容易支援・思想所力 くり事業に対し、環境を中途を発する。 の事の学科生に対して、市内6の分析で図20 + 1823年 の学習を発生していた。 の学習を表現していたが、現場を中学1・2・3年生に対して、市内6の分析で図20 + 1823年 では、実施の学習を表現していたが、現場を中学1・2・3年生に対していたが、現場の実施の行法しておけて、まる保護受験を推進していた。 ■「孑孑ともの権利」に知過して、生活保護受渉性帯の中学生に対して受験を推進しました。 「課題・国とおいても、「実施の機の対し、では、主に対したの対したのがありから性の関いれているが、生活の課題を指し、「対したの対したの対したの対し、対し、に対し、に対し、に対し、に対し、に対し、に対し、に対し、に対し、に対	С	健康福祉局	生活保護・自立支援室
1:	9		73 214 217 351	児童家庭相談事業	子どもに関する様々な問題につき、変麗その他からの相談に応し、子どもが有する問題 又は子どもの真のニーズ、子どもの誰かれた 環境の状況を砂能性に戻え、個々の子どや 変越に勝ち効果的な複節を行い、もって子ど もの福祉を図るとともに、その権利を確議す る。	子どもに関する様々な問題につき、変数その 他からの相談に助し、区保所内部を高及び児童 相談所等場所機関との連携のもらり解なる様を 実施した(単成26年度相談受付件数1.870 行)。	3	子どもに関する様々な問題につき、寝庭その 他からの相談に応じ、区の所及が見事権所が 原保機関心の支援を実施し で、(平成27年度相談受付件数2.773件)	3	子どもに関する様々な問題につき、後継その他からの相談に 助し、安保所別が発展制設所等場所機関との連携のとこの様 な交接を実施した。(年成28年後制設党付件数4,080円)	3	■成果、反の消及以外整理和認所の連携による支援に関して、子ど もの権利が守られるよう知恵を行っている。 1 「子ともの神紀」に発見して、子とややその変数からの相談が あった場合には、最初な相談な路を実施し、子どもの神紀を守っ ている。 ■課題: 挫折する相談に対象するため、引き地き区の所とが発明 動がの場の必要数によりの諸な立理を実施するの後がある。	С	こども未来局 区役所	児童家庭支援・虐待対策室 地域みまもり支援センター地 域支援担当
2	o		72	ちびっこ健康牧室		題述の理士の発達に関する構築、書語経覚士 の言葉に関する観路、体育批時間、保持工によ 必続子な味や近と適してが初か過度な分解発、 遠を使う事業等を提明しか要に向いて他等業と 速度である場合を開発した。 中学化の加た上型の現り機会によって参り、保護 をからも対象であった。	3	題水心理士の舟道に関する構然、言語経覚士 の言葉に関する観路、特育指導機、保育工たる 毎年7年第一位を通てが初ウ地企会介着発 途を招す事業等を提問しか要に即じて他部業と を指定させなりた動物が、支援を削いた。同 年での加たと思い良い機会になってあり、保護 をからも好評であった。	3	部体の使生の発達に関する構築、 音感聴性士の音楽に受 する機能、特別等機能を対して、 を関する機能を対して、 を対して、 に起いて他等単立を基準されている機能ができた。 に起いて他等単立を構造されている。 した、同年代の効化と語ぶ良い機能になっており、保護 者からむ対すてあった。	3	■本書、「無外のほうの発化」第3名様式、悪話競技力の意味に対 なる構造、体験研究、保着性よる化学体が地位が企会に対 の場合な対策外が全位です事業なを展出しめ悪いあして他事業と ・ 通常力ながからませます。 ■「才ともの推判」に関連して、本事事により、例の所理を公乗 が発生に関して記され、安心して関かびである場合機能に貢献 した。 のでは、海神が建して安を持つ無子が増えていることが必要な の、海神が生して安を持つ無子が増えていることが必要な の、一次を超が外理され、生きリズムをの大切させる様学等する ひりこの健康を受かれ来きの。	С	こども未来局 区役所	こども保健福祉課 地域みまもり支援センター 地域支援担当
2	1		79	発達に課題のある末線が 児への支援事業		「こどもの力を育てるために」を6日実施 し、成果発達に関する影響会や、終于のられあ い遊びを実施し、子どもの発達に悩む保護者を 支援した。	3	「こどもの力を育てるために」を8日実施 し、成長発達に関する学品会や、終于のられあ い遊びを実施し、子どもの発達に悩む保護者を 支援した。	3	「こどもの力を育てるために」を8回時催し、成長発達に関するが部会や、リトミックを実施し、子どもの発達に悩む保護者を支援した。	3	■成果:子どもの成長発達に関する学習会やリトミックを実施 し、子ともの経験者の温力的に定めた。 日でよとの時間、口温度して「光準に活動があり、信別の支援 の大変を行った。 の交換を行った。 「課題:子ともの発達の協力を持つ保護者に対しての、効果的な 品類が免費である。	С	川崎区役所	地域みまもり支援センター地域ケア推進担当
2	2		79	子どもの発達支援事業 (幸区)	子どもの発達支援を行っている間隔欄物 支援団体で構成する。等区ことも総合支援 イッドラーク機能の設備こともの発達文 経験を行っては、課題がある子ともへの構造文 する。 また、発達工業のある子ともへの構造文 度、保証工業を指すっている。 できないである。 を必要している。 をでしる。 を を を を と。 を を を を を を を を を を を を を を	示ともの発達について支援を行っている関係 研究を対象する。特定では対象する。特定では、 も総合支援ネットワーク会議の対象 「こともの 発達交換」を公面実施、そのヤで、各種総の 機能を支援について需要文献や情報を発行った。 で、また、この、支援を担い関係会の記、保護 を行っている。	3	子どの外部についてを採有すっている関係 類似の子ができまった。 「おいます」では、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 が	3	外組織部によることもの発達学習会を2回家施し、発達 に課題のあることも日常生活を支援することができた。	3	■ 「子ともの成長を向すとともに、保護者が子どもに適した 子育でを多べるように支援できた。 ■ 「子ともの終制」に関連して、鍵やかな成長が促されるよう引 う続き支援している。 ■ 「課題: 今後も免退に課題のあることもと保護者を支援してい	С	幸区役所	地域みまもり支援センター 地域支援担当
2	3		81	子どもの発達支援事業 (中原区)	「京とものかまま構造計会」を設置し、 達に整理のある子ともの理解をに向けた機 助について味味を行う、また、その保護を 力ともいの数のよりの自との姿きされ に、候議者相目の力を占用できるよう支援を おになう。	「子どもの発達支援制力。 各区国際に 機関の支援状やは製化」の17年前、 では、大型機能が170年間を計せ、 電影で支援機能が170年間を計せ、 電影である。 単一目を開催して、 に関係を対象とした。「子育ででき、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	3	「子どもの発金技術的な)を3回陣化、保護内ではないでは、100円では、	3	「子どもの発達を接続的会」を2回物等し、各種物の支援 状況が開発していて物料件もした。また文本器が1のが終合 を4 1回側をした。現在文本器が1のが終合 子を収象とした「子育でもラテー」(計10日・譲乗会会 う、成態が収率器を収象とした「信息を記さっ」(110日 ・ 10日 ・ 10日	3	■成果: 放売・児童の丹蓮支援に関ける関係機能が開発を持有することにより、自つの前編に対する安証スキルの点にや、合機のつるさが必要ながしたことできない。 ■「子ともの神和」に築きして、保護者支援等率により、伊越等を持ち込め、学校の保護者がその性化と合った影響を参ぶ機となった。 「理師! 丹蓮支援の関係者がテンサワークとしての検討会と、保護 名支援の定めつとオーの向他により、課題の共有く検討を続ける必要ながあったのでミブーの向他により、課題の共有く検討を続ける必要がある。	С	中原区役所	地域みまもり支援センター地域支援担当
2	4			外国人の子育でひろは (多摩区)	数学的の子どもを持つ外国人親子のための フリースペースの開発により言葉や皆慎が達 うなかでの子育ての支援を行う。	実施回数11回、延べ参加椅子 88組 1回 あたり予切ら組 今年8450、ひらがなの漕さ をフログラムに取り入れ実際に、が帰還の 別しか予切措施が近しなど、子育てこ必要な情 を発生した。	3	美術回数11回。参加教子は延べ55組、1回 あたりち組程度の教子が参加した。ボランティ アの募集に関しての工夫が必要と感じた。	3	東施図数11回、延べ参加較子47組1回あたり平均 4~の絶の勢加があった。保育圏でが推撃への入場の情 報文数やランチ会を実施し、情報遊供・共有を行った。	3	■信果、第字形成での広報やランチ会の実施を取り入れたことにより、参加をが増加し、総関土のコスポリを作ることができ、よりの実施なら構造製・ 14月が出来。 1月では、1月では、1月では、1月では、1月では、1月では、1月では、1月では、	С	多摩区役所	生涯学習支援課
2	5		82	幼児の発達支援事業(摩)	「言葉が遅い」、「多動態与過さが無い、「ごだりのが緩ら」など結構及び対金 も位の発達に関する不安心、育てにくさき程しているが見た受護者に関する不安や、育てにくさき程しているが見た受護者に対い、大さの発達を 促す支援と保護者の関係不安や負担を軽減を 図るように支援する。	1歳半と3歳児健診後のフォローグループ (年12回実施)と3歳児健診権にが内積的 (年45回)を3歳別に3歳四辺にののでは を行ない、子どちへの発達支援と保護者の特別 供担の経済を行なった。	3	1歳半と3歳児健診境のフォローグループ (年12回策的)と3歳児健診域に切け飛動 (中30回)を3歳児に、第立定性に切け飛動 を行ない。子どやへのたを支援と保護者の特別 規則の起減を行なった。	3	1 簡単と3歳児職診後のフォローグループ(各グループ年 1 2 日東海)と3歳児難診極と幼児問節(年3 6日)を実施 した。フォローグループは小の大切が運動部構築に合わせて 対象を基金の発生してい、参加を必須を受えている。 で、 第四女皇と間か支援を行い、子ともへの発達支援と保護 者の権労発力を行った。	3	■成果:集団支援と個別支援を行い、子どもへの発達支援と保護 者の制度機能の整備を行うことで、子どもの特別を調理すること ができた。 ■「子どもの権利」に関連して:子どもの特性に合わせた支援を 行うことで、個で対重され、戦やかな成長を保障される権利が 促進された。 ■は関:子どもの権利者重かに处。今後も子ともの発達と保護 の開発を支える支援体制を検討し、機能していく。	С	多摩区役所	地域みまもり支援センター 地域支援担当

で成28年度実施状況 及び 3年間の自己評価 施策の方向Ⅲ 家庭、育ち・学ぶ施設及び地域における子どもの権利保障(第3章)

事業 No.	具体的な取組	条例の 条数	再揭事業	事業概要	平成26年度実施状況	平成26年8 の達成度	平成27年度実施状況	平成27年度の 達成度	平成28年度実施状況	平成28年度の 達成度	3年間の成果と課題	3年間の自己評 価	平成28年度の所管 局	平成28年度の所管課
206 (9)	仕事を持つ解等が安心 して予解等が安心 して予解等が表記さ 多、ファイフ・パ ランスの自及・音発を行 います。	18条	男仏科団参画センター (すぐらむ21)事業	男女村同参画センターにおけるワーク・ラ イフ・パランスなどの男女村同参画に記載する 高橋をや市がの事業所で学校での吐的議員を 同様でもからな事業所で学校での吐的議員を 行う。	要な比較回転センターにおいて、育年へ 保護場等の世代が、対理機能の必然とから アライフ・バランスを考える「経験を持たい。 アライフ・バランスを考える「経験を持たい。 アラインは「東京」を開発している。 東京、現住の選挙・育成、アーク・ディフ・リーク・ディフ・リーク・ディフ・リーク・ディフ・リーク・ディフ・リーク・ディフ・リーク・ディフ・リーク・ディンスを考えるに対しのファリーグ・ディーのでは、 スを、現代では、アーク・ディーク・ディーク・ディーク・ディーク・ディーク・ディーク・ディーク・ディ	3	男女科問夢帯センターにおいて、「パリのための子育でサロン」(計ら起、参加版で44)を15人「月代のアフェ」(計ら起、参加版で44)と、「アンテンタアンフ」を15人「月代のアフェ」(計ら2)と、「アンテンタアンフ」に対して、アファーストリーでは10分割を10分割を10分割を10分割を10分割を10分割を10分割を10分割を	3	男女共認参重センターにおいて、「毎休ママとけびの ための調理等学と3アームフェ」(計2回、参加を 21人)、「毎休女フェ」(計3回、参加を インイ)、「パンのための子育でロン」(計2回、参加 イント、「パンのための子育でロン」(計2回、参加 イント、インン機能(高級主任制)(1年 全 が超ペス人)等の機を存储せいた、協議等を目前す男 女、男性を対象として、関連等機という、仕事と享迎の何 立に同けた支援等を行うことができた。	3	■成果:仕事と客庭の両立に向けた各種適應により、受護者の クセ、ライフ・パウンスへの理解を認める場合とすることがで ■「子どもの権利」に関連して:適座をとおして、子育てに関す の開発を検索する。となったがる子育で中の原理を支援した。 ■回答・受害者がかが場合にあり、本学者で中の原理を支援した。 ・回答・受害者がかが場合にあり、改善をしていく必要がある。	С	市風文化局	人種・男女共同参画室
207			ワーク・ライフ・パラン ス推進事業	事業者や住民が、仕事と変程を活の勝和の 重要性を理解し、制造力を発達する場合する した。 か・川崎市・組織所が、で合同して広場的な フーク・ライ・パランスの建設、取り続き とさらに、市ウエテ・直接権し、アーク・ライ フ・バランスの選択への政策を発生する。	九部県市で連携して戦闘の一斉沿庁を実施 山崎市、開場駅からが登記。「神野川県、横浜市」、 山崎市、開場駅からが登記。「神野川県・横浜市」、 川県との斥機で、企業和自動を攻張を指揮として、 下で、本市においては市民間が主なるを開催した。 不満年においては市民間が主なったした。 子育で世帯的けたミナーくして、公子が原爆化・表す。 では、日本により、そのは、日本により、 大田により、日本により、日本により、 大田により、日本により、日本により、 大田により、日本により、日本により、 大田により、日本により、日本により、 大田により、日本により、 大田により、日本により、 大田により、日本により、 大田	3	九級県市で連携して戦島の一斉治庁を実施 し、特別川県内原政路市(特別川県、横浜市、川 利用の大力を引し、特別川川・ア・フ・ 利用との片様で、企業担当を対策を物階と た。本市においては市民別が主アナーとして、 子育で世帯的けたミナー、父子校保護を一会が 会議を否認時からそのも、一般では、 (後女をおりたり、 、自己の発生で、一般では、 、自己の発生で、一般では、 、自己の発生で、一般では、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、このでは、 、自己の発生で、 、自己の、 、自己の、 、自己の、 、自己の、 、自己の、 、自己の、 、自己の、 、自己の、 、自己の、 、自己の、 、自己の、 、自己の、 、自己の、 、自己の、 、自己の、 、自己の、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	3	九部県市で連携して製製の一斉岩庁を実施し、神奈川 構物四路市(特奈川県、梅田市、川崎市・南陸市市 が 各団し、神奈川一ク・ラブ・パンス建業会を開始 した。また、神奈川県との対象で、企業担当を交流を 財産した。また、神奈川県との大場で、企業担当を交流を 財産した。また、村奈川県との大場で、企業担当を交流を 財産した。また、以下は万田町の日とます。との大場 財産した。本に、日本の大場で、全球を 財産した。 日本の大場では、日本の大場で、 日本の大場では、 日本の大場では、 日本の大場では、 日本の大場であります。 日本の大場では、 日本の大場では 日本の大場では 日本の大場で 日本の大 日本の大場で 日本の大 日本の大場で 日本の大 日本の大 日本の大 日本の大 日本の大 日本の大 日本の大 日本の大	3	■成果:ワーク・ライフ・バランス議奏会、担当者交換会、母親 即け、女子向けのケーケ・ライア・バランスやミナーを行うた。 ■ 「子ともの様性」に関連して、手質でのから配当は、ロート につきュニケーションをとることが、は無効性をすることについ でのセミナーを実践し、凝度反応、MPBである。 ■整節:引き続きワーク・ライフ・バランス、男性の再発参加、 子育てしかすり、協議問題でよったの支援を搭置していく必要があ	С	こども未来局	企画課
208 (10	児童相談所、区役所及 び地域の関係機関との連 様により、連特につなが る可能へのある例を早 期に把握し、発生を未然 に妨ぎます。	19条	要保護児童対策地域協議会	要保護児童の適切な保護を図るため、各種 関係機関により構成される要保護児童が寄地 通 域路議会において情報交換や設計り担び支援計画等の協議を行い、児童虐待の早期兒 見、処遇の改善などを図る。	要保護児童の適切な保護を図るため、各種関係 ・ 要保護児童の適切な保護を図るため、各種関係 ・ 保護により構成される要保護児童対策地は協議 ・ 課金において精験交替や役割が担似立安が ・ 現金である。 ・ であるという。 ・ であるといる。 ・ であるという。 ・ であるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといる	3	要保護児童対策地域協議会において、情報交換、役割が19、支援計画等の協議を行う、児童 歯的の中期発見、要保護児童等への適切な支援 及び保護を実施した。	3	要保護児童対策地域協議会において、情報交換、役割分 担、支援計画等の協議を行い、児童虐害の早期発見、要 保護児童等への遊切な支援及び保護を実施した。	3	■1度: 海保護予整は常地が協議により、て、養保健予整工が する他の文章以び機が7月のよう、寿保保証計算地域 協力の水を包った。 『子どの機能」に関連して、実保機予整工がする機のな が実施されるよう子どもの権利が与わるという場合から協議 たわずる協定を制した。 ■整整: 引き結合、協議会と指用することで、児童信仰の時発 男、要保険用金の人の場合の支援が実施を実施する。	С	こども未来局	児童家庭支援 - 虐待対策室
209			児童虐待防止に関する網 合調整	本序、区总所、児童相談所開等、関係機能 の適用しより、更年度児童学への適切な相談 支達を推断する。 中期対応及び未然的止し努める。	本庁、区の所、特別和部所等、関係機能の選集により、要保護理論等への高の支援を支援 第二より、要保護理論等への高の支援を支援 を対象を対象を対象を対象を対象を 関るとともに虚性の未然防止に努めた。	3	本作、区協所、特別組制所等、関係機能の連 第二人の、要保護で選挙への高の特別を確定 第二人の、要保護で選挙、の高の特別を確定 第二人の、要は、一般ので開発し 関係とともに虚特の未然防止に発めた。	3	本庁、区谷所、児童物部所等、関係機関の連携によ り、高級関連等のへの選びは極致度を実施した。ま た、歯やの平現発見、早期均断を図るとともに歯符の未 然的にに努めた。	3	16 受害者が出来すべらないを取りませまします。 無可果、強制機能の必要はよる容易で置き返すへの適のを相支援 をしまった。 では、実施者の大きなにしなった。 では、実施者の大きなになった。 は、大きななど、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	С	こども未来局	児童家庭支援 - 虐待対策室
210	親等による廬侍・体制 を防ぐため、乳幼児健診 のの場や財団事業等で、親 等に対する盧侍・体制的 止に関する広報・啓発を 行います。		虚待防止啓発事業	児童虐待の発生の予防と社会的認識の向上 のため、関係機関等を対象とした研修会・講 接名を実施する。	11月の別額情勢力上推進月間を中心し、児 情勢の方は、早期発見に直するよう原生登場で 重要表等場場がと連携し内水主要形にで参考 実験を実施し、また、一般別部ムチャイル ドワンと連携し中学3年生を対象とした雑語展 集やフォーラムを開催した。	3	11月の児童虐待防止指進月間を中心に、同生 委員児童委員等場所団体と連邦し、器化型を 実施した。また、川崎フロンダーレホームで 実施したまた、川崎フロンダーレホームで ムでの密発により、児童虐性の発生予防と社会 的認識の向上に発かた。	3	11月の貯蔵値特別止推進月間を中心に、民生美典児童 芸典司解除団体と連携し、自然と動きで素似。山間クロ まま典司解配体と連携し、自然と動きで素似。山間クロ マッカル 土 対象 は 11 日本 11 日	3		С	こども未来局	児童家庭支援・虐待対策室
211			20 里線への研修	東海島県とする子とも発育する場合 対し、電空等の対象や一支回間移動機の機構 対し、電空等の対象や一支回間移動機の機構 が成と、同間に起した研修を実施し、子ど もの権利に関する理解を深める。	里純語定時の研修や一定開始終過機の機能を 様なと、開始に多いた開始におって、子どの 機能機能について記し合う機能を設けた。	3	単純版定録の研修や一定期間軌道後の機構所 修なと、関値に振いた時間において、子ともの 権利機能について記し合う機会を設けた。	3	里院認定時の研修や一定期間経過後の経経研修など、 段階におした時候において、子どもの権利関係について おし合う機会を扱けた。	3	■同葉: 協議所等、 国際の階層経験や子どもの成長・発達など 場かな場面において機能がこ子どの権利機能しついて世際を求 める機能を図れることができた。 ■ 「子ともの様を」に知識して: 「内臓の対象のとことが関係の関係を保護するための展理が明確 できた。」、「規定が構物の主体であること、対策の関係が確認される。 の影響を指するでは関係を重要するを対象のよってあり、の の影響を指するでは関係を重要するを対象のよってあり、 ■閲覧: 国際の階層経験や子ともの成長・発展的医に関いを権利 機能について変加を機能をできた。 ■可能・自然である。	С	こども未来局	こども保健福祉課
212			乳幼児虚符子的事業	朝外不必や原代問題な決定を <i>リループミニ</i> オンシン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン	会区の機能はセンターにて、7年でけっち、 会局の影響を持ちまている場所が開発に発むし 対象のであった。2年でよりのの観光を は他の大阪的に、最近代的に移った。より違 の文を支援を研究がは、ませいが、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	3	会成の機能はセンターでで、子育でグラムト 等等が影響を表すている場所が同意を扱い。 等等が影響を表すている場所が同意を扱い。 は他のような対象は、最近化的は16回った。より違っ の実施が異常形成が18回った。より違っ の実施が異常形成が18回からなります。 連携後化を図った。人人が参加なり流像機能成の	3	各区保健福祉センターにて、子育でがつらい等期内の 他みを抱えている信頼の定能にあかながら、グループ であった。より選びぶち変現者が建設ながあったり、 のは、そのまた。より選びぶち変現者が建設ながあったり、 は、 のの連携強化を抱った。	3	■成果:各区保障器社センターにて、子骨でかっらい写真内の店 みを抱えている印象の定理に別なながら、グループミーティングラ のではなっている中級の定理に別なながら、クループミーティングラ いな変更な暗さ思などがあかれたるなら、スーパードイズを実施 人人共同永区が開発限の連携を包含った。 ■ 「子ともの様を」に関連して:本事以より、虐やの未然ら は、重性で加上を図り、子もの方がして生る合格を別の現るを実 別した。 ■ 「製造・今後や另、幼児健康や各様性的事業、が効果業等、他の母 子保護事業との連携金化を含るの意がある。	С	こども未来局	こども保健福祉課
213			保育圏における子どもの 権利の最端を高めるため の機会づくり	の 保護者に対しては悲励会を通じて、子ども め の種類の容界を行い、保育園園県について は、研修を通じて啓発を行う。	保護者に対しては、各国の保護者部談会です どもの権格をデーマに制設し、音をを行った。 また、保護国閥は、対しては、国内研修を追し で音光を行った。	, 3	入所等の保育部別会や懇談会等の博で、保護 名のに人権・現女は同参範密が作成するパンフ レット等の配称・部的であってより、子される 現場する保護があってそとの機能というする 現場でいる場合というできない。 現場にいる場合というできない。 実際によっている。 実際によっている。 実際によっている。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	_	保育内部総明会や想称会等の第で、保護者等に人権のバンフレット等の配布・物理を行うなどに、子ども危軽育 する保護者の「子どもの種類」に対する最近ができまった。保育従事職員に対する側の指移も引き続き実施し、職員への教育・各件の定進にも努めた。	3	■同様: 信機能に子どもの情報について伝える場合を作ること で、子どもたらの機能な成長性物で振りることができた。 ■「子との場合は成長性物で振りたらして何らの大人と かけわるように、大人(信機的)支援を実施した。 電影機はより始め合きってもらえるような影響会の実施がよや優 くより苦いの場合の主式が必要である。	С	ことも未来局	連営管理課
214			73 199 217 301	子どもに関する様々な問題につき、楽館での他からの相談に応じ、子どもが有する間を 又は子ともの異のない。子どもの重かれた 理論などもの異のが を選に載さの承的確に記え、関サルモンともで 実施に載さの承的を認定を行い、もの もの福祉を図るとともし、その権利を擁護す る。	子どもに関する様々な問題につき、実軽子の 他からの相談にあし、区色所が他部裏なり見 他的等等場所機能との連携のもと的様な支援 支援した(平成26年長相談交付件数18万0 件)。	3	子どもに関する様々な問題につき、変遅その 他からの相談に応し、区份所及が児童相談所等 関係機関との連携のもと的確な支援を実施し た。(平成27年度相談受付件数2.773件)	3	子どもに期する様々な辞職につき、変担その他からの相談に 能し、区場所及び児童問題所等等等機能との連邦のモご的様 な支援を実施した。(単成28年度相談受付件数4,688件)	3	■原果: 区役所及伊児福相談所の連携による支援に関して、子ど むの権助が与されるよう対象を行っている。 ■子どもの権制、に関連して、三くももその意思からの制能が あった場合には、選切な相談支援を実施し、子どもの権利を守っ でいる。 ■整数: 地数する中間に対象するでか、引き機能なの所と円限相 対の認めな場合により対象な支援を実施し、	С	こども未来局区役所	児童零経支援・虐待対策室 地域みまもり支援センター 域支援担当

事業 No.	具体的な取組	条例の 条数	再揭	事業	事業概要	平成26年度実施状況	平成26年度 の達成度	平成27年度実施状況	平成27年度6 達成度	平成28年度実施状況	平成28年度の 達成度	3年間の成果と課題	3年間の自己評 価	平成28年度の所管 局	平成28年度の所管課
215 (1 1	児童家証相談や24時 規範が相談をはいかとし た合種相談事故、児童 りを相談が、区的外及力を調 の選携による。最初から のの本人のという。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である	20条	119 349	要保護児童施設の監備	機能は依託した対象できる高素専門的対象 態・対数は制を超え、整理機能変が開発する 健全な保存がさるよう。 処理の独上及び処 連の場の拡充を図る。	専門的グアを行う物は登載を進めるととも に、既分学屋舞動物図の次配にあたっては収収 の影響から主張を貼つが明確化を図り、実施的 必要性間報フィリを推進し、影響の名上寺を 図うた。	3	専門的の地グアを行う情報障害特別取出情報 設「川崎」とも必要アアセンターかなで」の開 川により寄り相談と解析的で成立するととも に分析で相談と解析的で成立するととも の方法、人所で編の地域の向上に努めた。	3	施設分字能が本年4月に開投し、数算委員会や施設令と連 現を思りながら、物質・遺産・心理等が連携しなから割予的 支援が対けれる体制を管理した。 という時期ユニット良好な家 組的返還で養育を受けることができる体験を指摘した。	3	図号、期代的心思・アグラー対象経費が抑制性の機能的をJRZ/7 341の間に中級に、期間、、関手機能を対象性を持ちずるとったも に、自分性機能解的にJRX/でなる影響を行い、小規模/ブルー ブアの向入など人が円度のが扱っか見上があた。 ローアイとかり機能に登場して、「要などに関するが重要である。 での適所が無っておいでは、これで、要などに関するが重要である。 中級は7を実施が重要である。「これで、要などに関するが重要である。 中級は7を実施のが重要を指するである。「記憶を は、100mmの主要であるが表す。 国際で、記憶によれては小規模グループアの向入が差決、同談 のに関係権力が対応されてもなくことであるが、記憶を確か のに関係権力が対応されては小規模グループアの向入が差決、同談 は一般を対象があるため、引き続き権利機能に向けた取場を推 様子が使のユニットや管理機が与現えつらくなるなど能力な課題 様子とも可能とからなる。引き続き権利機能に向けた取場を推 選ぎる必要があるため、引き続き権利機能に向けた取場を推 選ぎる必要がある。	С	こども未来局	こども保養福祉課
216			209	児童虐待防止に関する総 合物整	本作、区份別、児童相談的問題等、関係機関 の連携により、要保護党員等への適切及相談 受用 可用 の成立 で の で の で の で の で の で の で の で の で の で	本庁、区役所、児童相談所等、関係機能の連 税ようし、要等額が選挙への適切を相談な理を 記念としてに適性の未然的正し我のた。 図るとしてに適性の未然的正し我のた。	3	本庁、区心所、児童相談所等、関係機関の連 第二より、要年表別報学への第四条相談工程を 製造が記載する。 図名ととちに載物の未然的止じ努めた。 30名ととちに載物の未然的止じ努めた。	3	本庁、区役所、児童相談所等、関係機能の連携により、 要保護が置きへの遊びな相談女権を表情した。また、金 作の早級秩具・早報36を図るとともに値待の未成的止 に努力に、	3	■岐東:類隔機能の連携により資保機円度等への適切な相談支援 を推放するとこちに、保護信仰の甲級発見・甲部可能が図られるような前・日子を整理した。 日子ともの機能には関連して、完重値やは子どもの権利を書し く損なうものであることから、似く最近登得場質を開放した。 ■課題:引き続き、関係機能の連携により、要保護所置等への相 設定賃を養調さっまた。信仰の甲級発見・甲酸可能を図るとと もて、信仰の未知的止に多める。	С	ごども未来局	兒童寒紅支援 • 盛特刘策室
217			73 199 214 351	児童家庭相談事業	子どもに関する様々な問題につき、変配その他からの相談にあり、子どもが有する問題にあり、子どもが有する問題となる。その場合がため、 変配子も少の異のことなってもの動かれた。 変配に兼ち効果的な規則を行い、もって子ど もの確故を図るとともに、その権利を確譲す 6.	子ともに関する様々は問題につき、意味その 他からの相談におい、医役所が他部裏及び児童 の表現に関するのでは、 実現して、「年報20年表相談契件解れる「O 件)。	3	子どもに関する様々な問題につき、変星その 他からの現態に回じ、区段所及び児童報助所等 関係機能との連携のもと的確な支援を表現し た。(単成27年接相談受付件数2.773件)	3	子どもに関する機なな課題につき、意識その他からの個別に 取し、区の研究が可能相談所等限無能との場面のちとの様 な支援を実施した。(平成26年表相談安付件数4.669件)	3	■成業: 区份所及U門屋相談所の連携による並渡に関して、子ど もの種類が守られるよう対象を行っている。 ■「子ともの種類」に製造して、子とちやその要数からの掲載が あった場合には、選切な相談女孩を実際し、子どもの権格を守っ ている。 ■複数: 迷知する相談に対象するため、引き終さ区後がある。 動物の過初で連携によりの確な支援を表明するの要がある。	С	こども未来局区役所	児童零庭支援・虐待対策室 地域みまもり支援センター 域支援担当
218			352	児童相談所相談事業	相談ニーズの適切な把機と児童の施密や気 持ちを尊重し、児童が解決の主体となれるプ ロセスを尊重した適切な相談境助を実施す る。	現所・多様化する児童相談に選切に対応する ため、議員一人ひとりの専門性別上に取り組 み、児童に有する専門報記機能として、児童の 歴世や見持ちを参重した相談機能に及びた。	3	根値・多様化する児童相談に適切に対応する ため、機関一人ひとりの専門性性上に取り組 め、児童に関する等で継続機能として、児童の 駆撃や発行うと考慮した相談支援に努めた。	3	福達・多様化する児童和制に適切に対応するため、職員 一人ひこりの専門性性上に取り組み、児童に関する等内 相談機能として、児童の態態や支持ちを尊重した相談支 様に努めた。	3	■成実・指導・困難な発温を維持助が増加する中、児童科師所識 泉の御門性は上に取り組み、児童やその家庭に関する専門師原標 ほして、相談を必可発を図って、児童和師所が関わる子ともへの 利能にない、子どの種利を守るという視点から、選切支相数な 港を集した。 ・ 理論: 温熱の呼吁なりと経難し、児童に関する母呼鳴を開催 として、何室の悪世や丼持ちを考重した相談職助を実施していく の要力を含	С	こども未来局	児童家庭支援・虐待対策室
219				児童虐待防止センター事業	子どもの虚性の透畅や子育で不安に関する 相談について、24時間365日の電影相談 台类施する	子育ての不安・悩みや児童虐待の適告への適 切な相談規制により、児童虐待の早期発見・早 期代見に努めた。	3	子育ての不安・他み及び劇物落告への選切な 相談規助により、劇物の早期発見・早期発見に 契めた。 (平成27年披電話棚別件数4,568 件)	3	子育ての不安・悩み及び産物適告への適切な相談推動により、動物の単規発・早期初后に努めた。(平成28 年度電影相談件前5.101件)	3	■成果・児童信物に比セクーへの用能は多く者せられるが、子 男での自己・名み、児童自治色への通りな相談能がを実施し、 宇宙発見・早取対処に受めた。 ■「子ども取材」に関連して・子どもからの相談等の場合は、 子どもに確認するととも、「野なが場を行った。 単議書・引き換き、「他する児童通常に対象するため、電話対象 の所等やの元実を図る必要がある。	С	こども未来局	児童家庭支援・虐待対策室
220			118	家庭的機嫌の推進	里線制度を紹介したパンプレットの作成な ど、里線の新聞登録、里線への話さればれる 図るこれに、労運開業制度等を受望的な生活 関本になる。 にグラ学社の小規模化を扱って いきます。	国接続消息録音を思いすため、電接着音は表 発発者を2回間率した。また、4月、9月に小 規模グループワアを導入した児童程度施設を新 設し、グア単位の養育を行っている。	3	国際研究情報を開かったが、事業層等は終 発表され場別時間を3回降電したは力、10月 の単級月間かに世際展の提出や、ポスターの境 別などにより里線の自及音角に努めた。	3	里線斯規位録者と制度の理解者を想かすため、里鏡蘭育体 軽発者名名制度開始会を信即際止た症が、10月の里鏡門間 の止続着原の場比が、アゼリアが高コーナーにおする展示。 アゼリアとジョンはつる情報機能のの機能、ポスターの場示 などとより登載が地区を発生した。	3	■世界・川州田グループアクモダーと中国重要協会が2万円間 はいた他が、同盟職務のの管 代表との1月間と、1 はんだした。同盟職務のの管 代表との1月間と、1 はんだ、国際世界機関の認めに関す。広報等終末的を実施した。 ■「子とちの特別」に関連して、国際制度の指置とより。要保護 児童を変起く回路の記載での貨幣を目前すどこさし、施設におい でもい時報が月ープアの時人より、さめ味からを変的機関 が回転となった。 里課・国権と子もが日本戦から季や対策格やアイムだりして も期後の現在を図ることで、旅が広谷以下の様果と同時に対域の 理解・国権と子もが日本戦から季や対策格やアイムだりして も期後の現在図ることで、旅が広谷以下の構築と同時に対域の 理解・日報と子もが日本戦から季や対策格やアイムだりして が無格を増やしていくたのの自然の発展が対象である。	С	こども未来局	こども保健福祉課
221			354	川崎市立学校インターネット問題相談をロ	ネットいしがやインターネットトラブル (チェーンメール、出会い系サイト、第全調 京、広がなどで思っている子とや砂路等 がからの強法、メール開発を受けがいる。 関号と連携しながら早期解決を切さす。	特別で100円目との時間あり、その中には、 LIPLを開始の関係をおし、またネットの時間を 多く、内容は、いじかが及人類がの不安な と、西発展はしてリーフレット (A2表現) が他起のアードを受け、合作し、「A2表現) 4年生以上のが確生後、別びその報道も「影が	3	年間で80年ほどの相談あり、そのには、 LNE3類。ネットやの小しか気の相談も多い。 また、階級200以のサイトの影響を考える。 電がは書き込みではてお開始を持ちずるな。 ることに実際の、影響器にして「展議者的インター クーネットガイド(人の養養)や、砂糖の一体 (名称)、各作成し、金竹四等の類類類、川学 のの複雑も、整付した。	3	年前9 0 円ほどの相談があり、ネット依存に関する保護 動や同能される。(ARCや 動か同能をはひみ、(ARCや いないのは、ARCやのでは、ARCやのでは、ARCや いないのでは、ARCやのでは、ARCやのでは、ARCや は、不はいたを含えのOPULのサイトの原程を制制 け、不認いる書き込みや不能をなら際については、制能 依据を行うなと、理想主体の地をより、非同時間を えることに努めた。理解集件として、「保護者的マイン 学校表現場、「中央」(年末)を表すとして、 アでは、ARCや 中校表現場、「中央」(年末)を表すといる。 アでは、ARCや 中校表現場、「中央」(年末)を表すといる。 アでは、ARCや アでは アでは アでは アでは アでは アでは アでは アでは アでは アでは	3	■成果、確認及以メールによるネット上の問題に限りまった。 日本によったが登場であって開発を使り、未来回れた場合の 日本によったができた。 日本によったが、日本によったできた。 日本によったが、日本によった。 日本によった。 日本によった。 日本によった。 日本によった。 日本によった。 日本によった。 日本におった。 日本に	С	数商委員会事務局	総会牧房センター情報・現 党センター
222			365	2.4 時間電話相談	子ども自身の悩みや、保護者の子育でに関する悩み、教職員の子どもとの関わりに関する悩み等について、電話相談によって対応する。	年末年始を含め、24時間相談を受け付け、児 蚕生地や保護者の相談に加助できる体制をとっ た。977件の相談に対応し、相談の内部によっ で地構陶との連携を図った。	3	児童生徒や原護者の相談に即応できるよう。 年末年始を含め、24時間相談を受け付た。ま た、約介かードには同日つードを掲載すると と、より相談しやすくなるようエ夫した。今年 設は1000件の類似に気命し、相談の内容に よって他機関との連携を図った。	3	児童生徒や保護者の相談に即応できるよう。年末年始 を含め、24時時時態を受け付でるる体制を経験した。 また、全市立学校児童生徒に配作して電話機関総合ける。 ドにGRコードを機関するほと、5件間以でする。 よった。ここで機関との連携を図った。 の内容とよって他機関との連携を図った。	3	■ 「子ぐセの種類に迅速に対応することができた。 ■ 「子ぐセの種類」に関連して、子どもが困ったことや悩みをいっても関係できるようにした。 ■ 問題: 相談記ロの一番の母別と他機関との円常な連携を継続する必要がある。	С	教育委員会事務局	総合教育センター 教育相談センター

施:	(表の)	<u> 万回川 家廷、</u>	育ち	字ぶ	施設及	ひ地域における子	どもの権利保障(第3	<u>3草)</u>								
事業 No.		具体的な取組祭	間の 再排数	· 事	業	事業概要	平成26年度実施状況	平成26年度 の達成度	平成27年度実施状況	平成27年度の 達成度	平成28年度実施状況	平成28年度の 達成度	3年間の成果と課題	3年間の自己評 価	平成28年度の所管 局	平成28年度の所管課
223	(1 1)	児童家庭相談や24時 間電話相談をはじめとし たる種相談事業や、児童 ⑬相談所、役所及び地域 の連携により、虚待から の教済及び回復に努めま す。	·条 265 365	教育相談事項	¥	子ども自身の悩みや、保護者の子育でに関する悩み、数類側の子どもとの取りりに関する悩み等について、来所面接相談や電話相談によって対応する。	来所面接相談では、144件の新規相談があり、約6級記でイが不管的に関する相談となっている。また、電話相談では977件の相談に対応した。	3	来所面接相談では、150件の新規相談があり、約6額近くが不登れに関する相談となってり、ある。また、電話相談では1000件の相談に対した。	3	来所面接相談では、129件の新規相談があり、約7割 近くが子登校に関する相談となっている。また、電話相 級では1.132件の相談に対応した。	3	■成果・様々な相談のニーズに向いて、学校や職係機関と連携 し、迅速に対象することができた。 ■「子どの機能」に関連して・子どもが困ったことや悩みを安 のして傾向できる体制を整えた。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	С	教育委員会事務局	総合教育センター 教育相談センター
224			250 263 368	スクールカワー 配置・活用	ウンセラーの	高学校に、専門的対域・経験を持つカウン セラーを配置し、数域最とは異なる例面から 教育相談にあいる。また、数域最との開催状 有などを含じて連邦を切りなか、原盤生 徒・保護者への多面的な相談体制の構築をめ ざす。	スクールカウンセラーの市立中学校への全牧 配置、学校派四カウンセラーの小学校、高等学 校への流進により、各特における相談体制の 発表が図られた。中学的250年のカウンセラーに よる相談は18.053人、小学校では96件、高等 学校では10.3件の相談があった。	3	スタールカウンセラーの市立中学校への全校 配置、学校巡回カウンセラーの小学校、高等学 校への派遣により、各校における相談体制の 発表が図られた、中学校会校のカウンセラーによる相談は18,000人、小学校では90件、高等 学校では1110件の相談があった。	3	スクールかウンセラーを市立中学校へ全校配置、学校 返回かつとちラーを市立中学校・特別支援学校とは受験 は、日本の大学校の大学校・特別支援学校とは受験 は、日本の大学校の大学校の大学校の大学校の大学校の大学校 により、各体によりる程度本権の大学校の大学校・1800支援学校では37年、高学学校では37年、高学学校では37年、高学学校では37年、高学学校では37年の構造があった。参拝学校では37年の大学校・1800支援学校では37年、高学学校では37年の大学校・1800支援学校では37年、高学学校では37年の大学校・1800支援学校では37年、高学学校では37年、高学学校では37年、高学学校では37年の大学校・1800支援・1800 支援・1800 大阪・1800	3	■成実:様々な相談のニーズに向じて、学校や関係機関と連携しながら対象することができた。 ボータとの場所は、回路して・デビもが困ったことや協みを安 のして相談できる体制を指えた。 理語:学や短尾に向した影響が各多め、発実した相談体制の機 気を含るを繋が落る。	С	教育委員会事務局	総合教育センター 教育相談センター
225			370	人権オンプラ 関係機関・原 事業	ズバーソンと 団体との連携	各区のことも支援室、学校、関係機関・民 問相取機関等と密接な連携を行い、子どもの 権利の接着の早期投資を図る。	各区ことも支援至長会議、要保護児童対策地 対応議会、人権等重数報告進会議、合同収長会 議等で、制度の周知を行うなど、部係機関との 連携を図った。なお、子どもの報題受付件数は 136件、子どもの救済受付件数は5件、発電調 並2件であった。	3		3	要保護児童対策的地域協議会、人種尊重教育有進会議、合同 校長会議等で、制度の周知を行うなど、関係機関との連携を 図った。	3	■成策:こども未来風、各区地域みまもり支援センター、教育委 長会等政策機能との連邦が認れた。 単一マそもの機能にして認識して、影響機能と連携して、子どもの 権秘が発展についての態度以び解消化すった。 国際語:引き始き各様会議等を選して、さらこことも未来風、各 区地外はもひり変化シター名と選邦を図る必要が多る。	С	市民オンブズマン事 務局	人権オンプズパーソン担当
226	(12)	学校や子ども夢パーク、こども文化センター等において、競等や地域 の の住民と連携を図りなが ら、子どもが自ら育ち、学べるよう環境を整備します。	条 287	- こども文化1	センター	児童福祉法第40条に規定する児童男生施 設として、児童皇皇を並びを与えて、その 健康を抱坐するととなど、情報を豊かにし、 もって児童の種全な育成を認る。	指定管理者等と会議等において情報交換を密 に行い、児童厚生施設として児童の確全な育成 を図った。	3	指定管理者等と会議等において情報交換を密 に行い、児園等生態設として児童の機全な育成 を図った。	3	名こども文化センターにおいて、施設のお祭り や体験事業等、地域住民の結構関と連携した様々 の事業を行い、子どもの権利に記慮しながら、子 ともが自ら業・子へるよう、児童厚生施設とし て児童の雑主な局域を図った。	3	は原、指定程度者等と連携し、子どもの権利に配慮した児童の 理念も解析を行った。 ■ 「存どもの権利」に関連して:子どもが押ち学の開発として、 子どもの機制を登録した。 国課:引き締ま、子どもの関係所を提供するだけでなく、子ど もの権利に急遽して子どもが何ち、学べるよう、理全側点を急っ でいくの変がある。	С	こども未来局	青少年支援室
227				子ども夢バー	一ク事業	子どもの活動能点として、また子どもなら 旅でもお押できる施設として、子どもの意見 表明・参加を実立するかし事業がするかします。 施設において、子ども連営委員会を相関し、 子どもの意見を施設の管理運営事業実施に反 終させる。	子とも運営委員会を結構し、子ともの服果を スタジオの利用力法で「KAJAPCOXA」、「こ どものの様丁、などのイベント時間といった施 扱の信を連貫事業実施に反映させた。	3	子ども運営委員会を総属するなど、子どもの 最見を施設の管守運営事業実施に反映させた。	3	各種行事の実施に当たっては、子ども運営委員 会を組織するなど、多くの子どもの意見を収録さ せるとともに、子ども自身が企画、実施に携わっ た。	3	■成果: 各種行事等の実施にあたり、子どもが自ら育ち、学へる ような環境を整備した。 単「子どもの様別」に関連して: 各種行事等に子どもの意見を反 終させ、子ども向着が企業、実施に関けるなど、子どもの意見を を参加が煙型とび、子どもの意見を のもかが空間として、また子どもなら置でも利用さ きる機能として、タクラぞものが単純男を切除させ、子ども が合格したり、学べるような環境で、りを観点していく必要があ	С	こども未来局	两少年支援室
228			308 341	学校教育推测	進会議	教育目標、教育活動等に関し、定期的に話 し合う場として位置付け、投長の求めに応じ で開催性。保護は関係すりな様に多り、意見 を述べる研究として知識し、より一層地か れた事なづくりの指達を担う。	高校において、地域とともに歩む、地域に関かれた事故でよりを整めるよう、重要な意味が し、単心の主要がよって、一種なる意味が し、単心の主要がよりないであった。 から、本のないでは、またのでは、178 位 したおいて、学校関係者評価が学校評価シート上に記された。	3	各校において、地域とともに歩む、地域に関 かれた事務プラくを基めるよで、重要に通り かれた事務プラインを基めるよで、重要に通り した。すべてのかに事役(17年以)において、学 校職係者評価が学校評価シート上に起されてい る。	3	各校において、地域とともに歩む、地域に離かれた学校づくりを進める上で、東京な悪が得せられた。学校 物面システムにも別ない機能し、単位公子報はすべての市立学校(1784)において、学校関係自辞部が学校 評価シート上に記された。	3	■検導・学的所語システルの開送後が得られ、すべての市力学 なく1769)で第五位学的関係部部が定量した。また、実際を の外が同様した、キャリア位から主か財産など、今日的経緯 についても肝能原因に関が与れるようになってきた。 172~もの相対、に関連して、人様考慮教育をすべての教育活 制が基値に対いており、後美に評価がなされている。 ■検線:PDCAサイクルのいっそうの充実。	С	教育委員会事務局	教育改革推進担当
229	(13)	学校や保育圏において パリアフリー化やボラン カーチャの増入等、子ども の自主的な活動が安全の 下で保障されるよう安全 管理体制を整備します。	条	こども文化1 設整備	センターの施	老朽化施設を改修するとともに、パリアフ リーの建差に沿って、障害のある子どもが利 用しやすい施設にする。	老形化機能を必修するとともに、日達和こと も文化センターにおいては、パリアフリーの理 感におった態を開発では、原書のある子ども が利用しやすい機能になった。	3	老朽化した施設を改修するとともに、パリア フリーの理念に基づいた施設整備を行った。	3	パリアフリーの理念に基づき、屋上防水、外壁 の大規模構修工事を3件、空間設備、原均設備等の 補修工事を15件実施した。	3	■成果:子どもの自主的な活動を安全に行える環境づくりを推進 した。 ■ 「子どもの権利」に関連して:子どもが安心・安全に通ごせる 活動が力くりに寄与している。 再課題:引き時法:各所にする影響の構修等階別整備と実施し、 子ともが安心・安全に占断できる機両大くりを進めていく必要が ある。	С	こども未来局	青少年支援室
230				わくわくプラ整備	ラザ室の施設	わくわくブラザ登録児童、利用児童の増加 により、妹あいとなった施設の解消のため整 傷を行う。	わくわくプラザ4か所の施設整備を行った。 また、学校と協議し条約数室を利用させてもら うなど挟みい施設の解消を行った。	3	わくわくブラザ4か所の施設整備を行った。 また、学校と協議し余裕改産を利用させてもら うなど挟みい施設の解消を行った。	3	学校の増改版に伴うわくカくブラザ産の改築整備を進めるとともに、反上的水、外型の大規模補修工事を2件、空間設備等の補修工事を15件実施した。	3	■成果:子どもが急ごしやすい理論づくりを推進した。 ■「子どもの権利」に関連して:子どもが過ごしやすい理慮所づくりに寄している。 単理節:引き続い、学が無限の活用や無限器制・補格等を実施し、子どもが過ごしやすい理論づくりを進めていく必要がある。	С	こども未来局	两少年支援至
231			68	わくわくプラ言児対応)	ラザ事業(障	わくわくブラザをパリアフリー化し、障害 のある子どもがを動しかすくなるよう環境監 標を進めるともに、学校の連携を図り、子ど も同士の交流を促進する。	学校や地域と連携を配り、児童にとって利用 しやすく過ごしやすい場配にするとともに、 障 悪のある子ともに対しても適切ながあを行っ た、 管小学取りオクラブが発配により、 1 つを終く全てのわくわくプラザが短価階へ設置 されることとなった。	3	学校や地域と連携を図り、児童にとって利用 しやすく過ごしやすい地域にするとともに、課 書のある子どもへの適切な対応を行った。	3	学校や地域と連携を図り、児童にとって利用し やすく適ごしやすい施設にするとともに、 障害の ある子どもへの支援を適切に行った。	3	■成果・少婆な女康を密切に行うことにより、急ごしやすい国境 を競判した。 ■「子どもの権利」に関連して:必要な支援を適切に行うことに より、子どもの権利のの意に高りしている。 国際: 31会後を残な支援を選加に行い、子どもの権利が守ら れるよう対応していく必要がある。	С	こども未来局	两少年支援室
232				事故防止事業	¥	保育所に約ける乳幼児の事故事例を基に研修を実施し、海知施防を図り、再発助に定等 修を実施し、海知施防を図り、再発助に対 行ち、また、色間においてセリアルットを を実施、分析し日常的な事故予約対策に始め る。	事故事例を基にした研修を実施したほか、間 最会議等でも同知徹底を超り事故弊生抗止に繋 打た。また、各場のとでリハット事例を活用 し、事故予約対策に努めた。	3	発生した事故実例を基にした研修を実施した ほか、観点会議等で安全管理機能の周知應を 部分、事効性でのはに努めた。また、各個の ピヤリハット事例集を編集し、日頃の事故予妨 対策に活用するなどした。	3	事材事例を基にした危機避済所修を完施したほか、職員 会議等でも周知衛金を図り事故発生別止に制すた。ま た、各個のビヤリハット事例を活用し、事故予約対策に 努めた。	3	■成果: 研修会等をとして危機管理機能を高めることができた。 ■ 「すぐもの権利」に関連して、すどもたちが安めして生活できる環境ンくのへこっなかった。 ■課題: 交全・安めな保育実際に向け、今後も機能した限り能力が必要である。	С	こども未来局	連當管理課
233				安全管理事業	¥	各保育所において、関長の管理のもと、安 全点体を作成し、施設投票、遊具、玩具、 用具、國語を名前的に点様し、交合性の確 保や機能の保持に努める。また安全管理研修 を実施する。	各保育所で、職長の管理のもと、安全点検表 を作成し、施認処職、近果、玩具、用具、園経 等の定期物な空点検を推薦するとともに、安 全管理に関する研修を実施した。	3	各保育所で、需長の管理のもと、安全山株表 を作成し、物部が熱、速具、玩具、用具、電影 等の安全山株を世邦的に実施した。これに加 え、安全管理に関する問題の指を実施するなと し、日頃の安全管理の大切さについて理解を深 めさせた。	3	各保育所で、服長の管理のもと、安全血検表を作成し、 施設投稿、遊具、採具、用具、服器等の安全会核を定期 的に実施した。これに加え、安全管理に関する類無所移 を実施するなどし、日線の安全管理の大切さについて理 終を認めるとし、日線の安全管理の大切さについて理 終を認めると	3	■成策:安全血核の結果等名組商会議で用知し、安全管理の大切 さについて、保育所組織の思惑を高めることができた。 は一マそとの条例に立題して、ライモしたちが安めして遊びや生 含でるる。現態を整えることができた。 「理聴!・今後も観査全体の安全への思測を高めていくことが必要 である。	С	こども未来局	連當管理課
234				安全で快通な場事業	な教育環境整	児童生徒が利用しやすく、過ごしやすい学 物施設としていくため、快適化やパリアフ リー化など教育理論の向上をめざし、学校ト イレの快適化やエレベータの整備を推進す る。	学校トイレ快適化については、設計・工事を 7校で実施し、工事実施投資は79校となっ た。エレベータとついては、既存かの設計・工 事を5枚で実施し、この他、増添や改築による 6枚の設置とけせてエレベータ設置投資は106 校となった。	3	学校トイレ快選化については、設計・工事を 7校で実施し、工事実施投資は86時となった。エレベータについては、気持ちの設計・工 事を名枚で実施し、この他、増築や改築による 5枚の設置に存せてエレベータ設置投資は10 7校となった。	3	学校トイレ快感化については、設計・工事を子校で実施し、工事実施攻数は93段となった。エレベータについては、既存校の設計を5段工事を8校で実施し、この他、再生経備工事等も実施して、設備校数は121校となった。	3	■成果:学校トイレ快適化やエレベータ設置を行い、快適な教育 環境を推進した。 ■「子どもの推列」に関連して:快適な教育環境を推進した。 ■国際:トイレ快適化の未実施及びエレベータ未設置校を減少さ でも必要がある。	С	教育委員会事務局	教育環境整備推進室

事業 No.		具体的な取組	条例の 条数	再揭事業	事業概要	平成26年度実施状況	平成26年度 の達成度	平成27年度実施状況	平成27年度の 達成度	平成28年度実施状況	平成28年度の 達成度	3年間の成果と課題	3年間の自己評 価	平成28年度の所管 局	平成28年度の所管課	
235	(13)	学校や保育圏において パリアフリー化やボラン ティアの導入等、子ども の自主的な活動が安全の 下で保障されるよう安全 管理体制を整備します。	22条	学校安全对策事業	顕教院の882クールガード・リーダーと して祭職し、国際部等や神教を全計ラファイ アの跡場構成とそのかりで教を歌博する。さ たに別場の音をいるでからか全音を提びるでか に、通学前の整備や地域交通安全員の影響を 行う。	スクールガード・リーダーを20人姿間し、 返り部的で学校全ポランティアの指導機成立 との助取消費を開始しました。また、学校から の資益を把握し、地域文章安全をの指置部所の が応調金を行い適正な影響を行いませた。	3	スクールガード・リーダーを20人変唱し、 巡回指導や学校全をパランティアの指導等成な どの約193第を実施した。また、学校からの変 壁を把握し、地球ご客を資金の範囲所のが式 調査を行い過ごな話題を行った。スクールサ ボーターとの機能共有を目的とした連続調査会 300円度した。	3	スクールガード・リーダーを20人美護し、巡回指導や学校安全ポランティアの指導情報などの約550対策を実施した。 また、学校からの要望を記憶し、地域文通安全の必需圏所 の大力を必要された。 との情報共長を目的にした。 との情報共長を見た。 との情報共長を見た。 との情報共長を見た。 との情報は、 との情報は と との との との との との との との との との との との との と	3	■成果: スクールガード・リーダーによる巡回路時や学校を全 フンチェアの指導解放と話して、学校の防犯対策や参考形の 対すりた動が実施できた。 ■「アナモの推動」に関連して:本事業により、アモモの守らり る権がが定金とが、神師川県軍の「スクールサポーター」との連携強化が必 変である。	С	教育委員会事務局	健康软育課	
236	(14)	条例パンフレット及び 虚符的上に関する機能を 対等の配布や各種研修の が が施設の関係に対し、 する が施設の関係に対し、 できたの虚符及び体制の 助止について答発しま す。	23条	子ごもの権利に関する 例パンプレットの作成 配付 (施設環境)	条例理解のためのパンフレット等を市内全 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	市内の全小中高等学校、保育圏、ことも文化 センターなど子ともの博う・学ぶ時段761億所 ヘ7在736枚の条例パンフレットを送付し、子 どもと施設機関への広報を行った。	3	市内の企川中高等学校、保育圏、ことも文化 センター点と子ともの育う、学ぶ場合の公園所 イフG14なの景がリフフレットを送付し、子 ともと物技機像への広報を行った。	3	度開催の間急所等(従べ161人)、児童和助卵の新仕組員 (30人)、ことも文化センター環境研算(後代140人) では、ことも文化センター環境研算(後代140人) では、これでは、150人の機能が使うであった。 そのは、市立学のか問題合併を(64人)の機能が使う 1、影響版におしてどもの情報について特別した。 別様のようなどもの情報について特別した。 (1/ソフレットの影響を行っており、3.8653程を申した。	3	■原果・市内の企り中高等学校をはしか、子どもの得ち・学ぶ館 放入子どもの権利条例を記載できた。 ■「子ともの権利条列を記載できた。 ■「子ともの権利」に関連して・子どもに関わる大人が子どもの 権利を理解することで、子どもの権利に関連を促した。 ■回路・子ともの権利についての思識付けのため今後も定期的に 分所の広報に努かる必要がある。	С	こども未来局	南少年支援室	
37				ラどもの権利に関わる 部派遣 (関西内げ)	類 学的やさどもに関わる機能等、子どもの様	市力学校主体の人権教育研修会(ほべら)人 教助・砂容標の加熱研修(なべくらみ)、電で 子どの地帯保護に効果する問題に対して、人 権全赦を含め子どもの権利について誘導した。	3	保育圏の開展研修(延べ160人)、児童相 制別の新行機長、ことも文化センター開展研修 等、子ともの権利に関係する開展に対し て、人権金額を含め子ともの権利について説明 した。	3	保育圏の開展研修(従べ161人)、児童相談所の新任業員 (30人)、ことも52代センター開展研修(従べ140人) (30人) ことも52代センター開展研修(従べ140人) (4年登校 その後、力工学の開展研修(成人) の開金が得られ、数額周に対しアともの権利について影視した。	3	■ 「子どもに関わる施設の環境への研修をとおし、環境の人 権態関を最めることができた。 ■ 「子どもの権利」に関連して・研修館の受債者において具体的 技術師師所を必り付け、現場における子どもの権利を分かりやす く説明し、写機関への課価活動や的容易会との連集しよる研修な 引き続き実施しつ」、展開的機関の行の研修の機会がからく、 今級は同時能の所置はと選択し、民間影響機のの研修の機会 を対していく必要がある。	С	こども未来局	两少年支援室	
38				27 保育園長を対象とした 修会の開催	研 音保育園園長を対象に、子どもの権利に関 する条例についての意識の向上及び人権尊重 に基づいた保育活動の指述を図る。	各保育園園長を対象に、子どもの権利に関する研修会を実施し、人権尊重に基プルた保育活動の推進を図った。	3	各保育園園長を対象に、「子どもの権利」に 関する研修会を実施し、常に人権尊重に基づい た保育に取り組むよう環境内上に努めさせた。	3	各保育関係施設長を対象に、「子どもの権利」に関する研修会を実施し、常に人権尊重に基づいた保育を行った。	3	■成果:「子どもの推判: に関する知識を設備し、保育所の員の 向上につなけた。 ■「子どもの推判: に関連して: 毎年「子どもの推判」に関する 市部を無関することで、指別表別は少数機の影響が向上につな がっている。 ■課題: 今後七冊板の充実に契め、保育所全体の裏の向上を図っ でいく必要がある。	С	こども未来局	運営管理課	
39				28 保育圏における戦場研 (子どもの権利)	保護医等において子どもの権利をテーマに 協議所移を行い、子どもへの接し方について 学ぶことで、言葉、形成による様力、虚符、 差別の助止に努める。	子どもの権利についての研修を実施したほか、調長会議等でも議覧とし、子どもの権利を 路まえた保育を実施した。	3	保育園職員を対象に、「子どもの権利」につ いての研修を接続したほか、職員会議等で議節 として活発を展りたほか。 毎重に基づいに保育に取り結むよう意識均上に 努めさせた。	3	保育園職員を対象に、「子どもの権利」についての研修 を実施したほか、組身会論等で搭融として活体な意味交 地を行い、人権尊重に基づいた保育に取り組むよう意識 向上に努めた。	3	■成実: 親奥の研修を実施することにより、親奥の資資内上を 図った。 ■ 「子ぐもの権利」に築連して: 親奥間で、子ぐもの守られる権 相にについて登解を否めた。 ・ は他を充実に努め、親奥の資策内上及び関係機関との達 別が必要である。	С	こども未来局	連営管理課	
40				製係機関、保育所職員 研修	の 保育圏や関係職員が気幼児の趣向・意見を 受け止め、尊重する力量を形成するための研 修を開催する。	別利児の発達を学习研修1回 報告会を2 回、発達が製工なる子どもに関する研修2回、 等別終財会を3回開催した。 また、「開始中子ども応報に関する条例」 かできるまでの過程や中学りにおける人権教育 の実践を挙び、子どもの人権の理解を深めた。	3	「川崎市子どもの権利に関する条例」ができるまでの適望や小学校における人権教育の実践を学び、子どもの人権の連携を深めた。	3	「川崎市子どもの権利に関する条例」ができるまでの過程で小学校における人権教育の実践を学び、子どもの人権の建築を深めた。	3	■成果:職員の研修を実施することにより、職員の両質向上を 図った。 ■「子どもの権利」に関連して:毎年継続して研修を実施することにより、「子どもの権利」に関連して:毎年継続して研修を実施することが できた。 ■課題:研修の音の充実と職員への根別を撤落させる必要がある。	С	こども未来局	運営管理課	
41				30 子どもの権利に係る研	子どもに関する関係部署や関係機関等に対 修 して児童虐待的に等をはしめとした子どもの 権利に関する研修を実施する。	児童相談所能任職員研修にて子どもの権利を テーマに研修を実施するとこちに、保険需等関 映機関への開始期続記載を逃じて、行政環長を 中心に子どもの権利認識的上を図った。	3	児童相談所新任職員研修にて子どもの権利を テーマに研修を実施するとともに、保険電号関 保無関への研修課題が改進を担じて、行政関長を 中心に子どもの権利認期的1を図った。	3	開墾相談所能任職無持続にて子ともの権利をテーマに研修を実施するととちに、保倉職等関係機能の介用保護等	3	■成果:関連の子どもの種利への展期内上につながった。 ■ 1子どもの権利」に知道して:児童報節所等における子どもや その課証では、子どもの権利を守る支援につなけることができ ■課題:引き締合、研修等を実施し、子どもの権利意期的上に努 のでいく。	С	こども未来局	児童家庭支援・虐待対策室	
42					34 体罰防止についての懲 選発	市内全校の物間具を対象に、人種母素教育 の研修を実施した。人権に対する原理を主た。 は、 、体制の防止を図る。 、体制の防止を図る。	市内会校の数額県を対象に、人種秘重教育の 研修を実施し、体系の応止を図った。	3	会市の資材で、体面熱片を飛速器するととも に、様々な教育技能におりる速かな指導のあり カについての研修を行った。また、児童生実施 関連的協議といて、児童生実施 対策に、ー人一人の子科女大切にした児童生産 都高発の経緯に、一人一人の子科女大切にした児童生産 都高発の経緯に、一人一人の	3	教職員が、児童生徒に対して体罰をや不適切な指導に対 する未然助止者として、年第当初、作成した体別・フ レット等を限し、中立学校支援(17名号)で開発を は一次となった。 は一次となった。 は非期等出金を対象に、一人がとの大くもまぐれてした 児童生徒指導の推塞をテーマとして協議し、体影助止 の意識哲外の種様に努めた。	3	■原要・各学校ごとに、有意内にかす本野研修を実施し、数国会 人力とご力が発産主張の実持ちに着り高った末端が行われるよう になった。 ■「子ととの推動」に関連して、体制的は一次番切な指揮である。 したり、一人人とごが大切な存在として、空かしてと話かる。 ようにより、一人人とごが大切な存在として、空かしてを話かである。 ようにより、一人人とごが大切な存在として、空かしてを話かる。 ようにより、一人人とごが大切な存在として、空かして、 ・「実施・子ともの没か・安全な生活を守るために、体制的止の研 等をを機能していく必要がある。	С	教育委員会事務局	指導課
43				257 人種種重效育推進担当 研修	教職局に対して実践報告会や交流会などの 研修を行い、権利の学習における効果的な指 場方法や学習異和の使用が表こっいて学び、 子どもへの虐性及び体制、いじめの胎止につ いて答発する。	年4日の研修のうち、第1日と第4日において 権力の研修のうち、第1日と第4日において 第50分割における効果的な指導方法で学習責 料の使用方法について学び、6学女での認能に ついて情報交換を行い、子どもへの動物及び体 割、いじめの防止について替免した。	3	年4回の研修のうち、第1回と第4回において 権利の学話における効果的な指導力法や学習 料の使用力法について学じ、音学校での制任 こりに「解校文献を行った。また、第公司にはい しめに関する機会を実施し、そとその場合 及び体制、いじめの助止について音角した。	3	年4回の併修のうち、第1回は権利の学際における効果的な指導方法や学際資料の使用方法や人権重要教育の 推進について等い、多学校での開催について情報を持つ 行うた。第2回には人権に到する情報を表現し、人権を 行うた。第2回には人権に到する情報を表現し、人権と に参加し、人権・機能要指令について競技を決定し、第4 に参加し、人権・機能要指令について競技を深めた。第4 回は各位の実践について意見交流を行った。4回の指修 を進して人権等型への意識を高めた。	3	■成果、研究実践物の視塞参替や人様に関する議場会等を通して、担当者の人権関係を解することができた。 1 「子どもの様態度を解することができた。 1 「子どもの様態に関連して、「子どもの権利についての理解を 添めることができた。 1 「報り部長年を活用し、子どもの権利についての理解を 添めることができた。 1 「報り部を格仗で始もし、40分の人権尊重教育への理解 を添かていく必要などある。	С	教育委員会事務局	総合教育センター カリキュラムセンター	
14				258 校長を対象とした研修 の関係	学校における子どもの権利に関する条例に 会 ついて単細のな上及り人権参重に至った。 ので、単細のな上及り人権参重に至った。 体表し、いしめの防止について音楽する。	教育系や学校教育部長の講話により、学校に おける子どもの時制に関する条例についての最 協同に及び人体管理に思ういた教育活動の推 迷の排移を行い、子どちへの信号及び体系。い しめの的正についての音枠とした。	3	校長研修を年4回実施した。学校教育部長や 人権・共生教育部員の関係により、学校におけ、 を子どの一種に関する名がしたがの関係の のおけ、 日本を主ない。 日本を持ち、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので	3	年間4回東端した収表研修の中で、総合教育センター 所長で学校教育部長・人権・共主教育社会の機能を実施 の意識の会上が人共和華に生かい。政策は他の地域と の意識の会上が人共和華に生かい。政策は他の地域の 研修を行い、子どもへの連行及び体脈、いしめの別止に ついての燃発を図った。	3	■原果・人権参重教育推進の重要性を、あらためて確認すること ができた。 ■「子とも地種利」に関連して・継続して研修を実施することに より、子ともの権利系がに関するが認力を導えっている。 単語・子との呼称に関するが自ちを様化しており、人権参重 に基づれて発表を影の推進を多くの何重からとらえ、研修を深め ている必要ながあ	С	教育委員会事務局	総合教育センター カリキュラムセンター	
45				259 教職與研修	子どもの心を輝く児童生徒指導研修として、各学校や社会教育態度での人権意理教育 のあり方や進め方について学び、体影やいし め的止などの指導能力の向上を図る。	夏季研修で、TAP (玉川アドベンチャーブ ログラム) を講除として記念、子どもの心を開 くために有効な指導力法を学んだ。	3		3	TAP (玉川アドベンチャーブログラム) を振動に招き、参加が移型の耐修を乗取することで、子ども一人一人のよこに配するよくができる。 子どものかを聴くために 有効な指導力法を争んだ。	3	■成果: TAPによる研修を通して、子どものめを開くための月 効な指導力法を学ぶことができた。 ■「子どもの推判」に関連して・子ども一人一人のよさを認め、 繁体を含えをとなっていてくが見ていつての理解を認めた。 ■算態: 学校、地域の実情や子とサー人一人の実際に応じた指導 力法の実践例を、他のより研じません。	С	教育委員会事務局	総合教育センター カリキュラムセンター	

年成28年度実施状況 及び 3年間の自己評価 毎年の不合用 安庭 今年 一学のおいいの75世間における子どもの権利保障(第3音)

頭策のス	方向Ⅲ 家庭、	育	<u>5 •</u>	学ぶ施設な	学ぶ施設及び地域における子どもの権利保障(第3章)							ルビタミンフノンエーリエ		700 200							
築。	具体的な取組	R例の 条数	再掲	事業	事業概要	平成26年度実施状況	平成26年度 の達成度	平成27年度実施状況	平成27年度の 達成度	平成28年度実施状況	平成28年度の 達成度	3年間の成果と課題	3年間の自己評 価	平成28年度の所管 局	平成28年度の所管部						
6 (15)	しなりい環境を整備する ほか、関係機関との連携 により、子どもの教済及 び回復を迅速に進めま	25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 2	88	子どもの権利ノート活用	児童機構施設等の児童福祉施設入所措置児 単に「子でもの種別ノート」を配布し、入所 円で一般したりい環境を超勝する。5 東市協調事業である。	児童機構施設等の児童福祉施設入所指置児童 に「子どもの権利ノート」を配布するととも に、守られる権利について説明を行った。	3	児童養護施設等の児童福祉施設入所措置児童 に「子どもの権利ノート」を配布するととも に、守られる権利について説明を行った。	3	児童無難施設等の児童福祉施設入所出置児童に「子どもの 権利ノート」を他向するとともに、守られる権利について設 物を行った。	3	■成果:施設入所出票料に「子どもの堆料ノート」を配布すると ともに、づられる単純について調明を行った。 ま「子どもの機制について調明を行った。 ま「子どもの機能」に関して「「子との堆料ノート」を配布 することにより、子どもが簡単において安めしてご思ができるよう になっている。 ■課題: 入所児国に父は一部としてずい選供を機等するか。引き 総考えどもへの回転以作物ノートの配布を行うの要がある。引き 総考えどもへの回転以作物ノートの配布を行うの要がある。引き	С	こども未来局	児童零庭支援・虐待対策						
7	d.		367	367	電話相談ホットライン	トラインを開設し、相談体制の構築を図る。	学校内外を問わず、児童生徒自身や別人の生 の、の場、別をに置すな雰囲度が生したとき、又 ま、生しる機動があると利利したとき、又 し、これまでの教育相談機関に併設する形で 行った。	3	等的の外を問けず、円面生態自動や別人の生 気、心場、引致上重大な客震が生じたとき、又 は、年のを経験が多ると単純したとさに、通 年間なできると、「これ機能するのである」とは、 中間などもように「これ機能するのである。 相談、大変を世界である。 「記載を标送し、だたらに対象できる体帯を整 えた。	3	学校の外を問かず、児童生徒自身や和人の生命、心臭、 財産に重大な装飾が生じたとき、又は、生じる総数があ ると判断したときに、通報・相談できるように「24等 開子はSOの監験的は、を開設し、報告を要する場合には 関係版に最終を転送し、たちに350できる体料を整文 まず、指示機能をないマトナランに登し、音号を クップすると連絡がつく仕曲がを導入した。	3	■成果:学物の外を物力学、保護生物の主然、心患、財産に重大 収益的が生じたとき、又な危険があると判断したとこと、通過・ 知識できる場所があることを、加ずせのの受け電圧域、保護者に 別対を包含的ができた。 国「子どの内側」に関連して、相談された事業の早期解決によ り、子どもが守られる様を保護が推進された。 課題:任務相談であるこか相談者の特定や事態の改善に向けた より、神経的情報(保護の力能については課題である。	С	教育委員会事務局	指導課					
			256 264	区を単位とした学校運営 支援	各区役所のことも支援室と連携しながら、 区・教育担当が、より学校と近いところで活 送かつ丁等に学校建芸を支援する。	各区位所のこども支援室と連携しながら、 区・教育担当が、より学校に近いところで迅速 かつ丁学に学校連盟を支援した。	3	各区位所のことも支援室と連携しながら、 区・教育担当が、より学校ご述しころで迅速 かつ了等に学校連盟を支援した。	3	各区協所に地域費守り支援センターが創業され、地域包 接ケアシステムのもと、児童生活に取りる機能機能が構 報共春でできるいたなった。支地外変の保護生徒、 家庭に迅速かつ丁寧に対応できるようになった。	3	■成果・児指生後の原題に対しては、関係部署と連携を図りなから、対局する体制が整った。 ■ 「才ともの推制」に関連して、関係機関の開発対有により、安して生る合権が改建された。 ■課題:緊急性を把握した時代、機動力を検理して協時学的対象が破解機が心場を忍る等。これまで以上に学校を精整的心室接近していく必要がある。	С	教育委員会事務局	指導課						
			222 255 300	224 200 346					223 262 366	教育相談事業	る悩み等について、来所面接相談や電話相談	来所面接相談では、144件の新規相談があり、約66時にくが不登校に関する相談となっている。また、電話相談では977件の相談に対応した。	3	米所面接相談では、150件の新規相談があり、約6額近くが不登取に関する相談となっている。また、電話相談では1000件の相談に対 歩した。	3	子どもが関ったことや部分をより掲載しやすくなるよう。 相談窓口の部介カードにORコードを理載するなど エキし、全市立学校理業生態とあわいた。 来が国際相談では、129件の新規制設があり、約7割 支くが不登録に関する相談になっている。また、電送相 該では1.132件の掲載に対応した。	3	■成業:様々な相談のニーズに応じて、学校や関係機関と達携 し、迅速に対象することができた。 単一写そとの再報: に関連して、子ぞもが困ったことや悩みを安 もして相談できる料を指えた。 理論: ・組織機の相談技能の向上と相談窓口の一番の周知を認る 必要がある。	С	教育委員会事務局	総合教育センター 教育相談センター
									224 263 368	スクールカウンセラーの 配置 - 活用	教育相談に応じる。また、教職員との情報共 有などを通じて連携を図りながら、児童生	スクールカウンセラーの市立学校への全校 配置、学校画のカウンセラーの小学校、選等学 校への返還により、各校における相談体制の 万変が図られた。中学校ら2枚のカンセラーに よる相談は18,003人、小学校では96件、属等 学校では103件の相談があった。	3	スクールカワンセラーの市立の学校への全校 配置、学校巡回カワンセラーの小学校、選号学 校への返還にこより、各位におりる相談体制の 発表が聞いたし、一学校区と扱りフレセラーに よる相談は18人のO人、小学校では90件、高号 学校では1110年の相談があった。	3	スクールカウンセラーを市立中学校へ全投影画、学校 調図カウンセラーを市立川学校・名称交通学校には登博 に取りて深着し、高等学校へは計画的に選することにより、発校における根拠体的介表が図られた。中学校 を投いまける相談体的介表が図られた。中学校 等別支援学校では97年、高等学校では133件の 相談がかった。参拝事故等による報告批准して10 対応した。	3	■成果:様々な相談ニーズに応じて、学校や隣所機関と連携しな がらが明することができた。 ■「子ともの権利」に関連して:子どもが安めして相談できる体 形を拡えた。 ■国際:学校明機に応じた配置地を含め、作実した相談体制の構 限を図るの数がある。	С	教育委員会事務局	総合教育センター 教育相談センター
					206	相談カード「ひとりで悩 まないで」の作成、配布	児童・生徒、教園商に対して様々な相談機 脚を記載したカートを配布し、個別の他みに 対して教練する女孩を行う。	子ともだちがさまざまは相談とつうように 多様な関節を確認で定じまで載したフートもむ布 した。最近300世年、大学で、大学で、 リカ大学学の大学、生き、教訓を美した。 また、市民館・図書館・区份所等にも配架して 活用を狙った。	3	子どもたちがさまざまな相談をできるように 多様な相談機関でおり支援戦したカードを配布 別支援等なのが基・生徒、対議を含ました。 対策は野体のが基・生徒、対議を含ました。 元、内部を、金藤郎・在登時でも必要して 活用を向った。今年度は別域区の所能に屋を造 して教教化、発情が、力の心機能として根拠 カードを提供した。	3	子どもたわかさまさまな相談をできるように多様な相談機関や取りで登載したカードを配布した。配布が像は、市力リー・の・高等学校、特別支援学校の万里・生産・製工機会をした。また、中部・国産権を受験がファイルを表現した。メーター・アクラブに、市の広崎地として相談カードを提供した。	3	■成策: 多様な相談機関や窓口を機能した相談カードを子どもた かに設けしたことより、子どむたがなまなまな相談をできる ような建筑メンの影響のことができる。 ような建筑メンの影響のことができる。 「子どもの権利」に関連して、相談カー・の配付を通じて、ア の子どの権利が今の16まる。見限等を図るようにした。 理解: 過程から子どもたちにカードの後いかを影響するなど。 子どもたちが必要なときに相談機能に相談できるような記述が必 要である。	С	教育委員会事務局	人權·共生教育担当				
2	子ども自身が子どもの 持つ権利を理解して、権 利侵害から身を守れるよ う。権利学部派遣事業等 により子ともの権利学習 を推進します。		9	植利学習派遣事業	小学校2~4年生を対象にすどもが魅力や 根制度部から自分を行る力法を思くつけるを 板度学館(ほどのアックションを行うC A 内 の場所を栄養する。	ロールプレイや参加型の学習を通し、子ども だち一人いとりが報約の大切さを学び、舞かを 権制を整から動かを引かれるとついるとと を認めることができた。	3	ロールプレイや参加部の学習を通し、子ども たちー人ひとりが権利の大切さを学び、暴力や 権利機関から自然を守るの法を基につけるとと とし、全主、後の中間の大力化につけて軍等 もたし、全主、後の中間の大力化について軍等 もたちの選供に加えば解射に、中学校での取組 を行ったところ、同様の効果が出ている。	3	ロールフレイや参加性の学習を選し、子どもだちー人ひ とりが無利の大切さを学び、編かり年利機素から日分を 守るが記を急につけるとともに、安全・安心や相談の大 切らについて電影を認めることができた。今年度より、 小学校での実施に加え、中学校での取組を行ったとこ ろ、同様の効率が出ている。	2	■成果:子どもたちー人ひとりが種利の大切さを学び、暴力や種 利度者から自分性名も力減を発につげるとともに、安全・安心や 機能の大切にして、は整整を励るとしてはった。ま、平成2 7年者が5、新たし中学校で技能している。 里「子どもの権制」に関連して、条列の10条以が12条について 保験的な活動を通して学べるようにした。 観聴:中学校の実施分の予算の要求及び、講師宗道NPO法人 との連携の発化。	В	教育委員会事務局	人権・共生教育担当						
			1 10	12 102	かわさき共生*共育プロ グラム	市形山立伊地において、いじか、不管外の 来郊西にとして、社会性を解する「かけた を対土・共将コウラム」を実施し、 を対土・共将コウラム」を実施し、 が出土・共和国のであった。 人間関係を指くたのかではかールなどのス 十ルを挙げ、集団つくりを定置する。	4月、8月、3月に教育会能にはいて、各学 物の担当的がに研修を行った。また、学校からの要議により、2.9年へ校の研修の講話として、指考主事を永遠した。	3	4月、8月に教育会能において、各学的の担当者に同じて研修を行った。学校からの意識により、3分別へなが対策の関係として指導主事を派遣し、各党の関係に関かた。	3	4月、8月に教育会館において、各学校の担当者に向 けて研修を行った。学校からの実施により、28分へ投 の実施の場所といて特定者を完施し、発外の機能であ が、というでは、2000年においます。 480の手げ和を受急をお婚し、い時はくりを目的とし たエクサザイズの機発と見差しに取り組んだ。	3	■成果:担当者に向けた旧様や学校養護が関所等等を通じて、各学校に対ける。かけらさ月生・料局プログラムの時代と指着を ることがで表生。 ■「子どもの権利」に関連して、かりささ月生・共同プログームの意見と問題して、 は、「間から強いと認かられる」ことか「自分を表現し、その 起見も増進なれ、何能であった」とがことも、日子どもの特別による は、「他のなった」でできる。日子どもの特別によった は解析にあった。「一般主要はあった」のような は解析にあった。「一般主要はあった」のような は、「用金に扱い日本会のか」とおったに記述するため、より児 単生性の実態に多ったアプリナアンの発展やその意味、また学校 の特色に合わせた新修が必要であると考える。	С	教育委員会事務局	教育改革推進担当					
			2 7 19 111	子どもの権利に関する週 間	「川崎市子どもの権利に関する週間」を中心に、学校においては権利の学部を指達する。また。これらの取組を保護者や地域住民に公請するとにより、子どもの権利の理解 を地域に広がる。	日頃の学校教育及び川崎市子どもの種利に関する問題、で会談をとおして人権参盟教育に関うる問題、で会談をとおして人権参盟教育に関うる決議を使った。また。とせるの権利の連携を認識に広めた。	3	11月の川崎中子どもの権利に関する透問」 を中心に一学校においては、権利の学習を推進 サウル・デスト では、大学の学習を推進 リ海生はについては、「アンセの権利学院」 別を活用して利用についての等を実施した。また、保護者や地域社別に対しては、これ この政権を提供している。これ デビモの権利についての連絡を指	3	各学校において「子どもの権利に関する透配」を中心 に権利が語る製造できるよう。研修会の製造を基化で製 する透明」を中心に、権利が登録等等を採用した影響を 実施した。また、「子どもの事料」の表の表別して記れ て、適思、学形法物等の対象公開を実施する記して、保 議者や助埓住民の子どもの権利についての連解を適め た。	3	■成果:「子どもの権利に関する問題」を中心に選問など様々な 対対すず関着・地域性低に関連が関することを占って、子ども が構造している場合を認めた。 □ 「子ともの権利」に関連して、自由しませいをは、 □ 「子ともの権利」に関連して、自由しませいとうどもの権利等指揮 収の活用を信頼した。 ・ 国際第一子ともの権利に関する関係していての理解を加めるため、 が、指導権の対抗的場合を紹介し、子どもの権利等指揮的の抵利	С	教育委員会事務局	総合教育センター カリキュラムセンタ・						
(16)	育ち・学ら施設に対け る様々な職種の機器に対し のでは、は必要には必要に対した。 のの子では必要に対した。 めの子ともの権利に関す る研修を行います。	24条	20 237	子どもの種利に関わる講 舒派達 (職員向け)	利保障に関係する職員向けの研修会等に講師 を派遣し、子どもの権利についての広報・啓	市立学校主席の人権教育研修会(ほべむ人が 数する在書画の温度研修会(なり人) デビセの特別国際に関係する問題に対して、 社を依名者が子どもの権利について訪問した。	3	保険医の関係研修(値へ160人)等で子ど もの毎利何限に関係する関係に対して、八種全 飲を含め子ともの権利について限制した。	3	保育圏の関条併移(基へ161人)、児童相談所の新任 開発(30人)、こども文化センター環境研修(3个 て、人権を終充組の子ともの権利について終則した。 その後、市立学校の影響技術を(40人)の増進が得 られ、新聞機に対し子どもの権利について終明した。	3	■ 「非人生に関わる場合の関係への研修をとおし、国債の人権型がを集めることができた。 ■ 「非人生の権利」に関連して、研修等の受謝者に関いて具体的な対象が優勢を対して、対し、迅速にあれる子どのが参加を分かりやすくがありた。 「理論・保障等への関係活達した関係を発金人の運用」よる行戦は、引き越来渡しつの、民間関連機関のの所様の機会がかなく、分級と民間が認める情報は、連携、民間関係の機会が必要といくと変更がある。	С	こども未来局	青少年支援至						
(16)	育ち・学ぶ施設における様々な職種の職員に対ける様々な職種の職員に対ける例の等でいいの助止のための子どもの権利に関する研修を行います。	24条	248 264	区を単位とした学校運営 支援	MAY 21 WICHTURES CXIX 9 W	個区位所のことも支援者と連携しながら、 区・教育担当が、より学校に近いところで迅速 かつ丁卯に学校連盟を支援した。		各区内所のことも支援者と連携しなから。 区・教育当当が、より学句に近いところで迅速 かつ丁寧に学句達営を支援した。	3	各区場所に地域同分り支援センターが設置され、地域包 技ケアシステムのもと、現在生まに取りる場所を継が構 解状育をできるとなった。定、数件が表現代理主徒、 家庭に迅速かつ丁寧に対応できるようになった。	3	■成果・児童生後の解題に対しては、関係部署と連携を図りなから、対象する体制が整った。 ■「才どもの権利」に関連して、関係機関の情報共和により、安して生る合権が受達された。 ■観測: 緊急性を影響した時は、機動力を発達して調修すな対象 が関係機能が必要を認合等。これまで以上に学校を精験的に支援していく変更がある。	C	教育委員会事務局	指導課						

各年度達成度=1:目標を大きく上回って達成 2:目標を上回って達成 3:目標をほぼ達成 4:目標を下回った 5:目標を大きく下回った 3年間の自己評価=A:目標を大きく上回って達成 B:目標を上回って達成 C:目標をほぼ達成 D:目標を下回った E:事業が廃止

	具体的な取組	条例の 条数	再揭	事業	事業概要	平成26年度実施状況	平成26年度 の達成度	平成27年度実施状況	平成27年度の 達成度	平成28年度実施状況	平成28年度の 達成度	3年間の成果と課題	3年間の自己評 価	平成28年度の所管 局	平成28年度の所管
			243	人權等重教育推進担当者研修	教職機に対して実践報告会や交流会などの 前後を行い、権利の学習に対ける効果的な結 網方法や学習機の使用が注こいで呼び、 子どもへの監恃及び体罰、いじめの助止につ いて登存する。	年4回の研修のうち、第1回と第4回において 毎年日の研修のうち、第1回と第4回において 第4の使用が近こいて守び、各学での即随に ついて情報交換を行い、子どもへの虚特及び体 別、いじめの防止について啓発もた。	3	年4回の研修のうち、第1回と第4回において 権利の学話における効果的な指導力法や学話員 特の使用力法について学り、音学校での制化 このに関係されます。また、第2回にはい いた関係であると表現した。 次のは、100のの前上について答用した。	3	年4回の併修のうち、第1回は権利の学問における効果的な指導が大きな学問業はの専用力法や人権重要教育の 推進について学り、各学校での設施について情報を対象の 行業の内閣を記念しませます。 において、大きないでは、大きないでは、 に対し、大きないでは、 に対し、大きないでは、 とかし、大きないでは、 とかし、大きないでは、 とかし、大きないでは、 とかし、大きないでは、 とかし、大きないでは、 とかして、 とのでは、 とかして、 とのでは とのでは、 とのでは とのでは とのでは とのでは とのでは とのでは とのでは とのでは	3	■成業: 研究実践物の授業参報や人権に関する議論会等を達して、担当者の人権機関を脅威することができた。 単一字その内様に関連して: 「子と七の権利に関する週間が中心に推移等器製料を提出し、子ともの権利についての理解を 扱めることができた。 ■課題: 「捕痧な管名格女で終むし、が2の人権機置数料への運搬 を認めていたができたが、	С	教育委員会事務局	総合教育センター カリキュラムセンター
			244	校長を対象とした研修会 の開催	学校における子どもの権利に関する条例に ついての問題の由上及び人格者悪に基づいた 教育活動が指定者の・子でもの 体前、いじめの防止について普発する。	教育長や学校教育部長の講話により、学校に おける子ともの権利に関する条例についての題 派の由上投入権管監上送りに教育を整め 進め前移を行い、子ともへの虐待及び体系、い じめの胎止についての習免とした。	3	校県研修を作4回業施した。学校教育総長や 人権・共生教育団曲の課題により、学校に対け る子どもの権利に関する条例についての開始の 向上及び人権衛に基づいた例を活動の推進の 研修を行い、子どもへの虚物及び体制。いじめ の助止についての啓発を図った。	3	年間4回家施した投票研修の中で、総会教育センター 所参わず投資商務を、入庫・共生教育活動の機能を実施 にした。学校に入計する子との内機に設する条件について の意識のほし及び人権等単に答ういた教育活動の推進の 研修を行い、子ともへの慮り及び休暇、いいめの助止に ンいての意外を図った。	3	■成果・・・・ 推着単数解准返の重要性を、あらためて確認すること ができた。 ■ 「子どもの権利」に関連して: 継続して研修を実施することと より、子どもの権利」に関連して: 継続して研修を実施することと より、子どもの権利を禁むに関する認識を深まっている。 ・ 開墾: 子どもの事料に関するの音を解化しており、人権尊重 に基づいた実施予酷の相差を多くの例率からとらえ、研修を深め でいくの提出がある。	С	教育委員会事務局	総合教育センター カリキュラムセンター
			245	教職長研修	子どもの心を脚く児童生徒指導研修として、各学校や社会製育施設での人権・需要教育の分別を参加がたっいて学び、体影やいじめ防止などの指導能力の向上を図る。	夏季研修で、TAP(玉川アドベンチャーブ ログラム)を講師として語ぎ、子どもの心を開 くために有効な指導力法を学んだ。	3	夏季研修で、TAP(玉川アドベンチャーブ ログラム)などの研修により、子どもの心を開 くために有効な指導方法を学んだ。	3	TAP (生川アドベンチャープログラム) を構動に招き、参加体験型の研修を実施することで、子ども一人人のよさに留目する大切さや、子どもの心を開くために有効な指導力法を学んだ。	3	■成果: TAPによる研修を通して、子どもの心を開くための有 効な指導力法を考めたこだできた。 ■「子どら晩様」に影響して・子ども一人―人のよさを認め、 多様な考えを主わしていく大切さについての理解を広めた。 温暖部: 学校、地域の実備や子ども―人―人の実態に応した指導 万法の実践例を、幅広く研修に取り入れていく。	С	教育委員会事務局	総合教育センター カリキュラムセンター
			39	スクールカウンセラー研 修	に、教育相談についての研修を実施し、子と もの権利についての理解促進と児童生徒への	スクールカウンセラーについては、年4回研修会を開催し、子どもの推制についての理解促進及びカウンセリング技能の質的的上を図った。また、学校巡回カウンセラーについても同様を通して子どもの権利理解促進を図ると同時に、事件事成における緊急時の創劇に対する研修も行った。	3	子どもの権利についての理解促進及びカウン セリング技能の関的向上につながるよう、スクールカウンセラーについては、年4日前様会 の関係を充実させた。また、学校巡回カウンセ ラーについてもぞもの権利理解促進を図ると 同時に、事件事故における新急時の創身できる ための研修を実施した。	3	毎4回幣化でいるスクールカウンセラー研修会に学 が高国カプンセラーも参加し、いとのの理能や予整の の対応等に契調機と連携しながら取り組む事例を示 に関する所能や影響を招くるオンとも、保護者へのかかり に関する所能や影響を招くるオンとも、保護者へのかかり いて研修を行い継承を深めた。東に、学校返回のフレ ラーについては、事件事故における製造時に即応するた めの研修を実施した。	3	■成果:子どもを敦り書く様々な課題について知識を深め、適切 な相談記載を行うことができた。 第一子ともの条料。 に関連して:子どもが安めして相談できる体 制を整え、子どもに寄り添った相談が選進が記。 日課題:学校と連貫しながら升業した相談記記。 ごもの権料に関することや教情報に関する情報を複数する。	С	教育委員会事務局	総合教育センター 教育相談センター
(17	学校等において、各種相談カードの配布やス クールカウンセラーの配 画等、オどもがいしめに のこのいて相談しやすいい環境 関と連携し、子ともかいのは 類及び関度を迅速に進め ます。また、いじめを 行った子どもに対しても 必等のた識ま存れります。		251 363	相談カード「ひとりで悩 まないで」の作成、配布	児童・生徳、教園県に対して様々な相談機関を記載したカートを配布し、個別の悩みに対して教達する支援を行う。	子どもたちがさまさまな相談をできるように 多様な名前機関でも口を掲載したカートを配か 別女選挙がのが高しま、指載を表した。 別女選挙がのが高いませ、お園を含ました。 また、市民館・図書館・区役所写にも配定して 活用を回った。	3	子どもだちがさまさまな相談をできるように 多様な相談機関の窓口を掲載したフートを配布 した。飲取奴配は、市立力、中・漢言等が、 東大、市内部・御職・公の外が二・配線して 支充、市内部・御職・公の外が二・配線して 近月を図った。今年度は川崎区の所能生を活 して数度な、美術や小の広報物として相談 カートを登録した。	3	子どもたちかさまさまな相談をできるように多様な相談機関や空口で機能したカードを設而した。配示な像は、市辺り・中・高等等後、特別支援学校の児童・生性・教訓集を任した。また、市部の・富裕・との場合で、日本日本会社・レス部氏を図った。今年初は基準によりでは、一番ない。一番を収集した。一クラブに、市の広報物として相談カードを提供した。	3	■成策: 多様な相談機関や図口を掲載した相談カートを子どもた ちに設けしたことにより、子どれたがだまさまな相談をできる ような理論メンの影響した場合して、相談カートの影性を通して、フ つの子どもの権利が与れるよう。周均等を図るようにした。 ■複数: 揺扱わら子どもたちにカードの歌い方を抑制すると、 子どなどが必要なこさに相談機関に相談できるような影響が必要である。	С	教育委員会事務局	人權·共生教育担当
	provided and the second		223 249 305	教育相談事業	子ども自身の悩みや、保護者の子育でに関する悩み、飲職員の子どもとの助けりに関する悩み、飲職員の子どもとの助けりに関する他み号について、米が面接相談や電話相談によって対応する。	来所面接相談では、144件の新規相談があり、約6種近くが不登校に関する相談となっている。また、電話相談では977件の相談に対策した。	3	東所面接相談では、150件の新規相談があり、約68股上が不登成に関する相談となっていた。また、電話相談では1000件の相談に対影した。	3	子どもが開ったことや協力をより掲載しむすくなるよう、相談をLOMB/1カードにGRコードを機能するなど 工夫が高数性が必要とはことが規能があり、約7割 またが予整化は35 名前後とよっている。また、電話相 版では1.132件の相談に対応した。	3	■城東・様々な相談のニーズに易して、学校や韓領機構造と連携 し、迅速に対象することができた。 『子どもの神報』に関連して、子どもが困ったことや協みを安 むして相談できる体制を超えた。 ■複雑・組織機の相談技能の時上と相談窓口の一種の規矩を器る の変力がある。	С	教育委員会事務局	総合教育センター 教育相談センター
			224 250 368	スクールカウンセラーの 配置・活用	音学校に、専門的知識・経験を持つカウン セラーを配置し、 数課員とは異なる制価から 数解観に応じる。また、数課員との情報共 有などを通じて連載を図りながら、厚屋生 徒・保護者への多面的な相談体制の構築をめ さす。	スクールカウンセラーの市立中学校への全校 配置、学校返回カウンセラーの小学校、高等学校への永遠上により、各校における相談体制の 存実が図られた。中学好会がのカウンセラーよ る相談は18.053人、川学校では96件、高等 学校では10.3件の相談があった。	3	スクールカウンセラーの市立中学校への全校 配置、学校巡回カウンセラーの小学校、高等学 校への派遣により、各校における相談体制の 充実が関係した、中学校20枚のカウンセラーに よる相談は18,000人、小学校では90件、高等 学校では1110件の相談があった。	3	スクールがフンセラーを市か中学が、全校を選、学校 温部カウンセラーを市が小学校、計算の支援学校となった。 は、日本の学校、計算の支援学校となった。 より、各校に、対象を呼ばれる。というない。 というない。 大学・活動の支援学校では7月、高学学校では120名人、リッ 学校・活動の支援学校では7月、高学学校では7月、高学学校では7月、高学学校では7月、高学学校では7月、高学学校では7月、高学学校では7月、高学学校では7月、初島した。	3	■成果:様々な相談ニースに応じて、学校や関係機関と連携しな がら効けることができた。 ■「そどもの無利」に関連して:子どもが安めして相談できる体 制を整えた。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	С	教育委員会事務局	総合教育センター 教育相談センター
			248 256	区を単位とした学校運営 支援	高区役所のことも支援室と連携しながら、 区・教育担当が、より学校に近いところで迅速かつ丁寧に学校連貫を支援する。	各区役所のこども支援室と連携しながら、 区・教育担当が、より学校に近いところで迅速 かつ丁寧に学校連営を支援した。	3		3	各区位所に加減契守り支援センターが設置され、加減包 技ケアシステムのもと、児童生徒に関ける関係を運動が構 報片有をできるようになった。支援が必要な児童生徒、 変産に迅速かつ丁等に対応できるようになった。	3	域際、「発生性の球態」ないては、関係部署と連携を図りなか 5. 対象する体制が整った。 ゴーアをその体制・影響とで、関係機関の情報共有により、安 むして生る体制が突進された。 環接に、実色をで関した時に、機動力を発達して認時学なが耐 や関係機関への連携を図る等、これまで以上に学校を積極的に支 接していく使用が良い。	С	教育委員会事務局	指導課
			369	スクールソーシャルワー カーの配置・活用	教育の分野に加え、社会指社等に関する専 門的な知識や技術を各するスタールリージャ ルワーカーにより、問題を指えた兄童 生徒 に対して、当然反策 生物が悪力に復議へ の乗さかけや関係機能とのネットワープの構 務なと、参様な子法を用いて課題条 別を包名。	○区・教育担当に18才つ歌画されているス クラナーシャルジーです。大学なからの野舗 を受け、この意味、一般な経過ないのではません。 にの意味、受ける場合を持ちません。 は、問題を招えた児童・生徒の問題解末に向けま 提した。	3	川崎区に1名増強して全名名体制とし、必要に 用して完選主徒。保護者、教育等との面談、医療 や協議機関へのご及ぎ等名行し、課題を指えて、 変力からの関連を受けて消退していた方法を、各 反との関連を受けて消退していた方法を、各 区・教育当が必要と判断した場合には関連が 数・学校が問目を対した場合には、対学や検 数・学校が問目を対した。大きく増加した。	3	許主意地にした体制を機械し、課題を指えた児童主徒の 問題解決に向け支援した。 等年度に比べ、対処児童生産取は模式いではあるが、そ のうち種誌支援を行っている数が増えている。	3	画版車、原則・極限上力多くれたことにより、スクールソーシャ クラーカーの高速・返用が発生、振想の解決・分析につながっ にある。 1 子ともの手間、に関連して、「子ともの手間 が保護される よう、課題を担えた規範主に対して、その重かれている環境を 取るな支援に発むしている。 環路・数値向やスケールカックセラーとの連携をいっそう強 が、さらなる時間をしたを切りたり。	С	教育委員会事務局	教育改革推進担当
					児童生徒指導点検強化月 間の実施	児童生徒指導体制の一層の方案とともに、 教育相談制度を認定な数機あり指導力の向 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	教育相談活動を通じて予量生徒活幹の撤售に ない。 ないのないできないできません。 ないのないできないできません。 ないのないできないできないできないできない。 ないのないできないできないできないできない。 ないのないできないできないできないできない。 ないのないできないできないできないできないできないできないできない。 ないのないできないできないできないできないできないできないできない。 ないのないできないできないできないできないできないできないできないできないできないでき	3	電視火薬値向の冷量生態の実態を把握し、児 量を採売等機制協議会等で、児童を提工値り 金の尤指導や支援の住の方について、児童生態 海海田島生とに、参拝報目が管理が振踏後 行った。いめ、小型な対策に対して、格力で の方向なけれる形式、指導体制の小変を図るため の方向なけれる形式を表現した。	3	いしめ、不合物の未然別上対策として、全市当学校で 教育相談がアンゲート協議を実施し、児童生徒の条配行 提に「別なた」その結果を投びて情報共有し、指導体制の 光表を包含えたからないない時を実施している。平成 27年度より、長脚次常編ののが誰生生の実施を行道 し、児童生徒に行うる。たた時や型後のモンガニンル て、税等で登校支援協議を行っている。	3	■成果:児童生徒により多った共感的理解に基づく生徒指導が図られるようになった。 ■ 「子どもの権利」に発達して、子どもが悩みや不適をかかえ、 時に、安心して相談できる環境管理大でいる。 ■課題:果拠欠機の児童生徒の企動は対が傾するからな対象が求め かるとして多く存在した。 のとして多く存在した。 のとして多く存在した。 のは、 のとして多く存在した。 のは、 のとして多く存在した。 のは、 のとして多く存在した。 のは、 のとして多く存在した。 のは、 のとして多く存在した。 のは、 のとして多く存在した。 のは、 のとして多く存在した。 のは、 のとして多く存在した。 のになった。 のにな	С	教育委員会事務局
				児童支援コーディネー ターの配置・活用	特別支援教育の趣門性に加え、児童指導・教育相談の2キルを持った円盤支援コーティ スーターと専任化し、家庭課題・及連携は、大連製作。 発達顕著等単大な製造で支援を発展する兄 製に対して、教育的ニーズに向いた均均支援 体制を構造し、甲根に適切立支援を実施する ことで課題の改善を図る。	小学校44校において児童支援コーディネーターを専任化し、多様な影響的ニーズのある形態 第2の週間が支援を平開に行ってで誘動の次 善を抱った。また、歌絵の東について合称金 新聞組合、研修を書き出して報じたり、リー プレット号にまたがて全市に発信した。	3	小学校65校において児童支援コーディネーターを専任化し、多様な教育的ニーズのあるのな音を図った。また、歌極の成果について各種連絡協議会、新春を各番して発生した。リーブレット等にまたので全市に発信した。	3	川学牧79校において児童支援コーディネーターを専任任し、多様な教育的に一ズのある児童への選び広支援を早期に行うことで課題の返着を図った。これにより、3 べての作業が安全・安しして学校上述がなくれるよう。 でき市に乗せ、また、コーディネーターの連載と「大き、また、コーディネーターの連び、大手、小のほとを図るため、定義と「大学、大学、スーターの構造で「大学を図った。	3	■城東: 効果を検証し、蓄楽に専任化の学校を掛やした。 7 日校 で、一人一人の数解的ニーズに適応し対象する支数体系を機築した。 ■ 「子どもの権利」に関連して、子どもの課題の中類発見・早期 の部及び末級加工に努め、安全・安めは学校ごべりに寄与した。 ■ 「課題」を2 の小学校において児童女徒コーティネーターの専任 化を図る必要がなか。	С	教育委員会事務局	指導課
(17	学校等において、各種 相談カードの配布やス クールカウンセラーの配 簡等、子どもがいしめに ついて相談しかすい理論 別と連携し、子どもの数 済及び間接を迅速に進め ます。また、いしめを 行ったぞともに対しても	24条		いじめ筋止対策連絡協議会	増に削し、水面が市塔を内径オスととまた	川崎市いじかが止対策連続協議会等条例を、 甲成26年10月15日に公析し、条例に基づき、 研究26年時は、2月に18協議会を開催した。 協議会では、いじかの未然が止倒について、 風、集、本は、学校の79年612月2日を発展のような発展がある。 りあい連携を目的に情報であり、関係機関のより りよい連携を目的と「協議会」と、	3	条例に基づいて年2回時能し、各関係機関が 第4と対しているいしめ問題の未然の止気について 情報を剥を行い、よりよい連携を目指して配議	3	条例に基づいて年2回開催し、各個係機能が実施して いるいしか問題の未然別止制について情報交換を行い、 よりよい連携を目指して協議を行った。	3	■成業・児童生性に関わる関係機関が実施しているいとめ近よの 取削を知る場合となり、連携が深さった。 ■「子ともの権利」に関連して、いいな的止の取り組みを推進す ることで、安めして生活できる特別が適合されている。 ■経路・いいなが正な程として採掘したり扱う、形骸化しないよう と正対の組みでいなければらなり。	С	教育委員会事務局	指導課

平成28年度実施状況 ROV 3年間の自己評価 施策の方向Ⅲ 家庭、育ち・学ぶ施設及び地域における子どもの権利保障(第3章)

B業 No.	具体的な取組	条例の 条数	再揭	事業	事業概要	平成26年度実施状況	平成26年8 の達成度	平成27年度実施状況	平成27年度の 達成度	平成28年度実施状況	平成28年度の 達成度	3年間の成果と課題	3年間の自己評 価	平成28年度の所管 局	平成28年度の所管課		
59					346	人権オンブズパーソン広報・B発導業	人権オンプズバーソン子とも問題カードや ポスター、バンプレットの監布や軌画が放映 等を行い、制度の機能と利用の修理を図る。	市场の学校を通して全管量生機に掲載カードを整布した。また、中学校1年生以下の子でも を整布した。また、中学校1年生以下の子でも 等か了全貨番店、少年の人が再覧。 通してデランをを示した。ボスターは合学校、 子でも開始期から、北京地路、市場市に乗出し、 ビジョン等で放映し、在らた、番料「水ルセ区 ビジョン等で放映し、たらた、番料「水ルセ区 別年(2分所)、第79音で展示した。 当年度は、新たに中学生内「不物画を作数す るとことに、パーソン書店を発行した。		市内の学校を通して全児童生徒に相談カートを設有した。また、中学は1年は11かの子の か信息を行って当場を行っている。 また、中学は1年は11かの子の が信息を行っていません。	3	市内の学校を通して全門産生産に利能力ードを配布した。 また、中学科・年上以下の子ども終う全保護者に、学校及 行政解題、幼児童紀・イデランを他のした。ポスター名を プロス・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オー	3	■原果: 20年度から、相談カードを管規型(じょうぎがた) に変 更し、才そもが持ちが引張さし、市が別中高等学校に添加した。 度が、中学生的が中国語を存成し、するため数で活用した。ま 元、同日も書き込めるクリアフォルダを作成した。ま 元、同日も書き込めるクリアフォルダを作成した。 3 「子ともの発生して職業して、「そともが安心してそともの種利 の増善について、相談できるよう場際の境制を含っため、 単位部: 引き続き、人権オンプスバーソン制度を周知するため、 様々な手法を活用した広報・音枠を行う必要がある。	С	市民オンブズマン事務局	人権オンプスパーソン担当
ю			347	人権オンプズバーソン子 とも数室推進事業	人権オンプズバーソンや専門関連最近学校 等を訪問し、制度や暗跡等例の約5、いしめ ウル種に関する話をすることにより、人権オ ソフズバーソンをより参近に相談できる機関 として問知し、制度の受達を図る。	中学校4校、小学校8校で人種オンプズバー ソンネども教室を実施した。「教験に同でも期 該できる、役のして相談できる。例のかったら 相談したい、」という感想が、小学校・中学校 合わせて終56名であった。	3	中学校4校、小学校8校で、平成24年後に 作製した品質部40分でが平常に有製したの シン子とも発生を振りた。ランテンタを表現した。ランテンタでは して、 カには、市民文化大使の大台樂子氏をお招き して実施した。	3	中学的48、小学校88代で、信報器利用リソDP単高26 年度に有別した中学生的1万年額面などを適用して、人権オ ンプズパートンティとも数差を実施した。うち中学は1位につ いては、市成区化で成から指導すたが出して実施した。 また、保証機能能など動所の人権オンプズパーリンティとも また、保証機能能など動所の人権オンプズパーリンティとも レインプなどを扱いて実施した。	3	■成果: 平成28年度の小中学校のアンケート経業では、子ども 短路はかかやすかったとまあまあ分かったからの多を設えている。 も、そとの無利」に関連して: 子どもが安してアどもの権利 の帰属ニンハで相談できるよう、人権オンプズバーソン子ども教 至を選出した。 ■は思いは自由されないのでは、子ども数率を実施している。	С	市民オンブズマン事務局	人権オンプズパーソン担当		
1 (18	学校や保育所等におい て、子ども本人に関する 文書等を、個人情報保護 (A) 8条例に基づき遊切に管理 し、その子どもの原の 利益を損なうことのない よう記慮します。	25条		保育圏における守秘義務 の滅守、情報管理の撤匿 強化	保層に当たり知り得た子どもや保護者に関する情報の強い、因み情報の違い、因み情報の違いでは世紀でついて、高級及び研修等を実施し周知徹底を図る。	薬科上知り間た子どもや保護者に関する情報 の取扱いや、個人情報の選切な管理について、 点核及び研修を実施した。	3	業務上知り得た子どもや保護者に係る情報の 取扱いわ、個人情報の確切を登理についての職 最終を支援が、職員の個人情報保護に関する 度端的上を図った。	3	業長上知り間に子どさい保護者に係る情報の収扱いか、 級人情報の意切な音楽についての報典機能を実施し、また、日頃の自体を徹底し、観典の個人情報保護に関する 恵場向上を図った。	3	■協業・評等や日々の出検を描して、国典の個人情報保護に関す ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	С	こども未来局	連當管理課		
2				児童相談所における情報 の適正管理	子ともよ人に関する個人情報の過正な管理 を行うため、新任職員研修する時の超級等 に関する内容を書めた研修を行う。	相談に牌等個人情報の影説いに係る研修等に より開発一人ひとりの個人情報を選正に管理し、子どもの 長春時間 様和機嫌に努めた。	3	相談に辞等の重大な個人情報を適正に管理 し、子どもの権利機嫌に努めた。	3	相談記録等の重大な個人情報を適正に管理し、子どもの 権利規機に努めた。	3	■城東・個人情報の管理を選正に実施し、児童及びその家庭に対 する側の女孩を実施した。 ■「子ともの時間と「延慢して、個人記録などの個人情報につい て、子ともの時刻を守るという明点から適正に管理した。 実際1、引き換え情報等を指定に登するとともに、国典 人ひとりの個人情報を課こに努めていく。	С	こども未来局	児童家庭支援 - 虐待対策室		
3				学校における子どもの処 連に関する適正手続き	学校において、選挙や停挙の処分、出席停止の出席をが決められると古には、子ども よんから、事情や意見を聴くなど弁明の機会 を設け、本人や監算者はもちろん。誰からも 朝母されるよう記述する。	学校における子どもの処遇に関する適正手続きに配慮した。	3	学校における子どもの処遇に関する適正手続きに配慮した。	3	学校における子どもの処遇に関する適正手続きに配慮 した。	3	■成果: 木人から、影情や電見を接くなどの場合を設けたので、 木人や環境などの時間が図られた。 9 「子とちの時は、は発達して、『発星士教の学ぶ様形を守り木人 の影響を十分に生かす方筒で取り組んだ。 ■複数: 報典一人ひとりの影響を再める必要がある。	С	教育委員会事務局	指導課		
4				学校における情報の適正 管理	子どもの個人情報保護の適正管理について 初圧者研修、10年経験者研修、新任教領研 修等の部語研修で行う。 子ともの風人情報は対象支援システムにおい て万全の対策が施されたデータセンターで管 理を行う。	子どもの個人情報保護の適正管理について初 任者研修、10年経験者研修、新任政策研修等 の場合制を、399をもしこ前的とした。校野支援 システムにおいては、テータセンターのトラブ ルはなく、個人情報の管理が適正に行われた。	3	子どもの個人情報保護の適正管理について初 任告研修、1 0年経験音研修、新任労政保持等 の声間研修で、事例をもとに研修した、特に今年 仮は、情報子ルについて重めのに扱うた。校 授支援システムにおいては、データセンターの トラブルはなく、個人情報の管理が適正に行わ れた。	3	子どもの個人情報保護の適正管理について初任者研修、10年経験者研修、新任政効研修、情報教育学校担 調合会の心理研修、理例をして研修した。付き、 での影响かは一般でいいて実質の企業機能の研修 での影响かは、と思うた。砂板支援システムにかって が適かれた。つトラフルはなく、個人情報の管理 が適正に行われた。	3	■成果、各研制の実施により、物類長の個人情報に対する影響の 素を切り分うだ。 ■ 「アナセの機能」に関して、「学校に対する最大情報について、 アセもの権利を守るという項点から選正「管理した。 ■ 1928 個人情報が発生させるよう。研めのさなるが実 で、合う現状を表。ジステム集合もの場所構成との状態を終る の過度が多る。	С	教育委員会事務局	総合教育センター 情報・視聴覚センター		
(19	安全・安心なまちづく りに向け、子どもを対象 とした交通を全はり、子ども 等の期準により、子どもし か。 かまりまた。地域子育と 支援によりを 会議により地域の子育ご 環境や教育環境を整備し ます。また。	26条	45	幼・保・小連携事業	人びこりの子ともの別児間から児童別の投稿 の重要性を理解し、成長を一体的に支援する ために、研修会や会議などの情報交換や保育 体験等を実施し支援体制作りを進める。	現底の地内側から学報率への得るは機能に異するとはの時でして改変性。 特別を持ちます である。在区の時でして改変性。 特別を持ちます である。在区の時でしたである。 一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、	3	引き燃き、名区においては、発産の基準化 を指定えたアとの向待を支援する心能回程 有所等、分相應、小学校を対象に「個長・校長 連絡会」や「実施別当各額線会」、「農事等的 の以集・押包」、「提集等的 の以集・押包」、「提集等的 の以集・列目、「提集等格・型配会」等のを の、子と下の支援体制中の各項金に大 、ア屋のが原始の子学等時への用途は特に 同するため、各区研究にとも支援を、変質を の力・デンストリーの日間をなえた「幼 の力」と、「現場のが原本の学生の一般のである。 の一般の原本の学生の一般のである。 の一般の原本の学生の一般のである。 の一般の原本の学生の一般の原本の学生の一般の の一般の原本の学生の一般の原本の学生の一般の の一般の原本の一般の原本の一般の原本の学生の の一の一般の原本の一般の原本の一般の原本の の一の一般の原本の原本の一般の原本の一般の原本の の一の一般の原本の原本の一般の原本の一般の原本の の一の一般の原本の原本の一般の原本の一般の原本の一般の原本の原本の原本の原本の原本の原本の原本の原本の原本の原本の原本の原本の原本の	3	高区においては、保護の連続性を指導されてディもの得りませた 接するれい部の信仰研究、が増進、小学校を対応して関係。 な実施性会、から発展は他の音楽を表現し、電路機能自の理 が他し、「行機事態」・電性会」をの定策はし、電路機能自の理 等を受ける。 特を使り、ディックの変質体制やの管理はした。また、最近な なのが関係があり、単位を なのが、できない。 をなるというない。 をなるといるない。 をなるといるない。 をなるといるない。 をなるといるない。 をなるななななななななななななななななななななななななななななななななななな	3	■成果: 各合語等を遂い、関係関係の連携、情報共有等連携体制 プくりを指進した。 ■ 「子ともの権利」に関連して、必保小連携合語等を実施するか で、「子どもの権利」に関して特殊理解を認ることができた。 ■課題: 合類時期の連携地化及び、発差の連続性を指述えた子 ともの場合を支援するための持続的な事業指進を実施していく必 類がある。	С	こども未来局	運營管理課 各区保育総合支援担当		
5			43	青少年団体活動支援事業	再少年の健全育成と指導者の育成のため、 川崎市海少年団体に対し事業の補助を抵抗 し、団体事業の活性化を図り達携を進める。	青少年回体に対し、青少年の健全育成と指導 名育成の定め事業制助を全交付するとともに、 団体活動の設力や金鵬管で等、団体活動の活性 化と団体相互の連携を進める支援を行った。	3	青少年団体に対し、青少年の健全育成と指導音音域のため事業補助金を交付するとともに、個外高数の終行や会議機関等、関小高等の活性化と団体相互の連携を進める支援を行った。	3	関少年記述に対し、関少年の確全関点と指導者関係のため、補助を各党付するとともに、団体活動の影性や合理解保等、団体活動の影性化と団体相互の連携を進める支援を行った。	3	■成果: 第少年回珠の活性化を図ることで、第少年の確全層域を 掲載することができた。 ■ 『子だちの権利」に関連して: 第少年の確全層域を図ること で、子ともの権利の関連に関することができた。 同盟語: 第少年の機能の関係を関係的では「私、再少年の確全層域 に想要する指導者等が不足していることから、図本への加入促進 に到すて、指導的な実践行っていることから、図本への加入促進 に到すて、指導的な実践行っていることから、図本への加入促進	С	こども未来局	青少年支援至		
7				高少年団体等への情報提 供	南少年の健全育成、南少年団体活動の活性 化を図るため、南少年関係団体に情報提供を 行う。	青少年関係団体に対し、インターネットに係るフィルタリング利用の必要性や棄物も用的止 に関する情報提供を行った。	3	青少年関係団体に対し、インターネットに 係るフィルタリング利用の必要性や薬物乱用 助止に関する情報提供を行った。	3	着少年関係団体に対し、正しいメディア利用方法等、 着少年の確全な育成環境に関する各種情報提供さ行っ た。	3	■原果:南少年の建全な有点理場の実現に向け、一切を担うこと ができた。 - 『子どもの権利」に関連して:本事業の政格を通じて、社会で 子ども有てる理例の整備に同することができた。 単型部、南少年の産ど経済に関する「人ができた。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	С	こども未来局	青少年支援室		
8				大人が変われば子どもも 変わる連動	大人が地域の中で子どもを塞かく見守り、 南ていくことを基本に、「大人が安ければ 手どもも変わる連動」を推進し、青少中理全 育成を展開していく。	「大人が安われば子どもも変わる運動」を推進するため、川崎フロンバークやJF川崎研集 直するため、川崎フロンバークやJF川崎研集 口泉附近線上が「で各株物のドサキャンベーン活動を実施し、運動の周知を図った。	3	「大人が変われば子どもも変わる運動」を推 連するため、川崎フロンバークやJ F川崎駅東 口駅的広場上がいて各外側のた中ギャンベー ン活動を実施し、運動の周知を図った。	3	「大人が変わればすどもも変わる運動」を推進するため、川崎フロンバークやJR製造場ノ口駅ペテストリア ンデッキにおいて各性物の配布等キャンベーン活動を実施し、運動の向取を図った。	3	■原果・等少年の様やかな点長にふさわし、特殊認識の実現に向け、作の機能の機能な容易ととかできた。 □ 子々七の時間に「暗線して、本事事の別能を選じて、社会で 才とも名する。建物の指揮に関することができた。 車部型、より30乗の公替形と動を行えるよう、実施場所を検討す るの数7かる。	С	こども未来局	青少年支援室		
9 (19	安全・安心なまちづく りに同け、子ど生を対象 とした交通安全推進事業 等の期できた場合で 変更す。また、地域子育で 支援センターや地域教育 環境という。 変更ない。 変更ない。 変更ない。 変更ない。 変更ない。 変更ない。 変更ない。 変更ない。 を 変更ない。 変更ない。 変更ない。 変更ない。 変更ない。 変更ない。 変更ない。 を 変更ない。 変更な、 変更ない。 変更な、 変更ない。 変更ない。 変更な、 変更な、 変更な、 変更な、 変更な、 変更な、 変更な、 変更な、	26条		的犯対策事業	子どちが原理に着き込まれることなく、 地域の好でをおった時して高させるよう。 川崎市など居の姿を、全のまちろくが 自然を入りた一を中心とした地域的UVト 一小や、基学館での見守り活動等を実施する。	安全・安心まちづくり準準協議会の構成メン バー・石が実施するお別バロールについて、ベントで表示を指す。 エントで標準等の活動が回答するを発展した(平成 26年度予算額1.440円円)。また、青色回転 打装御の公用単によるバトロールを平日の毎日 実施した。	3	安全・安心走ちづくり落準間積金の構成メン バー等が原語する形型バレロールについて、ベ エトや簡単等の確認が自当等を登録した(平成 27年収予録録1400千円)。また、著色回転 打容価の公用車によるバトロールを平日のほぼ 毎日実施した。	3	安全、扱いまちパくり資産組織会の規定メンバー等内機能 する防災バトロールについて、ベストや機能等の機能や指 する実施した(押な24年度予算能、360千円)、また、 再発し路に対策の対策によるバールン中で日の近郊自 支化、「単な26年度から新たに防犯カメラ協審機能制度を 会し、「連な26年度から新たに防犯カメラ協審機能制度を もし、選挙等のに約76子ともの安全機能、貢献した。	3	■原実:地域による別別パトロールや青色目私打装商者によるパトロール等により、地域の影響性片物域は平成的、甲環と8 4 9.1774 しており、地域の影響性片物域は平成が単一であった。 ■「子との解析」に関連して、地域の別別器が単色目的では高端によるパトロール学により、安全にプレビアが開発している。 東京の「台南電」に、「東京の人間では、東京の人間では、東京の人間では、カードの人間では、大きない。」というなどは、東京の人間では、東京のりでは、東京の人間では、東京の人間では、東京の人間では、東京の人間では、東京の人間では、東京の人間では、東京の人間では、東京の人間では、東京の人間では、東京の人間では、東京のりは、東京の人間では、東京のりは、東京の人間では、東京のりは、東京の人間では、東京のりは、東京のは、東京のりは、東京のりは、東京のりは、東京のりは、東京のりは、東京のりはりは、東京のりはりはりは、東京のりは、東京のりは、東京のりは、東京のりは、東京のりは、東京のりは、東京のりは、東京のりは、東京のりは、東京のりはりはりは、東京のりはりはりはりはりはりはりはりはりはりはりはりはりはりはりはりはりはなりは	С	市民文化局区役所	地域安全推進課 危機管理担当		

	具体的な取組	条例の 条数	再揭	事業	事業概要	平成26年度実施状況	平成26年度 の達成度	平成27年度実施状況	平成27年度の 達成度	平成28年度実施状況	平成28年度の 達成度	3年間の成果と課題	3年間の自己評 価	平成28年度の所管 局	平成28年度の所管課
				交通安全推進事業	身につけられるよう、発達段階に応じた交通 安全教育を実施する。また、路面標示や電柱 要の特別 新3 労用務へのランドセルカバー	が推薦、保養圏、川中海が等におけて、412 図(45.50の人参加・年級で7年が月末晩年) 中級で3年に同じは毎年の少海・ルルク学 記、中学品、原本にあいてはスプター・ナントラ 部本とする場所、最終とありてはスプター・ナントラ 部本とする場所、最終とおりにもなった。 第本とする場所、最終とは、日本のような 選出た、新入学学園にランドセルカバーを配布 した。	3	が問題、保育機、小中高校等において、46 4日、62、550人参加・クタ連合学教室を 展覧した。中学も出ていては特定のでは、 アードストレイトが式やにより交通会学教育を アラーストレイトが式やにより交通会学教育を 行うた。また、交互を対象とし、日本他し た。 氏の学売組にランドセルカリーを影響し た。	3	初相画、何何高、小中高校宅において、460回(45)。 637 人参加)の交通を全数電を開加した。小学3年生に対 スケア・ドストレイトウエネーよりな過程を数据を23回 7クア・ドストレイトウエネーよりな過程を数据を23回 7クスールストリストルストルストルストルストルストルストルストルストルストルストルストルストルス	3	■成策:自転車のマナーについては、小学生、中学生、高校生と もに支管にですが、200 トレンによる空間等の中間を告問 けったる空間を動きの再規を告問 けったなご差を受害を制めませたしてうったアンケートから、効果の ある数差を行うことができた。 は、アメリカーには関して、対象ので働いスケアードストレイトでは、文庫等かの著書官である主技がいることもあることか 。事間に学りに関係を行うなことがある主技がいることもあることか ・事間に学りに関係でいるとなる主義を表した。 単議は、推議して中鮮的側にあいて、交流を全数を全性機に、交通 ウェールがある。というには、100円のでは、200円	С	市民文化局区份所	地域安全推進課 危機管理担当
			113	地域子育て支援センター 事業		旧公立分種圏の構設や、保育所の一室を活用した ・ 一般型と、ことも文化センターを活用した ・ 連携型の起線をすすが、 市内計ら3万所で事業を 実施した。 ・ 一般では、 一般では、 一部では、 一部では、 一の ・ 一のでは、 一のでは	3	旧公立幼稚園の協設や、菜商所の一筆を活用した一般生と、こども文化センターを活用した 連携型の監備をすずめ、内内計ら3万所で事業を 実施した。 実施した。 アカ州にこいて関係部圏の検討を行った。この 行力、担当者のスキルアップの定めの研修を全 市で実施した。	3	旧公立的相應の施設や、保育所の一管を送用した一般型 と、ことも文化センターを活用した連承型の影響をすすめ、 かなれた、3時大神で大変は、シー等編の今後の方向性につい て関係経慮の発行を行った。このほび、担当者のスキルアッ フのための指移を全市で実施した。	3	■成業:53か所で募棄を実施し、任宅の子育て支援を行った。 ■ 「アンセン海刺」に関連して、続子で安心して遊んだり相談したりできる場所を説明した。 ■ 「課題:5場合投運数などを検討し、支援の充実を認る。	С	こども未来局	企画課
			44	こども総合支援ネット ワーク会議	区内の子どもに関わる団体・関係機関によるアナウ=アカ国家を開催し、情報共有と をアナウ=アカ国家を開催し、情報共有と で支援の推進を図る。	○50の子どもに関わる団体・関系機関による そうトラーク振荡等で開催し、開発性人相互 100円 の発進を含ることが行され、そども・子育て支援	3	区内の子どもに関わる団体・関係機関による ネットワーク監督を影響し、情報特を相互 地域というとし、子にも・予報で支援 の推算を認ることができた。	3	区内の子育で・子どもに関わる団体・関係機関によるネットラークは高等を開催し、ラープショップ形式を取り入れることでは影響を開催し、ラープショップ形式を取り入れることでは影響を強化し、子ども・子育て支援の指揮を図ることができた。		■成策:全体会や研修の開催を通して、子育でやすどもの構成。 関する部を制に、力いて情味な知、支援を行った。情報料金・利益では、 原する部を制に、力いて情味な知、支援を行った。情報料金・利益では、 ができた、開催では、思考機の学させた、力がごり間からかや、 児童曲等予防に、力いてのブループ初議を通しての観光交換、アルー 児童曲等予防に、力いてのブループ初議を通しての観光交換、アルー ・データーでは、一般では、一般では、一般では、 を必要している。 を必要している。 10年との事料」に関係して、子ともが終わいてきる。 それを を行った。 10年との事料」に関係して、子ともが終わいてきる等料や他 を指かってきる。 10年との事料」に関係して、子ともが終わいてきる等料や他 を構成うとでは、 10年のであり、一般では、子とに関係 を目から、学生とのがわりた。 10年のであり、一般では、子とに関係 を目から、学生となった。 10年のであり、一般では、子とに関係 となった。 10年のであり、一般では、子とに関係 となった。 10年のであり、一般では、子とに関係 となった。 10年のであり、 10年のでかり、 10年のでかり、 10年のでかり、 10年のでかり、 10年のでかり、 10年のでかり、 10年のでかり、 10年のでかり、 10年のでかり、 10年のでかり、 10年のでかり、	С	区投资	地域みまもり支援センタ・地域ケア権重担当
			299 301 315	地域教育会議(行政区・ 中学校区子ども会議)	ිත.	7行商区子ども会議では子ども同土の交流が 関わるように互乗報告を、無反立法会などの活 数を行った。5付中学校区子ども会議でも、安全 マップキリ、川学生との交流会などは存在活動 に取り組みだ。また、行政区子とも会議は「か いたき子ども無く」に参加しる知いの意配こ いての報告したり意見交流を行った。	3	7行政区子ども会議では、子どもの文章が図 れるように定例会、区長報告会、意見文章会等 の活動を行った。51中学校区子ど会議で も、意見文章会、約2日ップドウなど様々なき 動を実施した。「かわらさ子ども集会」では行 区位子ども会談の活動解告、フリートークでの 悪鬼交流を行った。	3	7行例以子ども会議、51中学校区子ども会議では、 工実をこらした参称の活動を行った。4行政区子ども会議 旗で定時後各行っている。中学校区子ども会議 旗で定時後各行っている。中学校区子ども会議で、 ベント的公行事を影権したところと、数回の会議を権し たところがある。域で、市と行政のの子とも会議を を記録して記載を を記録して記載を	3	■成果、汁の子どら高速と行政で子ども急遽がそれでれた区勢し いたが、イベントを強して立政をし、連携を設けらなったもった。 アーマンとの発展し、は関連して、11年、12日間というようとも急遽をく さちの展展物機を大切にした場を指揮してきた。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	С	教育委員会事務局	生涯学習推進課
				地域の寺子屋事業	シニア世代の和国と経験を活かして参世代 で学ら生涯学家の拠点として、恋問ぐるみで 子ども他の学家をサポートし、子ども他の学 心間からかとないない。 では他の今子を事業」と在選手する。	市内8ヶ所でキ子様を開議し、別課後達1日の野医女後と土曜日等月1日の林路を懸行と され、大田の東京を上曜日等月1日の林路を懸行と され、大田のアンドの第七の第七の第七の第七の第七の第七の第七の第七の第七の第七の第七の第七の第七の	3	市内17ヶ所で今子を祭場は、放課後週 日の炉管支格と土曜日号か1日の4年終活能を行 とともに、気能を追して子どら途と地域の大 人、展す、開ビルフそと向上の境かりなど世 付地文法を選がた。	3	市内30ヶ所で寺子極系機関し、総理接著1回の学習 支地と1項日9月1回の4種搭動を行うとともに、活動 を選して子とた識と地域の大人。紹子、葉世代の子ども 同士の隣わりなど世代地交流を進めた。	3	■成業: 寺子便では、子どもたちと地域の大人たちとの文庫がまたが、通っている子ともたり結果くる。これでは、日本でもかっている。 日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、	С	教育委員会事務局	生涯学習推進課
(20)	不登校等の子どもの居 場所として、市民及び関 係団体との連携を図り、 ②子どもが安心してくつろ ける場所の確保や施設事 業について支援を行いま す。	27条	87	子ども夢パーク事業(不 登校児童生徒居場所事 業)	学校や塚庭・地域の中に思慮所を見出せない子どもとその保護者とともに、一人ひとりが安心して過ごせら思慮所をつくり、多様な学びや育ちを支援する。	フリースペースえんにおいて、居場所を見出 せないすどもに安心して適ごせる問場所を説明 し、保護者とともにすどもたちの多様な学びや 育らを支援した。	3	フリースペースえんにおいて、居護所を見出 せない子どちに安心して第二せる問題所を提供 し、保護者とともに子どもたちの多様な学びや 育らを支援した。	3	フリースペースえんにおいて、居場所を見出せ ない子どもに安心して過ごせる居場所を辞供し、 保護者ととちに子どもの多様な子びや育らを支援 した。	3	・ 関係で始まる「重要所を使出ない子とも」、使して 返させる組織を得することにより、子との機能を守り、自 立このはずくいる。 「「子ともの権利」に関連して、不登載の子ともに環境の優 り、必要な支援を行い、子ともの権利を守っている。 ・ 国際第一、「日本的を力」といるである。 ・ 日本のような、日本のようなと、日本のまたない。	С	こども未来局	青少年支援室
				子ども夢バーク事業(ブレーバーク事業)	子どもだちの「やってみだい」という気持 うちを大切にして、禁止事項を極か作らない、 自分で決めたり判断できるようにすることを 大切に、遊びを支援する。	遊びを制限しない子どもの自由な発想やチャ レンシ精神を刺激する場として、子どもの遊び を支援した。	3	遊びを制限しない子どもの自由な発想やチャレンジ精神を刺激する塊として、子どもの遊び を支援した。	3	遊びを制限しない子どもの自由な発想やチャレンジ精神を刺激する場として、子どもの遊びを支援した。	3	■成果: 遊びを制限せず、やりたいことにチャレンジできる場を 説明することにより、子とも自動が開助し、行動した。 ■「子ともの機力」に関連して、子ともが自分で制制し、自分を 野かにすることに寄与した。 回題: 子ともの機びを制限しないため、指導機の保守り、機関 ○日本高級後の安全機能に与りた関係を機能していくの裏があ	С	こども未来局	青少年支援室
			226	こども文化センター	児童福祉法第40条に規定する児童厚生施 設として、児童に確全な遊びを与えて、その 譲乗と始進するとともに、情報を優かにし、 もって児童の確全な青板を図る。	指定管理者等と会議等において情報交換を密 に行い、児童原生地談として児童の健全な育成 を図った。	3	指定管理者等と会議等において情報交換を密 に行い、児童等生施設として児童の鍵金な育成 を認った。	3	指定管理者等と連携し、子どもの権利に配慮し ながら、子どもが自ら育ち、学べるよう、児量原 生施設として児童の健全な育点を図った。	3	■成実: 指定管理信号と連携し、子どもの権利に起産した児童の 確立を開放を行った。 ■「子どもの権利」に関連して: 子どもが何か学ぶ階級として、 子どもの理解がを説明した。 主題: 引き始ま、子ともの理解がを説明するだけでなく、子ど もの権利に定義して大きさが得る。学べるよう、確全情域を認っ でいく必要がある。	С	こども未来局	青少年支援室
				こども文化センター事業 (中学生・高校生の居護 所づくり)	こども文化センターにおける音楽室の設理 ち行い、地域における中学生・高校生年代の 西場所づくりを促進する。	既存の普楽室を活用するなど、地域における 中学生、再校生年代の阻慮所づくりを促進し た。	3	開存の音楽室を活用するなど、地域における 中学生、高校生年代の磨選所づくりを促進し た。	3	既存の音楽室の活用、名こども文化センターにお ける中高生向け事業(中高生と乳幼児の交流事 業、職業体験等)の実施といった取組により、中 高生の利用を割300人427人により、地域における中学生、高校生世代の信場所づくり各径進し た。	3	■成果: 資本の音楽度を活用するなど、地域における中学生、高 校主年代の問題所でくりを促進した。 ■ 「子ともの無知」に関連して: 安也してくつろける思想所の確 保に鳴らし、 ■経際: 中学生、高校生活化のニーズにあった態段配乗を含め、 思想所でくりを指するの優がある。	С	こども未来局	青少年支援室
(20)	不登校等の子どもの居 場所として、市民及び関 係団体との連携を図り、 38子ともが安心してくつろ げる場所の確保や施設事 業について支援を行いま す。	27条	94	思春期問題対策事業(こともサポート旭田)	不登税、ひきこもりなどの子どもとその保 腰套が安心して利用することができるフリー スペース「こどもサポート間引」を開催し、 学校や社会生活への参加を支援する。	フリースペースこどもサポート随町を選3日 関所した他、検討会議を46日、不登校内等の 保護者名を45日。運営委託団体との定例づら 付会を45日時後し、一人ひとりに適した対象 をしながら、学校や社会参加に向けた支援を 行った。	3	フリースペースこともサポート原明を選4日 関係した他、核対会議を年5日、不登れ民等の 保護者会を年4日、歴智繁活成その定例では 仕名を年5回陣催し、一人ひとりに選した対応 をしながら、学校や社会参加に向けた支援を 行った。	3	フリースペースこともサポート限制を担4回時所した 他、検討な話を4個、不管と関係事情をの含く4個、選 と選手が必要を行った。 したりに進した対象を行いなから、学校や社会参加に向 けた支援を行った。	3	■城県、湯4日に関係を贈むした他、実施打合社会、保障者の 会、整体が最後実施し、学校が社会物に向けた支援を行った。 様で子となら場合し、実施して、実施が展覧できた対してもの 運動のをでそくもの支援についておし合い、子どもが安心してい のれる色態剤でよりを支援した。 連盟に、様々な特異を抱えている子どもの支援体制について充実 させるの変形を含	С	川崎区役所	地域みまもり支援センタ地域ケア推進担当

教育委員会事務局

■課題:子ども会議の活動がさらに活性化するためには、交流、 連携をさらに深めると共に、統一テーマのようなものを創造する ことが必要である。

牛涯学習推進課

施策の方向Ⅲ 家庭、育ち・学ぶ施設及び地域における子どもの権利保障(第3章) 平成27年度の 平成28年度の 3年間の自己評 平成28年度の所管 具体的な取組 条例の 条数 再掲 平成28年度実施状況 立成28年度の新管理 車業 **車業類亜** 3年間の成里と理算 □成り6年度宝施計2 Ⅲ成27年度宝塩は沿 ■成果:利用者数は年間のべ1,000人を超え、不登校やひきこも りなどの課題を持つ子どもの居場所として十分機能することができた。 不登校やひさこもりなどの問題を抱える子どもだちへの しつかりとした支援を行うために、スタッフの人数を引き続 き3名体料とすることで、始知の子どもの思慮がてり確保 するとともに、毎年等による支援スタッフへの研除により、 人材育成を行った。また、她の子育で支援の拠点として、 関係機能への周辺をはかるために見字会を実施。子どもに対 する支援を出版で行う体制よりと指し進めた。 子ども包括支援事業 (こまつうそとも対象に対象を発きをはいめ、 かどもサルート特別の) 第年報とと選が、「包囲がライン・ユターフルを引き続いる。 第年報とと選が、「包囲がライン・ユターフルの居の場合とは、 変えを受異し、「数型の音を包含」 ・ 「おり用門等による支速スタッフへの研 を変まを受また。 不登校や()きこもりなどの問題を抱える子と ・ 不豆枚やひきこもりなどの問題を抱える子どもたちへのしっかりとした支援を行うために、スタッフの人数を引き続き3名体制とするとともに、分野別専門家による支援スタッフへの研修を実施した。 ■「子どもの権利」に関連して:子どもの居場所として、ありの 末末の自分でいる権利が促進された。 地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当 C 3 室前区役所 ■課題: 立地的な問題から利用者に偏りがあり、より幅広く利用 していただくために、区内における認知度向上をさらに進めてい く必要がある。 ■成果: 各種啓発活動をきっかけに、公園で活動をしている市民団体との交流が進み、活動に対する理解が得られたことで定期関催を行う団体を新たに立ち上げることが出来た。 母近な公園寺を活用し、地域柱成が主体と なって「国族型び走」を実施することにより、デービルの自然が増加する。 の、デービルの自然が増加する。 では、アーデービルの自然があったのできた。 変換がアガラとはアラロトにあることのできた。 「大学のアガラとは、「大学のアラントを5000回転する」を記述されています。 「宮前区冒険遊び場ネットワーク」と協働して、ブラッシュアップ研修会、シンボジウム、 出張冒険遊び場を開催するとともに、広報リー フレットの配布を行うことで、活動支援、担い 手育成、曽及啓発を行うた。 「宮前区冒険遊灯爆ネットワーク」と協働して、ブラッ・コアップ研修会、シンボジウム、出張冒険遊び爆を開催す とともに、広報リーフレットの最和を行うことで、活動支 、担い手解成、普及啓発を行った。 ■「子どもの権利」に関連して:外遊びを通じた運動能力の向上 に寄与するだけでなく、公園で活動している団体や他の子どもの 報族といった、親见外の大人との交流をする場として、子ども 社会性獲得にも繋がり、自分を豊かにし、カづけられる権利に貢 所できた。 地域みまもり支援センター 地域ケア推進担当 201 172 冒険遊び環 3 С 99 AND (2) AND (3) 大吹でノカもしなから自由に近いに入り出せる ■成果:年度途中や年度末年度始に学校に復帰したり、中学校卒業時に進学したりするなど、子どもの社会的自立を支援することができた。 不登校の子どもが安むしていられる問題所 適助避暑教室(ゆうゆう)な、「生態が暗破なを行頭に進歩する。ま の、「自動・使力をなった」とは、「自動・使力を放入してはたり得成。 の、「自動・使力をなった」という。 の、「他のでは、」」(他のでは、「他のでは、」」」

「他のでは、「他のでは、「他のでは、」」」
「他のでは、「他のでは、「他のでは、」」」
「他のでは、「他のでは、」」」
「他のでは、「他のでは、」」」
「他のでは、「他のでは、」」」
「他のでは、「他のでは、」」」
「他のでは、「他のでは、」」」
「他のでは、「他のでは、」」
「他のでは、「他のでは、」」」
「他のでは、」」」
「他のでは、「他のでは、」」」
「他のでは、」」」
「他のでは、「他のでは、」」」
「他のでは、」」」
「他のでは、」」
「他のでは、」」」
「他のでは、」」
「他のでは、」
「他のでは、」」
「他のでは、」」
「他のでは、」」
「他のでは、」
「他ので 市内6箇所の適応指導数室を連営し、小集団 での体験活動・学習活動を通して自主性の脅威 か、自尊感情を満ぬ、学や社会への復帰につ ながるような支援を行った。また、教育相談員 の連絡会議や研修を実施し、情報の共有と相談 技能の向上を図った。平成27年度は1918 が連続登録といる。 市内6箇所の遷島指導教室を運営し、小葉団での体験 活動・学器活動を通して自主性の育成か、自尊原情を高 め、学校や社会への理解につびがよう方及単位行っ た。技た、教育相談員の連絡会議や研修を実施し、情報 の共有と相談技能の向上を図った。平成28年度は231 名が連級登録した。 総合教育センター教育相談センター 292 3 ■「子どもの権利」に関連して:子どもが安全に安心して過ごせる居場所とした。 教育委員会事務局 ■課題:適応指導教室の活動を問知し、通級する子どもたちが安心して過ごし、自己肯定感を高める活動を継続する。 ■成果: 各関係機関の不登校支援の考え方や役割を知ることがで 任つ同の位域会の解除して 不登校にかかれる各関係 機関・施設との情報交換や具体的な事例を通して、各機関で行えることや連携して取り組めることなどについて ■「子どもの権利」に関連して:子どもの置かれている様々な状況を理解し、支援につながる情報を共有することができた。 総合教育センター教育相談センター os 不合約対策連携協議会 3 C 教育委員会事務局 られた。また、相談会・進路情報説明会では、 213人の来場者があった。 意見交換をした。また、相談会・進路情報説明会では、 235人の来場者があった。 ■課題:児童生徒・保護者のニーズにあった相談や情報の提供を 継続して行う必要がある。 ■成果:毎年、子どもの権利条例のバンフレットの配布をとおして、子どもの展場所について広報することができた。 子どもの居場所についての考え方を記載した 子どもの困憊所についての考え方を犯額した条例理解のためのパンフレットは、子ども第パークについて一部隊正して、学校やことなりにセンターなどの順数や関係機関等へ配をし、子どもの短週別の大切さについて広報した。その他、毎年7世リアの解句・フナーにて子ども第パークと向でネーともの権利について展示することで、子どもの問題別である子ども多パークを高せるとして、子どもの問題別である子ども多パークを高せる。 文化センターなどの施設や関係機関等へ配布 し、子どもの居場所の大切さについて広報し 子どもの居場所につい
② ての考え方及び役割等に
ついて、広報します。 ■「子どもの権利」に関連して:バンフレットの配布をとおして、子どもの困場所についての理解を促すことができた。 3 C こども未来局 青少年支援室 た。 また、大人に向けて子どもの相談機関周知の チラシを作成し、「居場所」に悩む子どもたち を適切な相談機関へ促せるよう周知した。 ■課題:子どもの「居場所」としての施設をより多くの子どもや おとなに周知・活用してもらうためにも、引き続き条例パンフ レットを活用して広く市民に配布する必要がある。 ■成果:市民館との連携により、子ども会議や市民及び市民グループへの講話の機会を得て、子どもの権利について広報でき 子ども会議の定例会や合徳、市民館での平和・人権学習な どの機会に、子ども本人や子どもに関わる市民に対し、子ど もの権利を中心とした内容で講師を派遣して広報・啓発を 4 子どもの種利に関わる頃 かる研究会等に関わる場合を発生し、子どもの種利に関わる頃 が記載していての広報・医内の事業を発達し、子どもの種利 についての広報・医内を事業を推進する。 中心とした内容で調修を派遣して広報・医丹を ■「子どもの権利」に関連して:子どもの権利条例のDVDやマン ガ入りリーフレットなど、広報資料を対象ごとに使い分け、子ど もの権利への理解を促した。 205 3 C ことも未来局 書小年支指室 テった。 また、第5次子どもの権利に関する行動計画では居場所の また、第5次するもの権利に関する行動計画には活場がの 支援についてが重点施策の一つになっているが、パブリック コメントの案内を通じて、多くの市民に居場所の重要性を広 報した。 ■課題:市民に対する講話の機会は少なく、積極的に講師派遣を 呼びかけ、子どもの権利について広報・啓発を進める必要があった。 「かかときょともの権利の日のフというの家 「かかときょともの権利の日のフというの家 ポスターを作成し、ロースは「かから、ロ・高等 学校、 毎月間からからともの場合をは りも、71万を包含が、ボスターは、バート・ドインの りも、71万を包含が、ボスターは、バート・ドインの のが高端等が出来した。また、「物質だよ り」の特別・開発のか改成時や小の環境などでは、 エープというとそと参加・アンとは同様によった。 の年間に上げ、「権利の日事業における子ともの 毎年間に上げ、「権利の日事業における子ともの 電機所に適慮が対した機能、一十分であった。 「かわさき子どもの権利の目のごとい」の案内を主とした 権利の日事業についての5らし、ポスターを作成し、5らし はかりかり、中、多等学院、保護等でものぞとの認識を終う に対「不らむを名称、ポスターは、開催等時によりでであり を全意を指示して、また。「特別もよう、やな様によっ はまた。子とも別トークと選手し、11月20日のかでき子 ども力権がの日間に子でも多りトークでとおすりの程外 例のクイスラリーと音がケスのを用を実施し、子どもの信 場所子とどもの様をの入りなどことがよりの名様と 場所子とどもの様をのというだけ、アルターを は、また、子とも別トークと選手し、イリスのを用を実施し、子どもの信 場所子とどもの様をのというだけ、アルターと ■成果:かわさき子ども権利の日事業のちらし・ポスターの配布をとおして「子どもの居場所」について広報できた。 「かりさき子どもの権利の日のつどい」の案 内を主とした権利の日等第についてのチラシ・ ポスターを作成、小学的な意で顕教、中・高 第一等時には学教教分として合わせて84.77で8 のチランを応わした。また、保護やその治子 ともの随連続は努へ合うけせて55.549形配布し、 事業の公補・管発を行った。 その後、教育だよりへの掲載の依頼により広 報の大変と答った。 ■「子どもの権利」に認達して:「かわさき子どもの権利の日の つどい」の開催会場として子ども夢バークをPRL たり、権利の日 に子ども夢バークと連携してイベントを実施することで、子ども の機関所について広報できた。 かわさき子どもの権利の 5 日事裏 (市民向け広報・啓発) 短慮所の大切さについて広報・啓発を行う。 3 С ことも未来局 害少年专提室 ■課題:つどいへの子どもの参加を促すとともに、市民に子どもの権利と子どもの居場所について効果的に伝える工夫が必要である。 ■成果: 夢バーク通信を定期的に発行して市民に広報し、夢バークの利用を促進した。 子ども運営委員の子どもと支援委員会のお とな及びスタップの簡素で「参バークつうし 加・2 作用な、回転や公共開放にあれることを手わりて関与で本間9.50の開発行し、地域や とにより、参バーク利用の促進に解放理さる。 関する子どのよれ移攻撃効性を促進する。 ■「子どもの権利」に関連して:子どもとの協働で作成すること により、夢バーク利用の促進と施設運営に関する子どもの主体的 な参加を促進した。 指定管理者において、「夢バークつうしん」 を手作りで隔月で年間9.500部発行し、地域や 利用者、公共施設に配布した。 指定管理者において、「夢バークつうしん」を手作りで開 月で年間9,000部発行し、地域や利用者、公共施設に配布し 303 子ども夢バーク事業 (夢 バークつうしん) 3 3 С 297 こども未来局 青少年支援室 ■課題:引き続き、魅力的な紙面づくり等により、効果的な広報 を行っていく必要がある。 ■成果:子どもたちに芸術、普楽、伝統芸能、料理等に触れる機会を与え、楽しく過ごせる困憊所となった。 外部講師による芸術、音楽、伝統芸能、料理 等の連続講座を13講座(各講座おおよそ年10 回以上開講) 行い、子どもたちか楽しく過ごせ る場所を提供した。 外部講師による芸術、音楽、伝統芸能、料理等の連続講座 を14講座(各講座おおよそ年10回以上開講)行い、子ども たちが楽しく過ごせる場所を提供した。 ■「子どもの権利」に関連して:安心してくつろげる居場所の確保と自分を豊かにすることに寄与している。 С こども未来局 青少年支援室 ■課題:引き続き、子どものニーズのあった講座を実施していく 必要がある。 ■成果:市の子ども会議と行政区子ども会議がそれぞれに活動していたが、イベントを通して交流をし、連携を図れるようになっ 7行政区子ども会議、51中学校区子ども会議では、工夫をこらした多彩な活動を行った。 3行政区子ども会議で売りを行っている。中学校区子ども会議では、イベント的な行事を向 使したところと、数回の会話を使したところが ある。また、市と行政区の子ども会議は連携を 悪満した即組を行った。 7行政区子ども会議、51中学校区子ども会議では、工夫 をこらした多彩な活動を行った。4行政区子ども会議で定め 表を行っている。中学校区子ども会議では、イベント的な行 事を開催したところと、数回の会議を催したところがある。 行政区・中学校区地域教育会舗に払いて、 方政区・中学校区地域教育会舗に払いて、 た、定例会を行っているのは3つの区才と告会 は、スポーツ名との子とも会議を削削し、文 は、スポーツ名との子とも会議をで進す。 るは、アともの意見表明から動を支援す る。子ともの意見表明から動を支援す る。 299 (21) ② ける子どもの自治的な活 28条 301 かず校区子ども会議) かを理解し、その支援に 3 3 ■「子どもの権利」に関連して:市・行政区との子ども会議も子 どもの意見表明権を大切にし活動を推進してきた。 С

また、市と行政区の子とも会議は、権利の日のつどいやかれ さき子とも集会等を通して連携を意識した取組を行った。

祭めます。